



# Sysmex Sustainability Report 2018

シスメックス あんしんレポート 2018



Lighting the way **with diagnostics**

## 目次

企業理念・行動基準	2
社長メッセージ	3
シスメックスと社会との関わり	5
経営とCSR	7
長期経営目標・中期経営計画	7
CSRマネジメント	11
国連グローバル・コンパクト	24
<b>活動ハイライト1_製品・サービスを通じた医療課題解決</b>	
<b>優れた技術で</b>	
<b>マラリア・エリミネーションに貢献します</b>	25
<b>活動ハイライト2_環境への配慮</b>	
<b>長期的視点で環境保全に取り組めます</b>	27
<b>社会</b>	29
製品・サービスを通じた医療課題解決	29
責任ある製品・サービスの提供	39
魅力ある職場の実現	50
人権の尊重	66
社会貢献活動	68
<b>環境</b>	74
環境への配慮	74
<b>ガバナンス</b>	95
コーポレート・ガバナンス	95
コンプライアンス	96
リスクマネジメント	104
<b>社外からのCSR評価</b>	106
<b>2017年度実績データ</b>	109
社会性データ	109
環境データ	113
ガバナンスデータ	123
<b>会社情報／情報開示体系／編集方針</b>	125

# Sysmex Way

## Mission

ヘルスケアの進化をデザインする。

## Value

私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、  
人々への安心を追求し続けます。

## Mind

私たちは、情熱としなやかさをもって、  
自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

## 行動基準

### お客様に対して

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。  
常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

### 従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。  
自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

### 取引先に対して

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。  
相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

### 株主様に対して

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様へ安心を届けます。  
堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

### 社会に対して

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。  
環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。



## 世界の医療課題解決に向けて 優先課題（マテリアリティ）を特定

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」において「ヘルスケアの進化をデザインする。」をMissionに掲げ、医療の発展と人々の健やかな暮らしの実現に貢献することを目指しています。

当社は2018年2月に創立50周年を迎えました。創立以来、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす「検査」の分野で、患者さんをはじめとする健康を願う方々のQOL（Quality of Life）の向上のための新たな診断価値の創出や、負担軽減などに役立つ検査技術の確立に取り組んできました。現在では、検体検査分野における製品・サービス&サポートを世界190以上の国や地域にお届けしています。

また、医療を取り巻く世界の環境は大きく変化しています。高齢化が進む先進国においては医療ニーズの多様化への対応、新興国では医療インフラ整備や医療の質の向上、開発途上国では三大感染症対策などが大きな課題となっています。2015年9月には「持続可能な開発目標（SDGs）」が国連で採択され、世界共通の17の目標が掲げられました。当社はヘルスケア企業として、価値の高い検査・診断技術を提供することにより、これらの目標の達成に貢献したいと

考えています。このような中、シスメックスは、2017年5月に優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定しました。自社の事業活動で貢献できる「製品・サービスを通じた医療課題解決」に加え、「責任ある製品・サービスの提供」「魅力ある職場の実現」「環境への配慮」「ガバナンス」の5つの領域に優先的に取り組むことにより、社会課題の解決と持続可能な社会の実現に貢献していきます。

## 医療ニーズの多様化を見据えて 長期経営目標を策定

医療費抑制に向けた先進国における医療の効率化、経済発展を背景とした新興国や開発途上国における医療インフラの整備と医療の質の向上などのニーズの高まりなどにより、世界のヘルスケア市場は今後も継続した成長が期待されます。また、人工知能（AI）やビッグデータ解析など最先端技術のヘルスケア領域への応用や、分子診断技術<sup>\*1</sup>の進歩によるゲノム医療を含む個別化医療、再生医療の進展など、さらなる成長機会も見込まれています。

このような医療環境の変化や医療ニーズの多様化を事業機会と認識した上で、グループの持続的な成長とそれを支える経営基盤の強化を推進するため、2025年を最終年度

# 革新的な検査・診断技術の創出により 世界の医療課題解決を図り、 持続可能な社会の実現と企業価値の向上を 目指します。

とする長期経営目標を策定しました。新たな長期経営目標では、長期ビジョン「Unique & Advanced Healthcare Testing Company（特徴のある先進的なヘルスケアテストリング企業）」とこれに基づくポジショニングを設定しました。従来の検体検査分野からなるコア事業のポートフォリオの強化・拡充により、さらなる成長を実現します。患者さんの身近な場所で行われるプライマリケア領域（初期診療）においては、検体検査で蓄積した診断技術とITを活用することで新たなサービスを創出します。また、当社独自技術とオープンイノベーションにより獲得した技術の融合を通じた個別化医療に資する新たな診断技術の創出と、ライフサイエンス分野を中心とした事業の収益化による事業構造の変革を目指します。さらに、今後の事業活動の拡大に向けグループの戦略目標の実現に不可欠な人材の獲得・育成とともに、環境配慮、ガバナンスやリスクマネジメントなどの経営基盤の強化にも取り組んでいきます。

個別化医療においては、2017年度に遺伝子解析技術のパイオニア企業である英国のOxford Gene Technology IP Limitedをグループ企業に迎え入れ、技術基盤の強化を図りました。また国立がん研究センターと共同開発を進めてきた「がん関連遺伝子パネル<sup>\*2</sup>検査システム」を用いて行う「個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査」が先進医療の承認を受けるなど、遺伝子検査を用いて医療

水準の向上を目指しています。さらに、世界三大感染症の一つ、マラリアの排除を目指したマラリア・コンソーシアムへ参画すると同時に、マラリア検査に寄与する血液分析装置の開発など、新興国や開発途上国における医療インフラの整備と医療の質の向上に努めています。

※1 組織・体液に含まれるタンパク、DNA、RNAなどの分子を調べることで疾患を特定する技術。

※2 がんの診療上重要な複数の遺伝子の変異、増幅や融合を同時に解析できる診断薬のこと。

シスメックスは2018年に創立50周年を迎え次のステージを目指すために、革新的なヘルスケアテストリングを創出し、「診断」の価値を高め、医療により確かな安心をお届けするという意志を込め、新たなコーポレートメッセージ「Lighting the way with diagnostics」を制定しました。

検査・診断技術を革新し、未来の医療を切りひらくために挑戦を続け、中長期的な企業価値の向上と持続可能な社会の実現に貢献していきます。今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年7月

代表取締役会長兼社長 CEO

冨次 恒

## シスメックスと社会との関わり

### シスメックスの事業

シスメックスは、価値の高い検査・診断技術の提供を通じて、世界中の豊かな健康社会づくりに取り組んでいます。

#### ■ 企業理念および行動基準

▶ グループ企業理念「Sysmex Way」および行動基準についてはこちらをご覧ください。

#### ■ シスメックスの事業

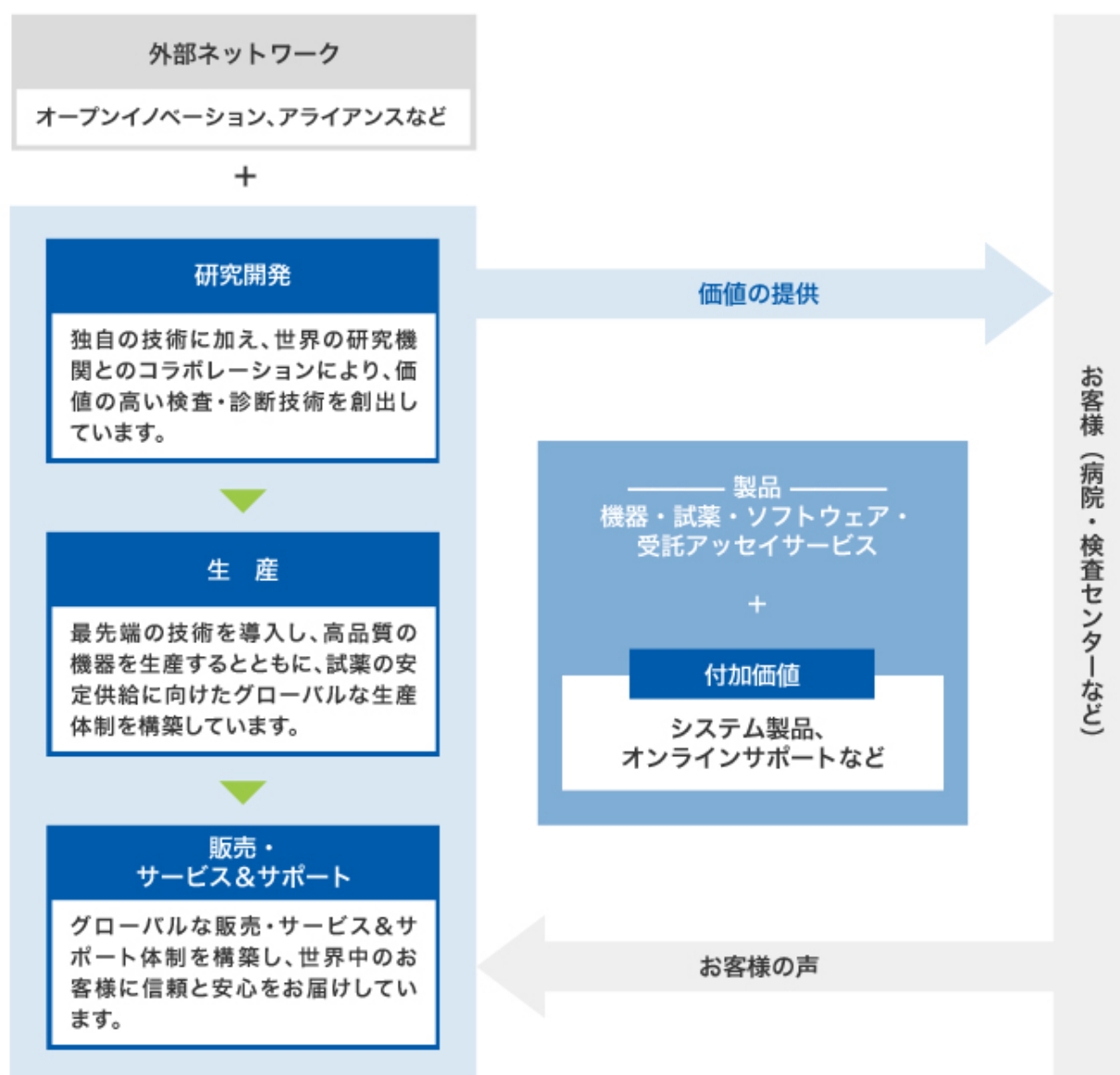
世界190カ国以上に製品・サービスをお届けしています。

#### シスメックスがカバーする主な検査分野

病院	<b>ヘマトロジー(血球計数)検査分野</b> 赤血球や白血球などの数や種類、大きさを測定・分析する検査。 [貧血、白血病、血小板減少症など]	<b>血液凝固検査分野</b> 血液を固めて傷口をふさいだり、血栓を溶かす動きを調べる検査。 [出血性疾患(血友病など)、血栓性疾患(深部静脈血栓症など)]	<b>尿検査分野</b> 尿中の糖・タンパク・血液の有無を調べ、尿路系結石の有無、腎臓の機能や糖尿病罹患の有無を調べる検査。
	<b>免疫血清検査分野</b> ウイルス、ホルモン、タンパクなどの状態を調べ、病気の原因や種類などを調べる検査。 [感染症(肝炎、エイズ)、がん、アレルギーなど]	<b>生化学検査分野</b> 代謝に関わる臓器の状態を、糖や脂質、タンパクなどの成分から調べる検査。 [糖尿病、動脈硬化、肝機能障害、腎機能障害など]	<b>ライフサイエンス分野</b> ●遺伝子検査 遺伝子の情報を解析して、がんなどの疾病の発症可能性や医薬品の適合性などを調べる検査。 ●リンパ節転移検査 がん細胞のリンパ節への転移を調べる検査。
	<b>動物病院</b> 犬や猫をはじめ、水族館のイルカや動物園の動物たちの健康管理に役立つ動物用自動血球分析装置。	<b>スポーツ施設</b> 採血せずにヘモグロビン推定値を測定でき、アスリートのコンディション管理に役立つ健康モニターリング装置。	

▶ 「こんなところにシスメックス」についてはこちらをご覧ください。

## シスメックスの事業プロセス

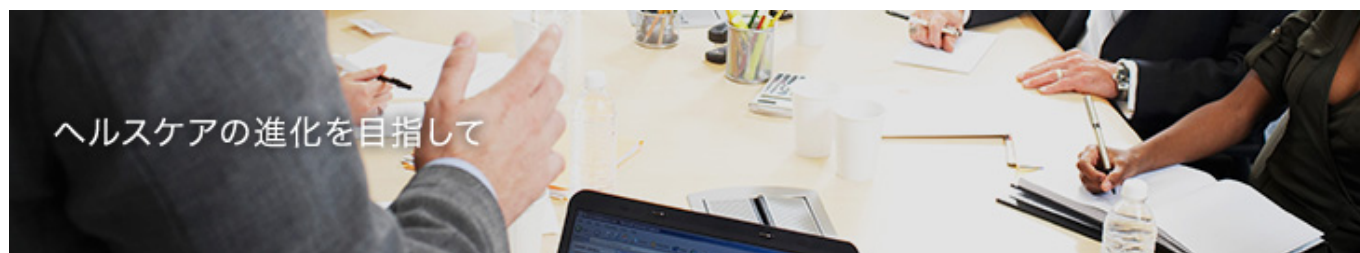


### シスメックスが優先的に取り組む課題

持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定し、アクションプランに展開しています。

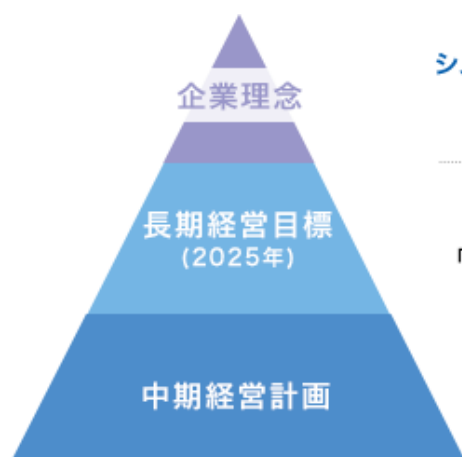
▶ マテリアリティについてはこちらをご覧ください。

# 経営計画



シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」のミッションとして掲げる「ヘルスケアの進化をデザインする。」のもと、医療の発展や人々の健やかな暮らしに貢献すべく、長期経営目標、中期経営計画を設定しています。

## シスメックスグループ長期経営目標（2025年）



シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」-ミッション-  
「ヘルスケアの進化をデザインする。」

### 長期ビジョン

「Unique & Advanced Healthcare Testing Company  
(特徴のある先進的なヘルスケアテスト企業)」

## ポジショニング

### 新たな診断価値を創出するIVDグローバルTop 5

- コア事業の持続的な成長により、グローバルTop5入りを目指す
- グローバルに成長し続ける検体検査市場におけるシェア拡大に加え、新たな診断価値を創出

### 治療を最適化する個別化診断のリーディングカンパニー

- 治療方法選択に貢献する新たな検査、診断価値を創出
- 自社測定プラットフォームとオープンイノベーションなどにより獲得した新たな技術、知見を融合

### プライマリケアの進展に貢献するソリューションプロバイダー

- 検体検査領域で培った診断技術とITを活用
- 医療アクセスの向上へ貢献するソリューションの提供



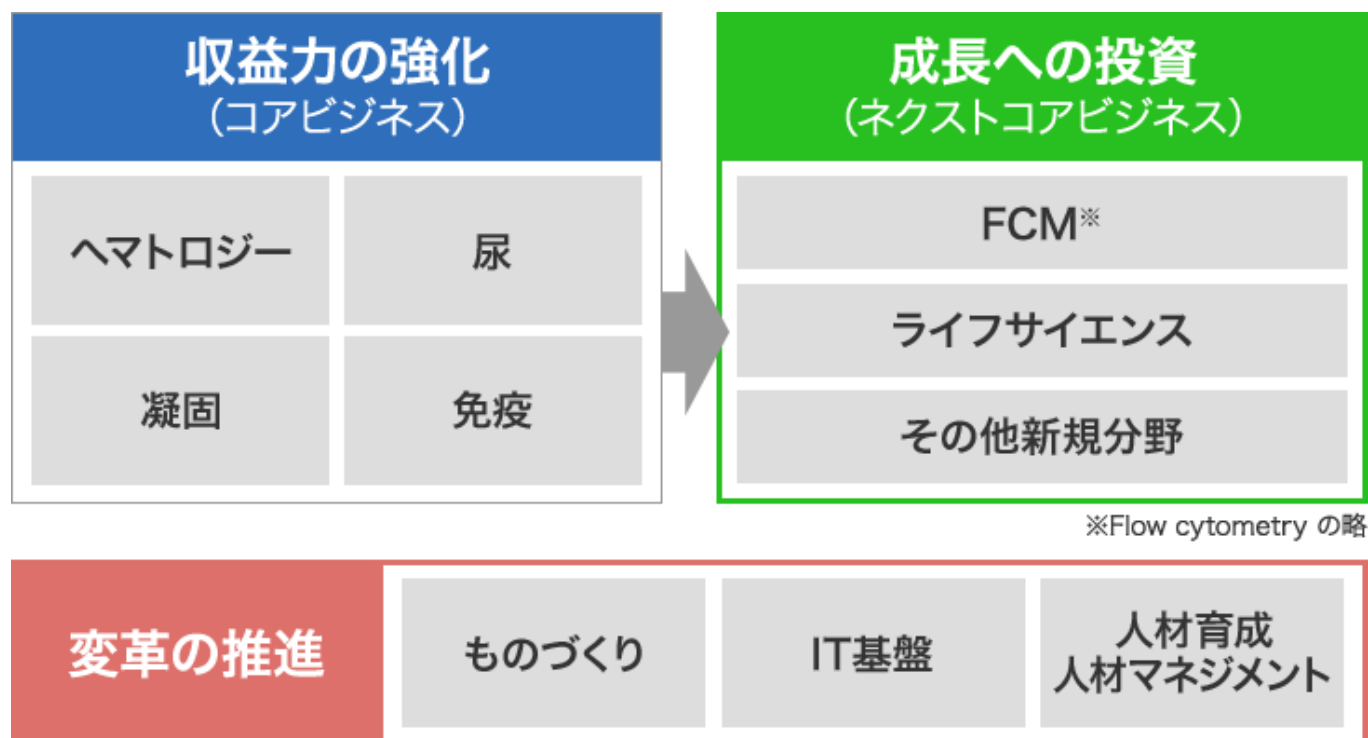
### 価値と安心を提供する魅力あふれる会社

- 独創的な技術やビジネスモデル、活力ある人材、健全かつ先進的な企業経営により、多様なステークホルダーからの支持を獲得

### スピード豊かな経営を実践するOne Sysmex

- 多様な人材が活躍できる魅力ある職場を実現
- 最高のチームワークを発揮し、高効率かつスピード豊かな経営を実践

## 中期経営計画(2018年3月期～2020年3月期)



## 収益力の強化 (コアビジネス)

- (1) **ヘマトロジー分野の市場拡大による収益力の強化**
  - ・米国における絶対的No.1の達成（西海岸販促強化、大手検査センターへの導入）
  - ・中国における2級病院以下への販促強化
  - ・新興国における高成長の実現
- (2) **新製品拡販による尿検査事業の拡大**
  - ・新たなコンセプトによる尿検査の効率的なワークフロー実現（定性+沈渣+画像+データマネジメント）
- (3) **血液凝固検査分野のグローバルシェア拡大による収益性向上**
  - ・シーメンス社とのアライアンスを活用したグローバル展開の加速
  - ・線溶系試薬<sup>※</sup>の導入加速（中国、日本など）

<sup>※</sup>血液凝固異常、血栓の検査等に使用
- (4) **免疫検査分野における日本、中国、アジアでの事業拡大と収益性改善**
  - ・肝疾患領域での事業拡大
  - ・中国、アジアにおけるユニーク項目の市場導入（肝臓の線維化検査用試薬 HISCL<sup>TM</sup> M2BPGi試薬等）
  - ・売上拡大および原価低減等による収益性の改善

## 成長への投資 (ネクストコアビジネス)

- (5) **FCM事業の基盤構築**
  - ・クリニカルFCM製品の市場導入
  - ・リサーチ・インダストリー領域での販促強化
- (6) **ライフサイエンス事業の拡大**
  - ・理研ジェネシスおよびInosticsのラボアッセイ事業の推進
  - ・クリニカルPCRの市場導入、遺伝子関連事業の拡大
  - ・OSNA<sup>TM</sup>法によるリンパ節転移迅速検査の市場拡大
- (7) **その他新規分野の事業化**
  - ・超高感度HISCL<sup>TM</sup>、子宮頸がん検査システム、グルコースAUC（食後高血糖状態モニタリングシステム）、その他新たな事業の促進

## 変革の推進

- (8) **ものづくりのスピードと質の向上**
  - ・バイオ診断薬開発・生産力の強化（バイオ診断薬拠点の設立）
  - ・お客様に信頼され続ける高い品質と安定供給体制の強化
- (9) **業務プロセス最適化を目指したIT基盤の強化**
  - ・サプライチェーンのプロセス最適化
  - ・エンジニアリングチェーンのプロセス最適化
- (10) **グループの成長を支える人材育成と人材マネジメントの強化**
  - ・次世代リーダー人材と高度専門人材の獲得および人材育成の強化
  - ・多様な人材が働きやすい職場環境の整備（ダイバーシティのさらなる推進）

### <持続可能な社会の実現へ貢献>

- (11) 製品・サービスを通じた医療課題の解決に取り組むとともに、環境への配慮、コーポレート・ガバナンスの強化、ダイバーシティの推進を通じて、多様なステークホルダーの皆さまに対してシスメックス独自の新たな価値を提供し、社会の発展に貢献していきます。

## 経営数値目標（2020年3月期）

売上高	3,500億円（CAGR※=11.9%）
営業利益	720億円（CAGR※=11.7%）（営業利益率20.6%）
ROE	20%以上
営業キャッシュフロー	550億円
フリーキャッシュフロー	300億円

想定レート：1USD=110円、1EUR=115円、1CNY=16円

※CAGR（年平均成長率）：2018年3月期-2020年3月期

# 基本的な考え方・体制

## 担当役員メッセージ

### 「Sysmex Way」の実践を通じ持続可能な社会の実現に取り組んでいきます

シスメックスのCSRは、グループ企業理念「Sysmex Way」の実践を通じて、ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けすることだと考えています。

CSRの実践にあたっては、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定し、アクションプランとして2019年度までのCSR中期計画および年度計画を展開しています。また、マテリアリティの特定やCSR中期計画の策定など、CSRに関する重要なテーマは経営会議で審議・報告し、CSR活動の企画立案や社内外へのCSR情報発信は専任部署であるCSR・環境推進部を設置し推進しています。

シスメックスはこれからも、事業活動を通じた豊かな健康社会づくりをはじめ、多様な人材が安心して能力を発揮できる職場環境の実現、深刻化する地球環境問題への対応に積極的に取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



取締役 専務執行役員 CFO  
中島 幸男

## 基本的な考え方

### シスメックスのCSRは「Sysmex Way」の実践を通じて、皆様に「安心」をお届けすること

グループ企業理念「Sysmex Way」は、企業活動の最も基本的なあり方を示したもので、シスメックスが社会に貢献し、そして成長し続けるために必要なMission、Value、Mindの3つの要素で構成しています。Missionでは、創業から取り組んできた検体検査分野を事業の核としながら、より広く、より深く人々の健康に関わるヘルスケアの領域での進化に挑戦し、豊かで、健やかな、歓びに満ちた社会づくりに貢献していくことを表明しています。

さらにSysmex Wayの「行動基準」では、お客様、従業員、取引先、株主様、社会というステークホルダーの皆様に対する具体的な提供価値を明確にしています。例えば、社会に対しては、法令遵守はもとより、常に高い倫理観に基づいた事業活動を推進し、社会の皆様が安心をお届けしていくことや、環境問題をはじめ地球や社会が抱えるさまざまな問題の解決に、社会とともに取り組んでいくことを大切にしています。

▶ [企業理念・行動基準についてはこちらをご覧ください。](#)

## CSRマネジメント体制

コンプライアンスやリスクマネジメント、環境などのCSRに関する主要テーマについては役員を委員長とする各種委員会を設置して活動を推進しています。また、CSR活動の企画・立案および推進、社内外へのCSR情報発信などを行う専任部署としてCSR・環境推進部を設置しています。

マテリアリティの特定やCSR中期計画の策定など、CSRに関する重要なテーマは、取締役が参加する経営会議にて審議・報告しています。また、社会からの期待・要請を整理して取り組み課題を洗い出し、関連部門にフィードバックすることで各部門の実行計画・活動に展開し、PDCAサイクルを回しています。

# ステークホルダーとの関わり方

## ステークホルダーとのコミュニケーション

---

シスメックスは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、事業活動がステークホルダーの要請や期待に  
応えているかを検証し、その結果をあらゆる事業活動に反映させています。

### 2017年度の主な対話実績

#### お客様との対話

- お客様満足度調査を各地域で実施
- 学術セミナーを各地域で開催
- 製品の正しい知識を伝えるユーザーグループミーティングを各地域で開催
- お客様のフィードバックを取り入れたカスタマートレーニングプログラムを各地域で開催

▶ 詳細については「責任ある製品・サービスの提供」をご覧ください。

#### 従業員との対話

- 従業員アンケート、インタビューの実施
- 全社員を対象としたキャリア設計に関する希望調査の実施（自己申告制度）※1
- 労働組合との対話を実施※2

※1 シスメックス株式会社

※2 シスメックス株式会社、シスメックス 上海、済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス ベトナム、シスメックス タイ、ハイフェンバイオメッド

▶ 詳細については「魅力ある職場の実現」をご覧ください。

#### 取引先との対話

- サプライヤー説明会の開催
- 販売代理店会議の開催

▶ 詳細については「責任ある製品・サービスの提供」をご覧ください。

#### 株主・投資家との対話

- 定時株主総会および株主懇談会を開催
- 機関投資家・アナリスト向けの技術説明会を開催
- 個人投資家向けの会社説明会、会社見学会を開催

▶ 詳細については「IR資料室」をご覧ください。

#### 地域住民との対話

- 研究開発拠点「テクノパーク」で地域交流イベントを開催
- 世界各地での社会貢献活動を通じて地域住民との対話を実施

▶ 詳細については「社会貢献活動」をご覧ください。

## ステークホルダーダイアログの開催

シスメックスでは、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定し、具体的なアクションプランに展開しCSR活動を推進しています。今回、外部有識者をお招きし当社のマテリアリティと今後CSRを推進していくにあたっての考え方や方向性について対話を行いました。

### 「当社のマテリアリティとCSRのあるべき姿」

開催日時：2017年12月19日

開催場所：シスメックス株式会社 本社

参加者：

<ステークホルダー>

國部 克彦 氏                      神戸大学大学院経営学研究科 教授

<シスメックス>

岡田 紀子                          コーポレートコミュニケーション本部長

高橋 恵美子                      コーポレートコミュニケーション本部 CSR・環境推進部長

<司会進行>

梨岡 英理子 氏                      公認会計士・税理士／株式会社環境管理会計研究所 代表取締役



國部 克彦氏



梨岡 英理子氏

## ステークホルダーのコメント（抜粋）

項目	コメント
シスメックスにおけるCSRの意義	<ul style="list-style-type: none"><li>シスメックスは医療に関わる企業であり、また阪神大震災を経験した神戸を拠点とすることから、社会における責任を意識する要素が大きい。社会から必要だと思われる会社であり続けるためには、社会のニーズを広く捉えることが重要である。</li></ul>
マテリアリティ	<ul style="list-style-type: none"><li>多くの社会課題から、なぜそれをマテリアリティとして選んだのか、なぜその活動をするのかの理由を明らかにすることが重要である。</li><li>マテリアリティは頻繁に見直すものではなく、3年程度はPDCAを回しながら活動を推進していくと良い。</li></ul>
CSR活動のKPI設定	<ul style="list-style-type: none"><li>CSR活動を推進するにあたりKPIは必要であるが、必ずしも全ての課題に数値目標を設定する必要はない。改善すべき課題にはKPIとして数値目標を設定し、改善すべき課題がない場合には目標水準の維持をKPIとするなど、メリハリをつけると良い。</li></ul>
CSRのあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"><li>CSRは取締役会で討議すべき事項として意義付け、CSRとガバナンスを結びつけることが重要である。</li><li>従業員の社会貢献活動を支援する、シスメックスの社会貢献ポイント制度は、従業員が主体的に関われるものとして、CSRを促進するための良い活動事例である。</li></ul>

## 当社のコメント

マテリアリティについてはなぜそれが重要なのかを再確認し、見直しのタイミングやKPIの設定など検討していく考えです。また今回いただいたご意見も含め広く社会のニーズを捉え、今後の活動に活かしCSRを推し進めていきます。

# マテリアリティ

## マテリアリティの検討

---

シスメックスでは、持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定しました。特定したマテリアリティは、具体的なアクションプランに展開し取り組みを進めています。

## マテリアリティの特定

---

### マテリアリティの特定プロセス

#### STEP.1

課題の把握・整理

GRIガイドライン(G4)、国連「持続可能な開発目標(SDGs)」、ISO26000などの国際的ガイドラインや、サステナビリティ評価機関の調査内容などから社会の要請事項の分析を行い、シスメックスのCSR活動の現状と照らしあわせて、関連側面を抽出・識別しました。

#### STEP.2

優先順位付け

STEP.1で識別した関連側面を「自社のステークホルダーにとっての重要度（ステークホルダーの意思決定への影響の大きさ）」と、リスク・機会の観点による「シスメックスにとっての重要度（自社が経済、環境、社会に与える影響の大きさ）」の2軸で総合的に評価し、優先的に取り組むべき最重要側面を抽出しました。

#### STEP.3

妥当性の確認、  
マテリアリティの特定

STEP.2の結果を整理したマテリアリティを、代表取締役が議長を務める経営会議で審議し、承認を得ました。

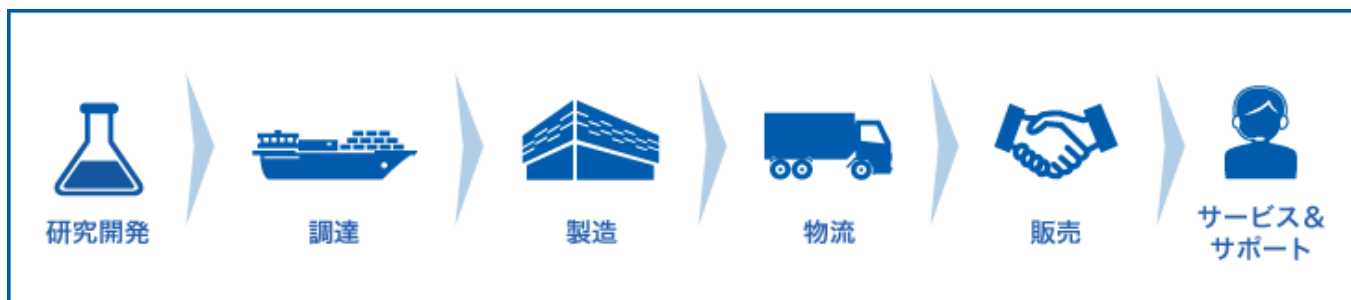


## STEP.1 課題の把握・整理



## STEP.2 優先順位付け

シスメックスの事業活動は、バリューチェーンを通じて社会へさまざまな影響を与えています。当社グループはその影響を「自社のステークホルダーにとっての重要度」と、リスク・機会の観点による「シスメックスにとっての重要度」の2軸で総合的に評価し、優先的に取り組むべき最重要側面を抽出しました。バリューチェーン全体にわたり、CSRの取り組みを推進することで社会に貢献していきます。



研究開発

### 認識している社会課題・当社への期待

先進国における高齢化を背景とした医療費削減・健康寿命の延伸や、新興国・開発途上国の人口増加に対応可能な医療インフラの整備・医療サービスの利用可能性が課題となっています。研究開発により、このようなさまざまな医療課題解決への貢献が必要と考えています。

### 主なCSRの関連側面※

- 事業活動を通じた医療課題解決
- 製品の普及等による医療アクセスの改善
- 品質・安全性の確保
- 製品ライフサイクルにおける環境配慮



## 調達

### 認識している社会課題・当社への期待

企業の責任範囲は拡大し、原材料の品質だけでなく、人権、労働慣行、環境に配慮した調達が求められています。取引先と一体となった責任ある製品・サービスの提供が重要であると考えています。

#### 主なCSRの関連側面※

- 品質・安全性の確保
- サプライチェーンの評価・管理
- コンプライアンス
- 製品ライフサイクルにおける環境配慮



## 製造

### 認識している社会課題・当社への期待

近年、品質・安全性に関する社会からの要請はさらに高まり、徹底した法令や規格の遵守、品質の高さ、安全性の確保が重要であると考えています。

#### 主なCSRの関連側面※

- 品質・安全性の確保
- 事業所活動における環境負荷低減
- 製品ライフサイクルにおける環境配慮
- コンプライアンス



## 物流

### 認識している社会課題・当社への期待

物流効率の改善によるGHG排出量削減やリサイクル率向上など、環境問題への対応が必要であると考えています。

#### 主なCSRの関連側面※

- 製品ライフサイクルにおける環境配慮



## 販売

### 認識している社会課題・当社への期待

グローバル企業として、医療課題を抱えている国や地域へ事業を展開し、課題解決へ貢献することが求められています。また、お客様満足向上の取り組みや適切な情報開示、安定的な製品供給などを通じて、お客様と長期的な信頼関係を構築することが重要であると考えています。

#### 主なCSRの関連側面※

- 事業活動を通じた医療課題解決
- 製品の普及等による医療アクセスの改善
- 製品・サービスに関する適切な情報開示
- コンプライアンス



## サービス&サポート

### 認識している社会課題・当社への期待

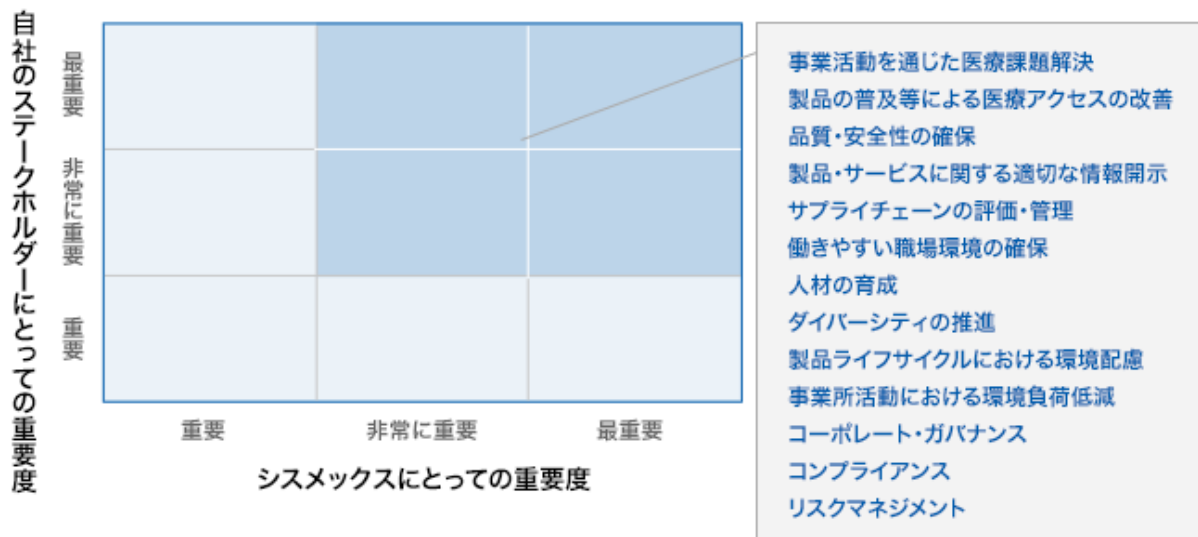
お客様満足向上の取り組みやグローバルかつタイムリーな品質情報の収集、不具合への対応、不具合情報や是正処置・予防処置のグローバルな共有などを通じて、お客様と長期的な信頼関係を構築することが重要であると考えています。

#### 主なCSRの関連側面※

- 事業所活動における環境負荷低減
- 製品・サービスに関する適切な情報開示
- コンプライアンス

※ CSRの関連側面：GRIガイドライン(G4)、国連「持続可能な開発目標(SDGs)」、ISO26000などの国際的ガイドラインや、SRIなどの評価機関の調査内容などから社会の要請事項の分析を行い、シスメックスのCSR活動の現状と照らしあわせて抽出した側面のことです。

### シスメックスのマテリアリティマトリックス



## STEP.3 妥当性の確認、マテリアリティの特定

### シスメックスのマテリアリティ

マテリアリティ	GRIスタンダード関連側面	関連するSDGsの目標
<p><b>製品・サービスを通じた医療課題解決</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動を通じた医療課題解決</li> <li>製品の普及等による医療アクセスの改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間接的な経済的インパクト</li> <li>地域コミュニティ</li> </ul>	  
<p><b>責任ある製品・サービスの提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品質・安全性の確保</li> <li>製品・サービスに関する適切な情報開示</li> <li>サプライチェーンの評価・管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーの環境評価</li> <li>サプライヤーの社会的評価</li> <li>顧客の安全衛生</li> <li>製品およびサービスのラベリング</li> </ul>	 
<p><b>魅力ある職場の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい職場環境の確保</li> <li>人材の育成</li> <li>ダイバーシティの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雇用</li> <li>研修および教育</li> <li>多様性と機会均等</li> </ul>	 
<p><b>環境への配慮</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製品ライフサイクルにおける環境配慮</li> <li>事業所活動における環境負荷低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料</li> <li>エネルギー</li> <li>水</li> <li>大気への排出</li> <li>排水および廃棄物</li> </ul>	   
<p><b>ガバナンス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレート・ガバナンス</li> <li>コンプライアンス</li> <li>リスクマネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>倫理と誠実性</li> <li>ガバナンス</li> <li>環境コンプライアンス</li> <li>腐敗防止</li> <li>反競争的行為</li> <li>社会経済コンプライアンス</li> </ul>	 

### 製品・サービスを通じた医療課題解決

#### <課題認識>

近年、先進国では高齢化を背景として、増加する医療費の削減や健康寿命の延伸に関するニーズが高まっています。一方、新興国・開発途上国では、人口の増加に医療インフラの整備が追いついておらず、世界で4億人の方が必要な医療を受けられない状況にあり※、医療サービスの利用可能性の向上が課題となっています。

また、「持続可能な開発目標（SDGs）」では、人々の健康や福祉に関する目標が掲げられ、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

これらの状況を踏まえ、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検体検査領域では、新しい価値の創出による健康社会への貢献や、世界三大感染症（HIV/AIDS、結核、マラリア）をはじめとする医療課題の解決が期待されています。

シスメックスは、事業活動を通じた医療課題解決や医療アクセス改善のための活動は、社会の持続可能性向上に貢献すると同時に、新たな技術や新規市場の創出による企業価値向上につながると考えています。

※ 出典：WHO “Universal Health Coverage”

#### <シスメックスのアプローチ>

シスメックスは創業以来、検査ニーズに応じた製品ラインアップの拡充や正確で迅速な検査データの提供に取り組むとともに、近年は、個別化医療の実現に向けた遺伝子検査など、早期発見・早期治療につながる先進的で価値の高い検査・診断技術の創出のための研究開発や、新興国・開発途上国の医療アクセス向上に向けて、現地の検査室の品質向上や医療従事者への教育活動の推進といった医療水準を高めることを目指した事業活動を推進しています。

今後もこれまで培ってきた独自の技術やグローバルネットワークを活かして、医療の発展と人々の健やかな暮らしへの貢献を目指した取り組みを進めていきます。

▶ [製品・サービスを通じた医療課題解決に関する活動実績は、こちらをご覧ください。](#)

## 責任ある製品・サービスの提供

### <課題認識>

品質・リコール問題の多発により、製品・サービスの品質・安全性に対する社会からの要請は厳しさを増しています。また、近年、企業の責任範囲は取引先を含めたサプライチェーン全体に拡大しています。

「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、製造責任に関する目標が掲げられています。

シスメックスは、人々の生命と健康に携わる医療業界でグローバルに事業を展開する企業として、製品・サービスの品質・安全性の確保や適切な情報開示、CSRに配慮した調達活動は、ステークホルダーからの信頼獲得につながる重要な活動であると考えています。

### <シスメックスのアプローチ>

シスメックスでは、グローバルでの品質マネジメントシステムを構築し、継続的な品質の維持・向上を図っています。また、きめ細かなサービス&サポート、お客様からの声を製品開発や品質改善に活用するしくみ（VOC：Voice of Customer）の構築、最新の学術情報の提供など、お客様満足向上に向けた取り組みを行っています。さらに、グローバルに事業を展開する企業として、安定的に製品をお届けする体制を強化するとともに、CSRに配慮した調達活動を推進し、取引先とともに持続的に発展することを目指しています。

今後も責任ある製品・サービスの提供を通じてステークホルダーの皆様からの信頼を獲得し、安心をお届けしていきます。

▶ 責任ある製品・サービスの提供に関する活動実績は、こちらをご覧ください。

## 魅力ある職場の実現

### <課題認識>

企業が持続的に成長するためには、ダイバーシティの推進と、働きやすく、働きがいのある魅力ある職場づくりに積極的に取り組むことが重要とされています。また、「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、ジェンダーの平等や、働きがい、不平等の是正などの目標が掲げられています。

シスメックスは、「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つと捉え、魅力ある職場づくりを進めることが優秀な人材を惹き付け、企業競争力の強化につながると考えています。

### <シスメックスのアプローチ>

シスメックスは、人材開発体系を用いた継続的・計画的な能力開発や、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、各種制度の導入などを通じて、多様な人材が安心して能力を発揮できる職場環境の整備を進めています。

今後も、持続的な成長の実現に向けて、多様な人材が能力を最大限に発揮できる職場づくりを進めるとともに、個々の成長の機会を提供していきます。

▶ 魅力ある職場の実現に関する活動実績は、こちらをご覧ください。

## 環境への配慮

### <課題認識>

気候変動の緩和をはじめ、水資源・鉱物資源などの資源利用、生物多様性の保全など、地球環境の持続可能性は喫緊の課題となっています。また、パリ協定の発効や「持続可能な開発目標（SDGs）」などにも見られるように、環境問題は全世界で取り組むべき重要課題であり、とりわけ企業が果たす役割への期待が高まっています。

シスメックスはグローバルに事業を展開する企業として、深刻化する地球環境問題への対応を優先的に取り組むべき課題の一つと考えています。また、気候変動による大規模な自然災害などは原料調達や製造機能の停止など経営上の重要なリスクと捉えています。

### <シスメックスのアプローチ>

シスメックスは、長期的な環境マネジメントの指針として、シスメックスグループ長期経営目標の策定にあわせて、2025年を最終年度とする「シスメックス・エコビジョン2025」を策定し、製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体における環境保全を推進しています。

今後も、持続的な成長と、重要な社会課題である環境負荷低減の両立に努めていきます。

▶ 環境への配慮に関する活動実績は、こちらをご覧ください。

## ガバナンス

### <課題認識>

近年、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメントに関する企業不祥事の多発と、それに伴う社会的影響がますます大きくなってきています。

このような状況を踏まえ、2015年6月には、企業に対して財務的側面だけでなく非財務的側面にも配慮した事業活動を行うことを求める「コーポレートガバナンス・コード」が施行されました。企業には、ガバナンスおよび内部統制の強化や、経営の基盤強化に向けたコンプライアンスおよびリスクマネジメント体制の強化などが求められており、シスメックスにおいてもガバナンスの強化はステークホルダーからの信頼の確保、ひいては中長期的な企業価値向上のための重要な経営課題の一つと考えています。

### <シスメックスのアプローチ>

シスメックスは、監査等委員会の設置や社外取締役による監督機能強化、取締役会の実効性向上などのガバナンスの強化を進めています。あわせて、コンプライアンス委員会や内部通報制度の設置、グループ全体でのリスクマネジメント機能強化に向けた体制の整備など、持続的な成長に向けた基盤強化に取り組んでいます。

今後も、経営の健全性、透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を目指していきます。

▶ ガバナンスに関する活動実績は、こちらをご覧ください。

## 目標と実績

2017年度目標	2017年度実績	2018年度目標
製品・サービスを通じた医療課題解決		
三大感染症蔓延防止に向けた活動推進 新興国、開発途上国の医療水準向上の支援 活動推進	産官学によるマラリア・コンソーシアムへの継続的な参画 マラリア原虫など感染赤血球項目の測定が可能な血球分析装置の開発、発売※1 モンゴルをはじめとする新興国、開発途上国での学術支援活動推進	三大感染症蔓延防止に向けた活動継続 新興国、開発途上国の医療水準向上の支援 活動推進
責任ある製品・サービスの提供		
取引先へのCSR啓発活動の実施 CSR調査項目の充実	CSR調達、海外法規制等に関する取引先説明会の実施（参加企業数：233社） GCNJ※2作成の共通SAQ※3を用いた全取引先に対するCSR調査実施（国内一次サプライヤー実施率：81%）	CSR調査対象を国内二次サプライヤーへ拡大 CSR調査実施（国内一次、二次サプライヤー実施率：80%以上） CSR調査結果を受けた国内一次サプライヤーへのフォローアップ実施
魅力ある職場の実現		
多様な人材の活用と多様な働き方の実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用率：2.0% （国内グループ会社）</li> <li>女性管理職比率：10% （シスメックス株式会社）</li> </ul>	障がい者雇用を促進するためのシスメックスハーモニー株式会社の特例子会社認定取得 <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用率：2.0% （国内グループ会社）</li> </ul> 在宅勤務制度の導入完了（登録者数131名、うち利用者99名） 女性リーダー向け教育研修実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率：8.62% （シスメックス株式会社）</li> </ul>	ダイバーシティ推進計画策定・実行 <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用率：2.2%以上 （国内グループ会社）</li> <li>女性管理職比率：12% （シスメックス株式会社）</li> </ul>
環境への配慮		
中長期のグループ環境目標の設定	シスメックス・エコビジョン2025および中期環境目標（2017～2019年度）の策定完了	エコビジョン2025の達成に向けた環境活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量の削減</li> <li>水消費量の削減</li> <li>資源循環の推進</li> <li>生物多様性の保全</li> </ul>
ガバナンス		
競争法・反贈収賄に関するコンプライアンス活動推進 取締役会の有効性評価の実施	競争法ガイドブックの改定 贈収賄防止に関する教育実施 取締役会の有効性評価の実施	グループでのコンプライアンス強化施策の推進 取締役会の有効性評価の継続と改善

※1 研究用、日本国内限定

※2 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン

※3 CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット

<http://ungcjin.org/activities/topics/detail.php?id=217>



# 国連グローバル・コンパクト

### 国連グローバル・コンパクトに参加

シスメックスは、CSRへの取り組みを積極的に推進していくために、2011年2月、「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。マテリアリティの特定やCSR活動の推進にあたっては、国連グローバル・コンパクトの10原則や、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」などを参照しています。

- ▶ 「持続可能な開発目標（SDGs）」と優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）との関連性についてはこちらをご覧ください。
- ▶ 国連グローバル・コンパクトの10原則はこちらをご覧ください。 [🔗](#)



国連グローバル・コンパクト



持続可能な開発目標（SDGs）

製品・サービスを通じた  
医療課題解決

優れた技術で  
マラリア・エリミネーションに  
貢献します

社会課題の認識

世界三大感染症の一つである、マラリアの感染者数、死亡者数はここ数年減少傾向にあるものの、年間約2億人が感染し、約45万人が死亡、アフリカでは2分間に1人、5歳未満の子どもの命が奪われています\*。

2015年に国連が採択した持続可能な開発目標 (SDGs) においても医療課題に関するものが多く含まれており、WHO (世界保健機関) では2030年までにマラリアによる死者数、発症者数を2015年比9割減少させることを目標にしています。

\*出典:「World Malaria Report 2017」

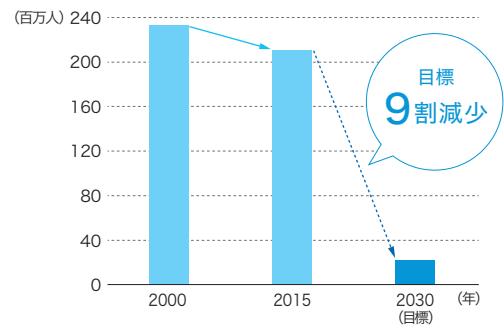
マラリア感染者数/死亡者数

感染者数/年	死亡者数/年
約2億人	約45万人

当社の医療課題解決の取り組み方針

シスメックスは、持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題 (マテリアリティ) の一つに、「製品・サービスを通じた医療課題解決」を定めました。当社の技術を活かし、検体検査の分野で三大感染症対策において貢献していく考えです。

世界のマラリア感染者数推移



データ:「World Malaria Report2010, World Malaria Report2017」より

SDGsとの関わり

国連が採択した「持続可能な開発目標 (SDGs)」では、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられています。その中の目標3「すべての人に健康と福祉を」では、以下の実現が求められています。

- 妊産婦の死亡率を低下させる
- 新生児および5歳以下の死亡率を低下させる
- エイズ、結核、マラリアなどの伝染病を根絶するとともにその他感染症に対処する
- 非感染性疾患による若年死亡率を低下させる
- 質の高い基礎的な保健サービスおよび医薬品・ワクチンへのアクセスを向上させる
- 開発途上国における保健人材の能力開発・訓練を推進する

など



## 日本にない熱帯感染症の克服を目指すパートナーシップ

日本ではマラリアの撲滅に成功し、国内での感染者はいません。しかし国外に目を向けると状況は以前とそれほど変わっていません。薬剤耐性のマラリア原虫や殺虫剤耐性の蚊が出現し、逆に感染者数や死亡者数が増えている国もあります。この状況を変え、世界の将来を担う子どもたちをマラリアから守るには予防・診断・治療の三本の矢による強い連携が必須です。シスメックスをはじめとした日本の企業が、グローバルヘルスへの貢献を目指し、優れた武器と具体的な戦略によってマラリア克服のためのコンソーシアムをリードしていることを大変心強く感じるとともに、その成果と波及効果を大いに期待しています。



長崎大学大学院熱帯医学・  
グローバルヘルス研究科教授  
研究科長

北 潔氏

## マラリア・エリミネーション(排除)への具体的取り組み

### マラリア・エリミネーションに寄与する製品の開発

シスメックスは、マラリア原虫などが感染した血液に関する情報提供が可能な多項目自動血球分析装置 XNシリーズ XN-30を開発し、発売<sup>※1</sup>を開始しました。

XN-30は、マラリア原虫など感染赤血球項目の測定<sup>※2</sup>だけでなく、その感染赤血球数の定量やマラリア原虫などの種類を示唆する情報を提供することが可能です。一般的には、マラリア原虫の種類によって治療法を変える必要があるためこれらは重要な情報です。また、体内にマラリア原虫を抱えながらも発症していない「無症候性原虫保有者」を特定することで感染の拡大を防ぐことができると考えられており、現在それらに対する技術開発を進めています。

このXN-30は基礎研究用に使用されており、大阪大学微生物病研究所では新たな抗マラリア薬の創出に活かされています。

今後、改良を加えた次機種において、臨床までの幅広い領域で活用いただけるよう各国の薬事承認取得を進めていきます。

※1日本国内限定 ※2研究用項目

### マラリア・エリミネーションに向けたパートナーシップの促進

マラリアのような世界的な課題を解決するには1社だけの力では限界があります。産官学、非営利団体や地域コミュニティなどがそれぞれの強みを活かしつつ連携し、強固なパートナーシップを結ぶことが重要となっています。

当社も2016年より産官学によるマラリア・コンソーシアムに参画しています。当社はその中で「血液検査」分野における役割を担っていきます。

またマラリア・コンソーシアムは2018年4月、アジア・アフリカにおける「マラリア・エリミネーションに向けたわが国発のP3 (Public-Private Partnership)」を日本政府に提案し、日本企業の技術を結集してマラリア・エリミネーションを目指しています。

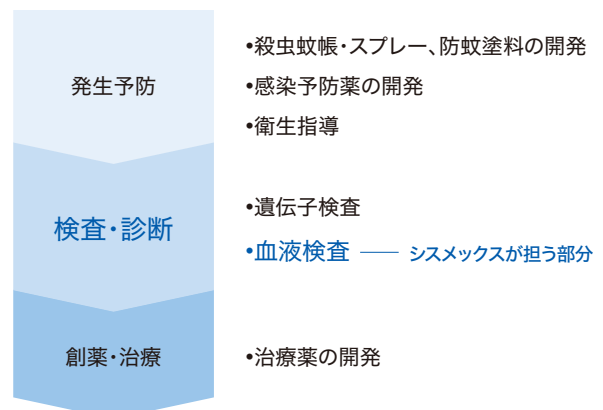
### マラリア・コンソーシアムによるイニシアチブ

XN-30の特長

1. **迅速**  
(約1分で測定)
2. **簡便、正確性**  
従来の顕微鏡検査で求められる熟練技術が不要
3. **高感度**  
マラリア原虫など感染赤血球数を20cells/ $\mu$ Lまで測定可能



多項目自動血球分析装置  
XNシリーズ XN-30



## 環境への配慮

# 長期的視点で環境保全に取り組みます

## 社会課題の認識

気候変動の抑制をはじめ、水資源・鉱物資源などの資源利用、生物多様性の保全など、地球環境の持続可能性は喫緊の課題となっています。また、パリ協定の発効や「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択などにも見られるように、環境問題は全世界で取り組むべき重要課題であり、とりわけ企業が果たす役割への期待が高まっています。

## 当社の環境活動の取り組み方針

シスメックスは、グローバルに事業を展開する企業として、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）の中に「製品ライフサイクルにおける環境配慮」「事業所活動における環境負荷低減」を定め、積極的に環境負荷の低減に取り組んでいます。

また、国際的な環境マネジメントシステムであるISO14001:2015移行に伴い環境方針を改定し、グループ全体で着実な環境活動を推進しています。

平均気温上昇  
気候変動対策 **2°C以下**

世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2°Cより十分低く保ち、1.5°Cに抑える努力をすることがパリ協定で合意されました。

世界人口の  
水不足に見舞われる人 **40%以上**

2050年には、深刻な水不足に見舞われる河川流域の人口は、39億人（世界人口の40%以上）となる可能性も予想されています。

出典：OECD Environmental Outlook to 2050(2012)

## SDGsとの関わり

国連が採択した「持続可能な開発目標（SDGs）」では、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられています。その中の目標6「安全な水とトイレを世界中に」、目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、目標12「つくる責任つかう責任」、目標13「気候変動に具体的な対策を」では、以下の実現が求められています。

- 水の利用効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取および供給を確保し水不足に対処する
- エネルギー効率の改善率を倍増させる
- 気候変動に起因する危険や自然災害に対する防災力および適応力を強化する

など



## 持続可能な社会の実現に向けて、 ライフサイクル全体にわたる環境保全を推進します

地球環境問題の解決には、中長期的な視点が不可欠です。シスメックスでは、これまでも長期環境目標を策定し、着実に環境負荷低減に取り組んできました。しかし、昨今企業に求められる環境対応への要請はより一層高まっています。このたび、2025年を最終年度とする長期経営目標を策定し、さらなる成長を目指す中で、環境への配慮についてもこれまで以上に、経済・社会とともにバランスをとりながら推進していくべきであると考え、長期環境目標を再設定しました。

2025年度の達成期限に向けた削減目標を明確にするとともに、お客様が製品を使用される際のエネルギーや水の消費量を削減するといった観点を入れることで、環境に配慮した事業活動を行っていきます。



取締役 常務執行役員

山本 純三

## 「シスメックス・エコビジョン2025」の策定

シスメックスでは長期的な環境マネジメントの指針として、シスメックスグループ長期経営目標の策定にあわせて、2025年を最終年度とする「シスメックス・エコビジョン2025」を策定しました。

これは気候変動・資源循環など環境問題に関する社会情勢やニーズ・期待、当社グループの及ぼす環境影響およびその範囲などを踏まえ、グループ全体で対応すべき目標を明示したものです。これまで以上に、開発・生産・販売・サービス&サポートなどの製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体の環境保全を推進していきます。

### エコビジョン2020<sup>\*</sup>からの主な変更点

- 環境配慮の範囲をバリューチェーンおよび事業活動全体へ拡大
- 生物多様性保全の目標を設定
- 対象とする事業所の拡大（売上高構成比80%以上）

<sup>\*</sup>2020年度を達成期限とする長期環境行動計画(2010年度設定)。  
この計画に基づく実績は「環境マネジメント」をご覧ください。

## 長期環境ビジョン

製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーンにおける、2025年度までの環境目標を設定し、地球環境の保全に取り組みます。

1. CO<sub>2</sub>排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献します。
2. 資源消費の削減と資源循環を推進し、地球資源の持続可能性向上に貢献します。
3. 事業活動と自然環境のつながりを認識し、生物多様性の保全に貢献します。

## 長期環境目標 (2025年度)



基準年度:2016年度

### 製品・サービスを通じた医療課題解決

#### 課題認識

近年、先進国では高齢化を背景として、増加する医療費の削減や健康寿命の延伸に関するニーズが高まっています。一方、新興国・開発途上国では、人口の増加に医療インフラの整備が追いついておらず、世界で4億人の方が必要な医療を受けられない状況にあり※、医療サービスの利用可能性の向上が課題となっています。

また、「持続可能な開発目標（SDGs）」では、人々の健康や福祉に関する目標が掲げられ、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

これらの状況を踏まえ、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検体検査領域では、新しい価値の創出による健康社会への貢献や、世界三大感染症（HIV/AIDS、結核、マラリア）をはじめとする医療課題の解決が期待されています。

シスメックスは、事業活動を通じた医療課題解決や医療アクセス改善のための活動は、社会の持続可能性向上に貢献すると同時に、新たな技術や新規市場の創出による企業価値向上につながると考えています。

※ 出典：WHO “Universal Health Coverage”

#### シスメックスのアプローチ

シスメックスは創業以来、検査ニーズに応じた製品ラインアップの拡充や正確で迅速な検査データの提供に取り組むとともに、近年は、個別化医療の実現に向けた遺伝子検査など、早期発見・早期治療につながる先進的で価値の高い検査・診断技術の創出のための研究開発や、新興国・開発途上国の医療アクセス向上に向けて、現地の検査室の品質向上や医療従事者への教育活動の推進といった医療水準を高めることを目指した事業活動を推進しています。

今後もこれまで培ってきた独自の技術やグローバルネットワークを活かして、医療の発展と人々の健やかな暮らしへの貢献を目指した取り組みを進めていきます。

## 事業活動を通じた医療課題解決

### イノベーション・マネジメント

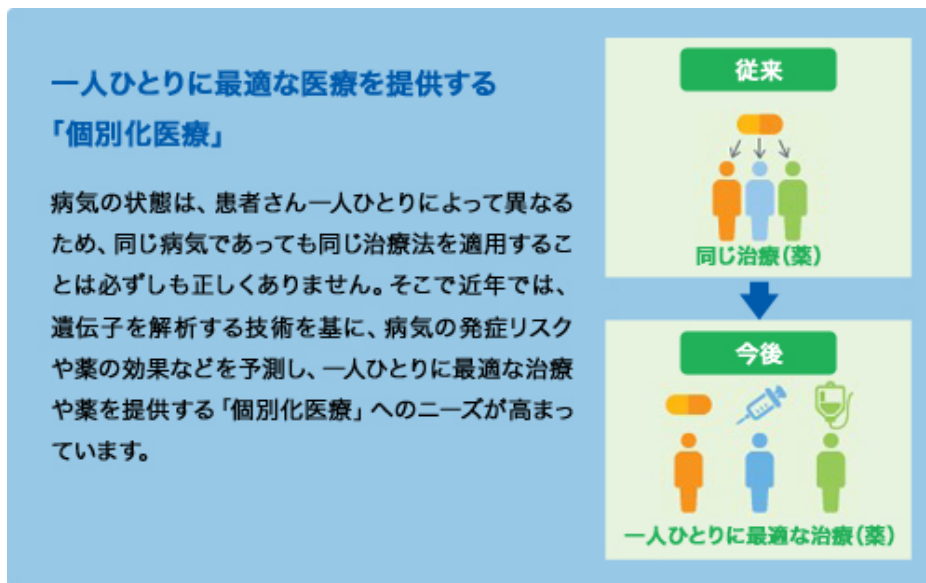
シスメックスは、医療の発展や人々の健康に貢献することを使命と考え、一人ひとりに最適な医療の実現を目指した検査・診断技術の創出に取り組んでいます。

#### さまざまな技術の融合を生み出す研究開発体制

シスメックスは、遺伝子・細胞・タンパクを分析対象とした技術プラットフォームを開発し、これらのプラットフォームを多角的に活用して、患者さんに役立つ新たな検査・診断技術を創出しています。研究開発の中核拠点であるテクノパークでは、電気、機械、生物、化学、ITをはじめとする多彩な分野の研究者および技術者が連携・協働し、お客様のニーズにお応えする機器、試薬、ソフトウェアの研究開発に取り組んでいます。また、米国やドイツなどにも研究開発拠点を設置し、グローバルな研究開発体制を構築しています。

さらに、独自の技術プラットフォームの拡充に加え、オープンイノベーションにより、国内外の研究機関や大学、医療機関とのコラボレーションを促進しています。その一環として、テクノパーク内に社外の研究者との共同研究開発を行うオープンイノベーションラボを設置し、個別化医療の実現に向けた研究開発を進めています。

#### 個別化医療について



- ▶ 「研究開発体制」の詳細についてはこちらをご覧ください。
- ▶ 「オープンイノベーション」についてはこちらをご覧ください。

## 研究開発体制に関するトピックス（2017年度ニュースリリースより）

- 理研ジェネシスが遺伝子受託解析のための「理研ジェネシスイノベーションゲノムセンター」を開設
- 個別化医療に向けた新たなビジネス領域拡大のために英国企業を買収  
～ライフサイエンス事業のポートフォリオ拡充と技術基盤強化～
- 個別化医療の実現に向けて新たな研究開発拠点を開設
- シスメックス、理研ジェネシス、三井情報によるゲノム医療における協業推進に向けた包括提携契約の締結について
- がん患者の血液中エクソソーム測定法に係わる共同研究開始について
- 日本における革新的医療開発を実現する日本発の産学連携の取り組み  
京都大学におけるワンストップバイオリソース事業の実施と「産」 in 「学」の産学連携モデルとしての株式会社KBBM設立について

## がんの早期発見・早期治療への貢献

全世界におけるがん患者は約1,750万人、がんによる死亡数は約870万人と推定されています（2015年時点）。また、2005年から2015年にかけてがん症例は33%増加しており、うち16.4%が高齢化、12.6%が人口増加、4.1%が年齢別割合の変化による増加であるとされています。国・地域による違いは大きいものの、全世界では男性の3人に1人、女性の4人に1人ががんになるといわれており、最も身近な疾患の一つとなっています。※

シスメックスは、遺伝子検査技術などを通じて、がんの早期発見・早期治療により患者さん一人ひとりのQOL（Quality of Life）向上に貢献していきます。

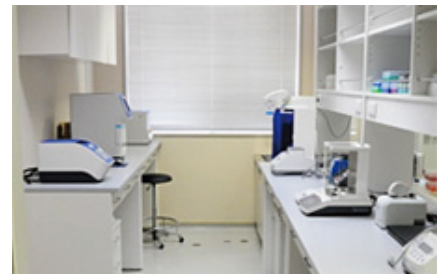
※ 出典：Global Burden of Cancer 2015

### がんの診断分野における研究開発の促進

シスメックス株式会社では国立がん研究センターと包括提携契約を締結し（2013年）、これまでに10件を超える共同開発に取り組んできました。2015年には、ゲノム医療※1・クリニカルシーケンス検査※2の社会実装を目指したがん診断分野での研究開発を加速させるために、臨床検査室に関する国際規格ISO 15189※3に準拠したラボ「Sysmex Cancer Innovation Laboratory（SCI-Lab）」を国立がん研究センター中央病院内に開設しました。

同ラボは、シスメックス株式会社の子会社で遺伝子解析に豊富な経験を有する理研ジェネシスと連携し、さまざまながんに関係するとされる約100種類の遺伝子を次世代シーケンサーで網羅的に測定する「網羅的遺伝子検査」を用いた臨床研究を実施しており、適切な治療方針や投薬の判断などへの活用が期待されています。

新たながん診断法やクリニカルシーケンス検査を一日も早く実現するために、今後も国立がん研究センターや理研ジェネシスと密に連携し、研究開発を推進していきます。



Sysmex Cancer Innovation Laboratory (SCI-Lab)

※1 遺伝子情報と病気の関係を解析し、発症リスクのある疾患の予防や、より効果的な治療の選択を可能とする医療。

※2 がんなどの疾患の診断・予防のために、疾患関連遺伝子を網羅的に解析すること。

※3 臨床検査室の品質と能力に関する要求事項を定めた国際規格。



## 個別化医療の実現に向けた研究用ラボアッセイサービス<sup>※1</sup>を提供

シスメックス株式会社は、遺伝子検査に関する研究用ラボアッセイサービスを神戸医療産業都市（ポートアイランド）内にあるシスメックス BMAラボラトリーとシスメックス IMPラボラトリーとで提供しています。

2017年12月には、子会社であるシスメックス アイノスティクスとの連携のもと、血中の微量ながん由来DNAを検出できるBEAMing技術を用いたラボアッセイサービス（研究用）をドイツ、アメリカに続いて、日本でも開始しました。これにより、日本国内の研究機関や大学、医療機関、製薬企業への検体輸送にかかる負担軽減と、より迅速な結果報告が可能となりました。

この他、乳がん組織を解析して再発予測のための研究用データを提供する「Curebest™ 95GC Breastアッセイサービス」<sup>※2</sup>などのさまざまな研究用アッセイサービスの提供を通じて患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する「個別化医療」への貢献を目指します。

※1 検体分析の受託サービス。

※2 乳がんの予後に関連する95個の遺伝子の発現量を測定する受託解析サービス。



シスメックス BMAラボラトリー

## iPS細胞<sup>※1</sup>の活用による再生医療の普及

iPS細胞を用いた移植治療には、患者本人由来のiPS細胞から作製した細胞を用いる自家移植と、ある一定の条件を満たしたドナー由来のiPS細胞（他家iPS細胞）から作製した細胞を用いる他家移植があります。

このうち自家移植は、移植用細胞の作製に膨大な時間と費用がかかることが課題とされています。一方、他家移植は、他家iPS細胞をセルバンク<sup>※2</sup>などにより管理し、標準化された工程によって、品質が担保され、安定的かつ安価な移植用細胞が作製できることから、再生医療の普及に向けて自家移植より有望視されています。しかしながら、他家移植の場合、ドナー由来のiPS細胞から作製することから、移植後に免疫拒絶反応<sup>※3</sup>を起こす可能性があり、そのため免疫拒絶反応の有無を含めた移植適合性を、移植前に確認するための新たな検査法が求められています。

シスメックス株式会社は、2016年7月に、株式会社ヘリオスおよび大日本住友製薬株式会社と、他家iPS細胞由来の網膜色素上皮細胞（RPE細胞）の移植前免疫反応検査法を確立するための共同研究開発を開始しました。当社は、ヘリオスと大日本住友製薬が共同開発する加齢黄斑変性<sup>※4</sup>などの眼疾患を対象とした他家iPS細胞由来の網膜色素上皮細胞（RPE細胞）を対象に、自社が保有するイメージングフローサイトメーターやタンパク質解析技術を用いて移植前免疫反応検査の開発を行います。この共同研究開発を通して最先端技術の実用化に取り組み、再生医療の普及に貢献します。

※1 人工多能性幹細胞（induced pluripotent stem cell）の略。ヒトの皮膚の細胞などにいくつかの因子を導入することによって作製された、さまざまな組織や臓器の細胞に分化する能力を持った多能性幹細胞。

※2 最終製品の安定的・継続的製造のため、単一の細胞から一定の方法で調整（拡大培養）された細胞が、複数の容器に分注され、一定条件下で保存されている状態のこと。iPS細胞の場合、日本人の健常ボランティアの細胞を収集する再生医療用iPS細胞ストックプロジェクトが進められている。

※3 生体が自己を守るために持っている、異物の侵入に抵抗し、これを阻止しようと免疫細胞が活性化する反応のこと。組織や細胞の移植の成否に大きく関わるため、現状では免疫抑制剤を用いるなどしてこの拒絶反応をコントロールしている。

※4 物を見るときに重要な働きをする網膜の黄斑という組織が、加齢とともにダメージを受けて変化し、視力の低下を引き起こす病気。加齢黄斑変性には黄斑の組織が加齢とともに萎縮する「萎縮型」と、網膜のすぐ下に新しい血管（新生血管）ができて、この血管が黄斑にダメージを与える「滲出型」がある。

## iPS細胞の活用による再生医療の普及に関するトピックス（2017年度ニュースリリースより）

▶ iPS細胞由来血小板製剤の実用化への貢献を目指し株式会社メガカリオンに出資

## 身体的・経済的負担の少ない検査の普及

シスメックスでは、一人でも多くの方が適切な医療を受けられるよう、患者さんの身体的・経済的負担の少ない検査の実現を目指した研究・開発を進めています。

### アルツハイマー型認知症に関する次世代診断薬の創出

高齢化に伴い、世界で認知症と診断される患者数は年々増加しています。年間990万人が認知症を発症しており、世界の認知症人口は、2015年の4,680万人から2030年には7,470万人、2050年までには1億3,150万人に達すると予測されています<sup>※</sup>。

アルツハイマー型認知症は、早期発見・早期治療により進行を遅らせることが可能であるため、早期の診断が非常に重要です。しかしながら、その診断に必要な脳画像検査や脳脊髄検査は、検査施設が少ない上、検査費用が高額であることや、患者さんへの身体的な負担が大きいことが課題とされています。シスメックス株式会社は、アルツハイマー型認知症の創薬に対する豊富な知識と技術を有するエーザイ株式会社と、認知症領域に関する新たな診断薬創出に向けた非独占的包括契約を締結しました（2016年2月）。当社は遺伝子・タンパク・細胞などの成分を高感度に測定する技術を保有しており、両社の技術・知識を活かし、認知症の早期診断や治療法の選択、治療効果の定期的確認が可能な次世代診断薬の創出を目指します。

<sup>※</sup> 国際アルツハイマー病協会「世界アルツハイマー病レポート 2015」

### 超解像蛍光顕微鏡が「2017年度 グッドデザイン金賞」を受賞

シスメックス株式会社が開発した超解像蛍光顕微鏡が、「2017年度 グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）」を受賞しました。

数十ナノメートル程度のタンパク質の形状の観察を可能とする本製品は、アルツハイマー型認知症に関するエーザイ株式会社との共同研究において活用されています。

本来の性能に加え、従来の超解像蛍光顕微鏡に比べ専有面積が小さく、また専用の暗室など特殊な環境を不要としたことにより、これまで導入が困難であった施設での利用が可能となったこと、またシンプルでありながら先進性を感じさせる外観などが高く評価され、受賞対象の中で特に優れたものとしてグッドデザイン金賞に選出されました。



超解像蛍光顕微鏡

### 製品ラインアップの拡充による製品のさらなる普及

シスメックスは、血液検査、尿検査、免疫検査の分野で世界190カ国以上に製品・サービスを提供しています。先進国における医療の高度化、新興国における医療インフラの整備など、グローバルで検査に対する需要は年々増加し、検査室の規模・処理検体数・臨床検査技師数などの施設特性に応じて、生産性を向上させるシステム製品へのニーズが高まっている中、シスメックスは、製品の小型化や迅速化、モジュラーコンセプト<sup>※</sup>の採用などを通じて、お客様の環境に応じた多彩な組み合わせやシステム提案を行っています。

<sup>※</sup> 個々の製品を組み合わせることで、多様な製品を生み出すことが可能。また、検体数に合わせて自由自在に増やすことも減らすこともでき、お客様の要望に合わせた提案が可能。

## 製品・サービスのトピックス（2017年度ニュースリリースより）

- 尿定性検査分野のコンパクトモデル「半自動尿化学分析装置 UC-1000」を海外市場に発売
- ヘマトロジー分野のフラッグシップ製品XNシリーズ ラインアップ拡充  
～省スペース化により検査業務のさらなる生産性向上を実現～
- 抗凝固療法モニタリングの主要検査項目プロトロンビン時間の測定試薬「レボヘム PT」を発売  
～国産初のカイコで量産したリコンビナントタンパク質を用いたPT試薬～
- 凝固第Ⅷ因子定量試薬「レボヘムFⅧⅢ 合成基質」を発売  
～血友病Aの診断・治療補助に貢献～
- OSNA™法による非小細胞肺がんのリンパ節転移検査が保険適用
- ヘマトロジー分野の新製品が全自動の血球計数装置として初のCLIA Waiver認証を取得
- 血中循環がん関連遺伝子変異を解析する「OncoBEAM™受託アッセイサービス（研究用）」をドイツ・アメリカに加え日本でも開始
- 「研究用全自動高感度免疫測定装置 HI-1000」を発売  
～リキッドバイオプシーによる個別化医療を目指した新たなバイオマーカーの研究開発を促進～

# 製品の普及等による医療アクセスの改善

世界には貧困問題や、医療環境・医療制度・医療供給システムの未整備などにより、適切な医療を受けることが困難な地域が存在します。

シスメックスは、グローバルに事業を展開する企業が果たすべき責務の一つとして、一人でも多くの方が適切な医療を受けられるよう、医療アクセスの改善に向けた取り組みを進めています。

## 三大感染症への取り組み

---

三大感染症と呼ばれる、HIV/AIDS、結核、マラリアは、多数ある感染症の中でも世界規模で長期にわたり流行している感染症で、毎年約300万人もの命を奪います。近年、治療薬やワクチンの普及により、感染規模は縮小しつつありますが、経済的理由や社会的・文化的な背景により、貧しい方や社会的に弱い立場におかれた方にまで予防・治療の医療サービスが届いていないのが現状です。また、健康を害することは、労働力の減少や、生産性の低下、医療費の増大などにつながり、経済成長にも影響を及ぼします。<sup>※</sup>

シスメックスでは、これまで培ってきた臨床検査における検出技術を活かし、診療の判断材料に寄与する製品の開発を進めるとともに、産官学と連携した取り組みを推進することで、三大感染症の解決に貢献していきたいと考えています。

<sup>※</sup> 出典：グローバルファンド日本委員会／三大感染症を知る

## マラリア排除に向けた取り組み

三大感染症の一つであるマラリアはここ数年減少傾向にありますが、世界で毎年約2億人が感染し、約45万人が死亡しており<sup>※1</sup>、死亡者数の9割以上を占めるアフリカでは、5歳未満の子どもの命が2分間に1人のペースで奪われています<sup>※2</sup>。シスメックスはマラリア排除に向け、自社の事業分野である検査・診断領域において、医療へのアクセスを改善するための活動を推進しています。

▶ 詳細は活動ハイライト「優れた技術でマラリア・エリミネーションに貢献します」をご覧ください。

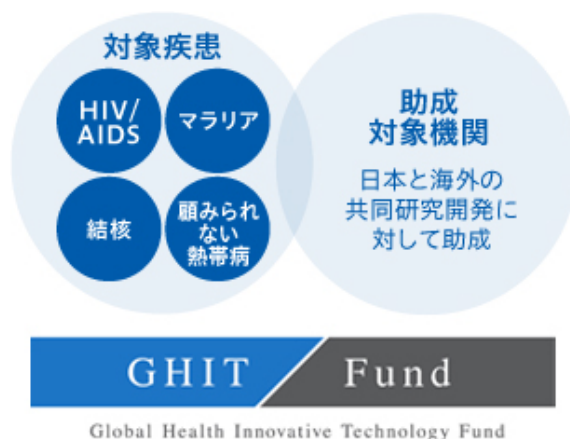
<sup>※1</sup> 「WHO World Malaria Report 2017」

<sup>※2</sup> Malaria.org.uk

## グローバルヘルス技術振興基金「GHIT Fund」に参画

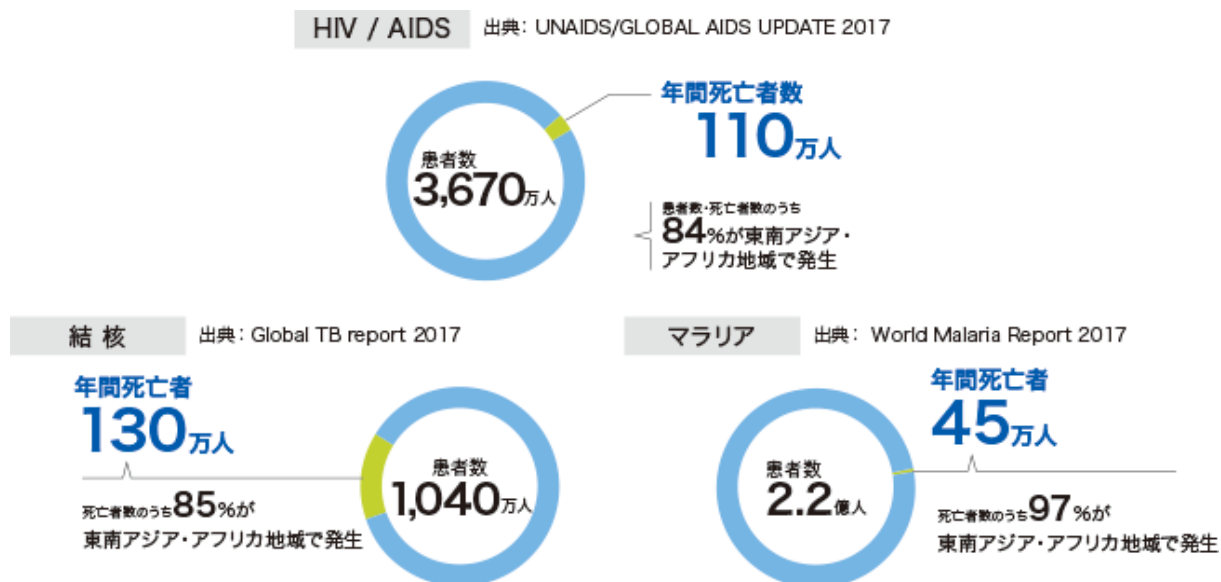
シスメックスは、新興国や開発途上国における感染症の診断に寄与するため、マラリア、デング熱、HIV/AIDSなどの検査技術の創出・製品の開発に取り組んでいます。

また、「開発途上国の人々が感染症による苦難を乗り越え、先進国と同様に繁栄と長寿社会を享受できる世界を目指す」を活動のビジョンとする公益社団法人「グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）」に2015年より参画しています。GHIT Fundの活動は第2期目（2018～2022年）に入り、当初の「製品開発」から「その製品を必要としている人々へ届ける活動」にシフトしています。シスメックスも引き続きGHIT Fundの第2期の活動に参画し、日本発の技術革新による新たな感染症診断薬の開発・提供に向けた取り組みを推進し、開発途上国における感染症撲滅に貢献していきます。



GHIT Fundの枠組み

## 三大感染症の年間死亡者数（2016年）



## 移動検診車「モバイルラボ」寄贈による医療機会の提供

電気設備などのインフラが整っていない地域においては、先進国に提供している製品・サービスをそのまま使用することができないため、地域・人々のニーズにあった製品・サービスの提供が求められています。また、医療に関する知識が不十分で、検査や治療の効果が理解されていない地域もあり、患者さんへの教育・啓発も重要な課題の一つとされています。

2016年にケニアで開催されたアフリカ開発会議（TICAD VI）では、移動検診車「モバイルラボ」※1を出展し、それを母子保健や感染症対策に関する啓発活動を行う「ビヨンド・ゼロ・キャンペーン」※2に寄贈しました。モバイルラボの導入により、定期的な巡回診療と患者さんへの教育・啓発活動を行うことで、感染症の早期発見・早期治療を通じた感染症死亡率の低下を目指しています。

シスメックスは、これからも一人でも多くの方に適切な医療をお届けするとともに、患者さんの健康への関心を高めることで、世界の医療課題解決に寄与していきたいと考えています。



モバイルラボ

- ※1 豊田通商株式会社および日野自動車株式会社とシスメックス株式会社との共同出展。
- ※2 2014年1月にケニアのケニヤッタ大統領夫人が立ち上げた、母子保健や感染症対策に関する啓発活動。政府への働きかけや国民への啓発活動に加え、移動式診療所の全国配備を目指し、大統領夫人自らの主宰によるチャリティ・マラソンなどを行っている。

## 母子健康改善プログラムへの協力

シスメックスは外務省の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」において、在ガボン日本大使館が実施する『ランバレネ地方母子保健局機能拡充計画』に協力し、当社製品の設置や医療従事者への研修を行いました。産前検査をはじめとする貧困層・庶民層の妊産婦の無料検査の機会増加により、母子の健康改善に貢献しています。

## 現地の医療水準の向上を支援

シスメックスでは、アジアにおける医療インフラの整備や医療水準向上の一環として、中国、モンゴル、カンボジア、ミャンマー、タイ、フィリピンの6カ国の検査の質の向上支援を行ってきました。さらに、アフリカではナミビア、ザンビア、ジンバブエにおける検査室の品質管理支援や医療従事者への教育支援を行っています。

### 国際協力機構（JICA）と協同で国際基準に適合した臨床検査室の品質管理支援を推進

シスメックスは、医療人材および医療インフラの不足とともに医療の質確保が課題とされているアフリカ ナミビア共和国において、検査室の品質向上の支援を行っています。

具体的には、ナミビア政府の下で臨床検査事業を行うNamibia Institute of Pathologyの施設に対して、国際基準に適合した臨床検査室の運営を目指した品質管理システム運用マニュアル「Sysmex Quality Guidance Manual」を用いたメンターシップ※プログラムを提供しています。

アフリカ地域では、これまでザンビア保健省とジンバブエ保健省においても同様の取り組みを通じて検査室の品質向上支援活動を展開しており、これらの実績を布石として、アフリカの近隣諸国への水平展開を図っていきます。



検査室でのオペレータートレーニング  
(ナミビア共和国)

- ※ 人を単に管理するという発想でなく、組織の方向性や価値観を明確にした上で、事業に関わる全ての人の成長と成功を追求し、人を動機付け、能力を向上させていくように導く姿勢やスキル、また、そのしくみによって組織を活性化していくマネジメントのこと。

### 臨床検査の標準化・質向上に向けて学術支援活動を展開

シスメックス株式会社はこれまで、中国やモンゴル、カンボジア、ミャンマー、タイ、フィリピンの政府機関と臨床検査の質向上を目的とした学術支援活動に関する契約を締結し、支援を行ってきました。

近年モンゴルでは、白血病などの血液疾患の診断、治療、経過観察に必要な不可欠な「血液形態検査」に関するノウハウの蓄積や標準化が社会課題の一つといわれています。シスメックス株式会社は、これまでのヘマトロジー・生化学・免疫分野での支援活動が評価され、2017年7月から支援対象を血液形態検査分野にも拡大しました。現地の臨床検査技師に、技術的、学術的ノウハウを提供するとともに、国家的に実施される血液形態検査の外部精度管理のしくみの構築・運営を支援することで、モンゴルの医療水準の向上への貢献を目指します。

当社では、今後も、新興国・開発途上国における臨床検査の標準化や質向上を目指した取り組みを推進していきます。



## 医療従事者への教育支援

医療アクセスの向上には、医療インフラの整備とともに、適切に訓練を受けた医療従事者の存在が不可欠です。シスメックスは、臨床検査室の品質向上や臨床検査の標準化・質向上を通じた教育支援に加え、医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会の開催、最新の学術情報の発信などを実施しています。

▶ [カスタマーリレーションについてはこちらをご覧ください。](#)

マテリアリティ

## 責任ある製品・サービスの提供

### 課題認識

品質・リコール問題の多発により、製品・サービスの品質・安全性に対する社会からの要請は厳しさを増しています。また、近年、企業の責任範囲は取引先を含めたサプライチェーン全体に拡大しています。

「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、製造責任に関する目標が掲げられています。

シスメックスは、人々の生命と健康に携わる医療業界でグローバルに事業を展開する企業として、製品・サービスの品質・安全性の確保や適切な情報開示、CSRに配慮した調達活動は、ステークホルダーからの信頼獲得につながる重要な活動であると考えています。

### シスメックスのアプローチ

シスメックスでは、グローバルでの品質マネジメントシステムを構築し、継続的な品質の維持・向上を図っています。また、きめ細かなサービス&サポート、お客様からの声を製品開発や品質改善に活用するしくみ（VOC：Voice of Customer）の構築、最新の学術情報の提供など、お客様満足向上に向けた取り組みを行っています。さらに、グローバルに事業を展開する企業として、安定的に製品をお届けする体制を強化するとともに、CSRに配慮した調達活動を推進し、取引先とともに持続的に発展することを目指しています。

今後も責任ある製品・サービスの提供を通じてステークホルダーの皆様からの信頼を獲得し、安心をお届けしていきます。



## 品質・安全性の確保

### 品質・安全性に関する方針

---

シスメックスでは、「品質方針」「行動基準」および「シスメックスコーポレーション品質コンプライアンス方針」に基づき、国際的な法令、規格などを遵守するための体制を整備し、活動しています。

#### 品質方針

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、  
豊かな健康社会づくりに貢献します。

#### 行動基準

1. お客様のニーズを把握し、お客様の期待を超える製品やソリューションを提供します。
2. 品質とは顧客満足であるという認識のもと、お客様の立場に立って行動します。
3. お客様に安心していただくために、徹底した品質保証とあらゆる業務における質の向上に努めます。
4. 独創的な新しい技術とナレッジによって、新たな価値を創り続けます。
5. 使用される国または地域の法令、規格等を遵守し、安全な製品を提供します。
6. 品質マネジメントシステムの有効性を維持するとともに継続的な改善を図ります。
7. 品質方針から品質目標を設定し、目標達成に向けて計画的に取り組みます。

2007年5月改定

## 品質マネジメント

---

### グローバルな品質マネジメントシステム

シスメックスが展開している全ての生産拠点※で国際規格ISO 9001またはISO 13485の認証を取得しています。

また、国内外のグループ会社から品質管理の担当者が参加する「グローバルRAQA（レギュラトリーアフェアズクオリティアシュアランス）会議」を定期的開催してグループ全体での品質情報の共有と体制強化に取り組んでいます。

※ 100%子会社



グローバルRAQA会議

## 継続的な改善プログラム

---

### 品質を維持・向上するためのしくみを強化

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守る上で極めて重要な役割を果たしています。そのため、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全規格を満たすことはもちろん、さまざまなしくみを構築して、製品品質の維持・向上を図っています。

製品の開発プロセスにおいては、市場に導入するまでに5つの「クオリティ・ゲート」を設けて品質を確認しています。また、シスメックスが販売する他社製品についても製造業者への監査や製品の検査を実施し、品質確保に努めています。このような取り組みに加えて、万一不具合などがあった際には、すぐにそれを把握し、対応できるような体制を整えています。

製造現場においては、製造工程およびサプライヤーの不適合発生状況を毎月監視し、不適合率の高いサプライヤーに対しては品質改善を適宜指示するとともに、定期的に品質監査を実施することで品質を確保する体制を整えています。さらにグローバル品質苦情処理システムによって、グローバルかつタイムリーに市場から品質情報を収集し、不具合情報を入手した際は直ちに原因を究明し、不具合品の市場流出を防止しています。このような不具合情報や是正処置・予防処置はグローバルに共有し、製品品質の維持・向上に役立てています。

## 従業員へのトレーニング

---

### 品質・安全に関わる教育に注力

シスメックス株式会社では全従業員を対象とした品質方針教育に加えて、特定の部門・職種を対象とした基本的・専門的な品質教育を実施しています。2017年度は製造販売担当の安全管理従事者に対し、健康被害発生の原因となる「安全管理情報」の収集および取扱方法を正しく理解することを目的としたGVP（Good Vigilance Practice）教育を実施しました。また、世界190以上の国や地域で製品・サービスを展開している企業として、開発部門の技術者に各国の法規制の教育を実施し、法規則に則った製品開発を徹底しています。



集合教育の様子

## 製品・サービスに関する適切な情報開示

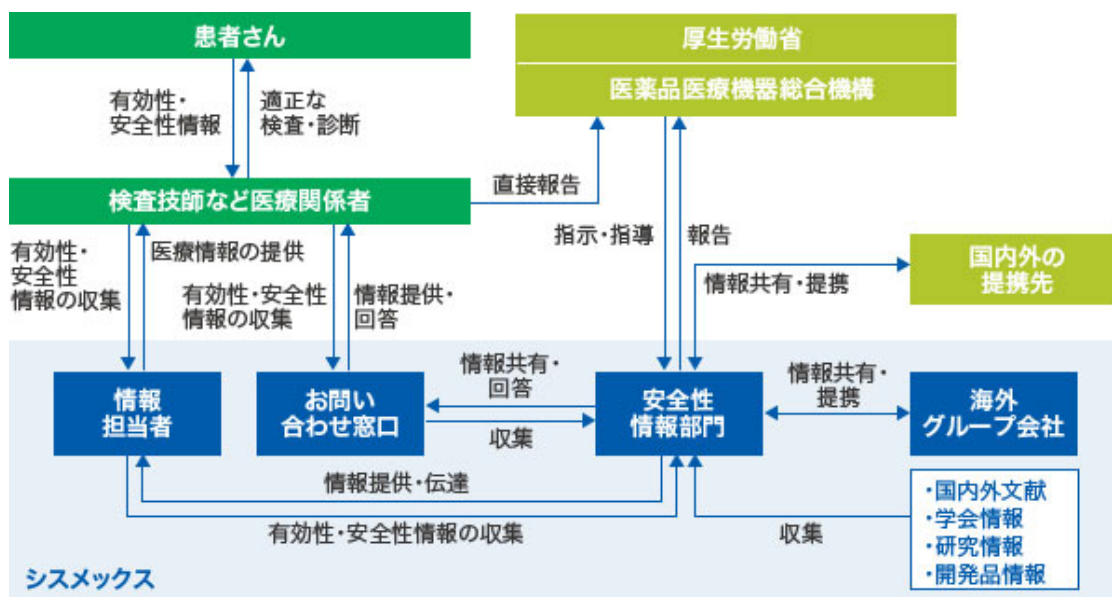
### 品質・安全性に関する情報

#### お客様からの情報をグループ内で共有

製品の品質と安全性はメーカーとしての信頼性の確保に直結することはいうまでもありません。

シスメックスは安全性情報部門を設置して外部から寄せられるさまざまなお問い合わせに対応するとともに、その情報を調査・分析して設計・製造など各部門と共有し、品質改善だけでなく、次代を担う新製品の開発に活かす体制を整えています。

製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



#### ウェブサイトでの回収・改修の情報を開示

シスメックスでは、製品の回収・改修などの情報を当社ウェブサイト内「製品に関する重要なお知らせ」で開示しています。

- ▶ 「製品に関する重要なお知らせ」についてはこちらをご覧ください。

#### 模倣試薬の積極的な取り締まり

シスメックスは、正確な検査結果を保証するために、医療機関のお客様には純正の機器と試薬のセットでご使用いただくようお願いしています。近年、一部の地域でシスメックス製試薬の名称や容器の形状を模倣した試薬の流通が発見されています。模倣試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が保証できず、場合によっては患者さんに健康被害をもたらす危険性があります。

このため、模倣試薬の市場流通状況を継続的に監視しており、模倣試薬を発見した場合は、知的財産権を用いて現地の行政機関や司法機関を通じて迅速かつ徹底的な取り締まりを実施しています。また、現地の新聞に広告を掲載し、医療機関が模倣試薬を使用しないよう注意喚起しています。

## サプライチェーンの評価・管理

### 行動基準

---

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様とともに発展する企業を目指します。

### サプライチェーンマネジメント

---

#### サプライチェーンにおけるCSR調達の推進

シスメックスでは、調達は事業活動の基盤を支えるものであると位置付け、行動基準に準拠した「調達方針」を定め、これに基づく取引先の選定、サプライチェーンマネジメントの構築に取り組んでいます。また、調達活動における環境配慮の基本的な考え方としては「グリーン調達基準」を制定しています。

2015年3月にはサプライチェーンにおける強制労働や児童労働、人身取引、搾取などの撲滅を規定した「英国現代奴隷法」が発効したことを受け、シスメックス UK がホームページに声明文を公開するなど、同法に適正な対応をしています。

- ▶ [グリーン調達についてはこちらをご覧ください。](#)
- ▶ [「英国現代奴隷法」の対応についてはこちらをご覧ください。](#)（シスメックス UKホームページ）

#### 調達方針

シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」で定める「ヘルスケアの進化をデザインする」というMissionのもと、公平・公正を基本とした調達活動を行い、取引先の皆様に安心をお届けします。また相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業を目指します。我々は、法令や契約の遵守とともに高い倫理観のもと、ヘルスケア分野で事業展開する企業にふさわしい品質の部品・原材料の安定調達を行い、世界中のお客様に安心してご使用いただく製品をお届けできるよう、本方針に従い活動していきます。取引先の皆様には、下記7項目において、将来の価値の創造、改善につながる取り組みを期待しています。

お取引先様へのお願い

1. ヘルスケアにふさわしい品質
2. 継続的な供給体制の構築
3. ヘルスケアの発展に貢献できる技術力
4. 安定した経営基盤とBCP（事業継続計画）体制の構築
5. 各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進
6. 地球環境保全に向けた環境マネジメントの推進
7. 適正価格での供給と積極的な価格低減活動の実施

2014年3月改定

## CSR調査の実施

シスメックス株式会社では、取引先におけるCSR活動を確認するために既存および新規の取引先の現況を調査しています。2017年度に対象となったのは、既存取引先約230社及び新規取引先3社です。

既存取引先向けの調査は2017年度より、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンで作成された共通版CSR調査票を採用し、調査項目は人権、労働慣行、腐敗、環境、紛争鉱物など多岐に及びます。（詳細は共通版CSR調査票PDF参照）

新規取引においては、CSRの取り組みに問題がある場合は取引を実施しないことを定めており、CSR調査に加えて経営者との面談も行います。

こうした取り組みは海外の取引先についても同様であり、特に児童労働や職場環境については調達担当者が現地を訪れて状況を確認し、問題がないかを確認しています。

▶ [グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 共通版CSR調査票「CSR調達 セルフ・アセスメント・ツール・セット」](#)はこちらをご覧ください。

## 調達部品・原材料の品質向上に向けて

シスメックス株式会社では、品質に関する要求事項を明確にした品質保証協定書を提示し、当社の調達方針についてご理解いただいた上で契約を締結しています。納入品の品質確認を行い、是正や予防措置の実施が必要と判断された場合に品質監査を実施しています。

新規の取引先に対しては品質監査を実施し、品質管理が適切に運用されているかどうかを確認しています。

## サプライチェーンでの連携

当社の事業の方向性や調達方針をご理解いただいた上で取引ができるよう、取引先との関係強化に努めています。

2017年度は国内の主要な取引先に対して、サプライヤー説明会を開催し、調達方針や当社のCSRの取り組み、最新の海外法規制動向などのCSRに関する説明を通じて相互理解と関係強化に努めています。



サプライヤー説明会

## 調達関連法規制遵守を目指した社内啓発活動

シスメックス株式会社では、電子調達システムを構築し、不当な代金減額や返品を防止するとともに、同システムに関する研修を毎年実施しています。また、全調達部門員を対象として下請法に関する教育を実施し、さらに新規配属者を対象として「調達方針」「CSR」「グリーン調達」「調達リスク」に関する教育を実施しています。

# カスタマーリレーション

## お客様満足度の向上

---

### 国内外でお客様満足度調査を実施

シスメックスではさまざまな国や地域でお客様の満足度調査を実施しています。いただいたご意見やご要望は関係各部門にフィードバックし、日々の事業活動に活かしています。

シスメックス アメリカでは、血液検査機器をご購入いただいた全てのお客様に対して、毎年自社で満足度調査を実施しています。2017年度は97%のお客様が「満足している」という結果になりました。また、血球分析装置メーカーを対象としたお客様満足度調査「IMV Service Track」（IMV社主催）では17年連続No.1を獲得しています。

シスメックス 上海では、2017年度に約2,300の病院を対象に中国全土でお客様満足度調査を実施し、アフターサービスの質や迅速な対応など複数のカテゴリにおいて高い評価をいただきました。

その他EMEA※やアジア・パシフィックでも定期的にお客様満足度調査を行っています。

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

## サービス&サポートの充実


---

### お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

シスメックス株式会社では、日本国内のお客様のための相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、365日24時間体制（別途契約が必要）でお問い合わせに対応しています。同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。

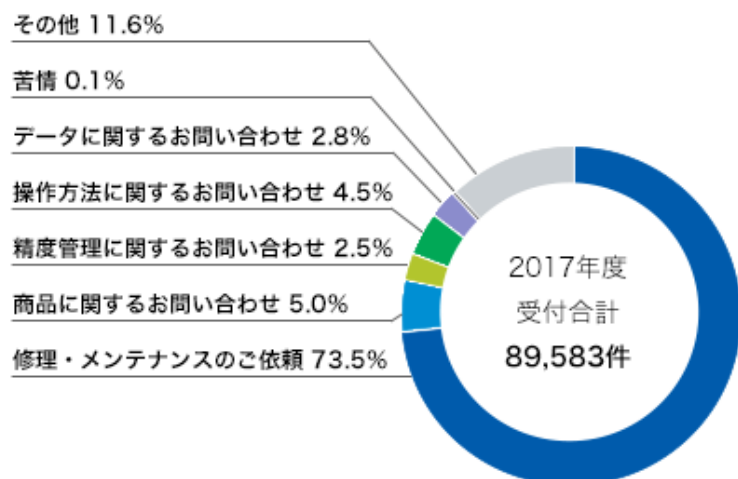
また、相談窓口などを通じて収集したご要望は、VOC（Voice of Customer：お客様の声）チームが集約し、さまざまな角度から分析した後、関係部門へフィードバックされ、新たな製品開発や業務改善に活用されています。2017年度には、国内市場から約18,000件のお客様の声を収集しました。お客様の声から生まれた新たな機能や装備を搭載した装置は、製品カタログにVOCマークを記載しており、高い評価をいただいています。

シスメックス スペインでは、お客様により良いサービスを提供するため、2017年度にカスタマーサービスセンターの機能を強化しました。お客様の要望を直接聞くために、年に数回、お客様を訪問し対話することで、より良い関係を構築していきます。



**Voice of Customer** = お客様からのご意見・ご要望を製品開発に活かす取り組み。  
日本国内で主要な機器・試薬の、研究開発から製造、販売、サービス&サポートまでを一貫して提供するシスメックスならではの取り組みです。

## カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ内容の内訳



カスタマーサポートセンターでの  
お問い合わせ対応

▶ 過去3年間の実績は「2017年度実績データ」をご覧ください。

## ネットワークを活用したお客様サポート

病院などの医療機関では、毎日の検査データの信頼性を確保するために検査装置・試薬の精度を日々管理しています。一般に「コントロール物質」と呼ばれる専用の試料を測定し、その結果を参考値ならびに日々の測定結果と比較することによって、検査装置・試薬の状態をチェックします。シスメックスは、あらゆる分野のコントロール物質を提供してお客様の精度管理をサポートしています。

さらに、お客様の元にある検査装置と、当社のカスタマーサポートセンターをオンラインで結ぶSNCS（Sysmex Network Communication Systems：シスメックス ネットワーク コミュニケーション システムズ）を構築しています。カスタマーサポートセンターでは、このSNCSを通じてお客様の検査装置から送られてくるコントロール物質の測定結果を受信し、測定結果の集計や比較を行い、データ異常の予兆を察知・判定して結果を返信するサービスを提供しています。これに加えて、SNCSを通じてお客様と双方向コミュニケーションが可能になりリモートサービスによって、データ処理画面の共有や、ウェブカメラで装置の状態確認などを実施しています。

また、動作回数やメンテナンス時期、ログ情報や温度情報など、装置各部のセンサー情報をベースに、トラブル発生を予防するサービスも提供しています。



カスタマーサポートセンター

## お客様に役立つ情報の発信

お客様サポートの一環として、当社ウェブサイト「サポートインフォメーション」で情報を発信しています。

また、最新情報をお伝えするメールマガジン配信サービス、コンテンツや閲覧履歴などを管理できるマイページ機能など、お客様によりご利用いただけるよう、継続的に機能の充実を図っています。



ウェブサイト「サポートインフォメーション」

## 臨床検査の質的向上へISOを活用

近年、臨床検査分野において検査結果の質の向上が強く求められており、世界的に国際規格への関心が高まっています。その一つとして、「ISO 15189（臨床検査室-品質と能力に関する要求事項）」を取得する臨床検査室も増加しており、すでに認定取得が義務化されている国もあります。

シスメックスは、臨床検査の校正機関に対する国際規格ISO/IEC 17025およびISO 15195の認定を取得しており、シスメックスが提供している自動血球分析装置に対する校正サービスの品質は、国際的な基準で担保できていることが証明されています。また、この分野での認定取得は国内では初となります。

お客様はISO 15189が要求する校正を実施していることを証明するために、シスメックスが発行する校正証明書をグローバルに認められた認証書として利用することができます。2017年度末時点で、シスメックスは延べ3,690台以上の装置に対して認証書を発行しました。

また、外部精度管理サービスであるSNCS/eQAPI※1は全産業分野で国内初となるISO/IEC 17043※2「適合性評価-技能試験に対する一般要求事項」の認定を取得しました。

※1 SNCS（Sysmex Network Communication Systems）はネットワークを利用して臨床検査機器の精度保証および故障監視・修理サポートなどを行うサービス。eQAPIは機器や試薬メーカーを選ばない外部精度保証。

※2 「適合性評価-技能試験に対する一般要求事項」の国際規格。

	ISO/IEC 17025 試験所及び校正機関の能力に 対する国際規格	ISO 15195 臨床検査の基準測定検査室に 対する国際規格	ISO/IEC 17043 適合性評価-技能試験に 対する一般要求事項の国際規格
機関名称	シスメックス株式会社 基準測定検査室	シスメックス株式会社 基準測定検査室	シスメックス株式会社 精度管理センター
認定日	2014年2月14日	2015年3月17日	2014年2月12日
認定番号	RNL00440	RCL00440	PTP00010
認定範囲	M19 物質量（赤血球数、白血球数、血小板数、ヘマトクリット値、ヘモグロビン濃度）	M19 物質量（赤血球数、白血球数、血小板数、ヘマトクリット値、ヘモグロビン濃度）	M51 臨床検査（一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、その他の検査）
備考	血球計測分野において国内初の認定取得	血球計測分野において国内初の認定取得	全産業分野において国内初の認定取得



## 学術活動

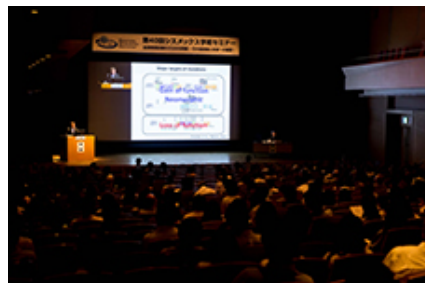
シスメックスは、日本をはじめとするアジア各国の医療従事者などを対象に最新の医学情報を提供するためのセミナーを開催するとともに、各国の保健省をはじめとした国家機関や主要学会とともに、医療水準の向上を図るための学術活動を展開しています。

### 医療従事者向けの学術セミナーを開催

シスメックスでは医師および臨床検査技師など第一線で活動されている医療従事者を対象とした学術セミナーや勉強会を各地域で実施しています。

臨床検査分野における最新の情報を提供し、その知見を共有する場として1978年度より開催している学術セミナーは、2017年6月に40回という節目を迎えました。2017年度は「血液疾患のさらなる飛躍 ～その最前線と未来への展望」をテーマとした本セミナーを、国内では15会場、初の試みである海外配信は3会場（モンゴル、韓国、インドネシア）で開催し、セミナー史上最多の1,855人の方々に参加いただきました。また、これまでの参加者は累計4万人を超えています。

このような取り組みを継続することで、多くの医療関係者と信頼関係を構築するとともに、医学的な知識の蓄積による医療の質の向上を図っていきます。



第40回学術セミナー

### 医療従事者向けに開催した主な学術セミナー

国・地域	テーマ	参加人数
日本およびアジア地域	第40回学術セミナー「血液疾患のさらなる飛躍 ～その最前線と未来への展望」	1,855名
中国	第20回学術セミナー「血液学および尿検査の臨床応用」	約1,500名
ベルギー	第7回欧州学術シンポジウム	約500名
日本	第66回日本医学検査学会「肺癌のスクリーニングの最新のTOPICSについて」	約300名
トルコ	第2回学術シンポジウム	約300名
イラン	第10回国際および第15回全国臨床検査学会	約200名
インドネシア	第7回シスメックス学術セミナー	約170名

### 海外事例（アジア・パシフィック地域）：臨床検査の質向上のための支援活動を実施

アジアの新興国・開発途上国の政府や学会とともに、外部精度管理などによる検査の標準化支援を行っています。2017年度は、モンゴル、タイ、フィリピン、カンボジアにおいて外部精度管理を実施し、またミャンマーにおいては学術支援に関する契約を締結しました。これらの取り組みを通して各国の臨床検査の質向上に貢献していきます。

▶ [事業活動を通じた医療課題解決についてはこちらをご覧ください。](#)

# 安定供給

## 安定供給体制の確立

---

当社はヘルスケア企業として確かな品質の製品やサービスを安定的に供給する責務があると認識しています。この役割を果たすため、シスメックスでは国内外に製品生産工場を展開し、ニーズに対応した効率的でグローバルな供給体制を確立しています。

また、原材料の調達には複数の取引先を確保することでコスト効率化を図るとともに、バックアップ体制にも積極的に取り組んでいます。

## 災害時に備えた対応（BCP）

---

世界では、災害による多数の死者、経済被害が毎年のように発生しており、過去30年間（1984年～2013年）で247万名以上の命が奪われるとともに、2兆4千億ドル以上の被害額が発生しています<sup>※</sup>。アジアにおいても地震などの大規模な自然災害が多発しており、災害に対する予防や災害発生時の迅速な対応が求められています。

シスメックスでは、地震や津波などの大規模災害が発生したときでも重要業務を継続し、迅速な復旧を図るため、事業継続計画（BCP）を策定して非常時に備えています。

試薬製品に関しては、主要な原材料の調達先の複数化や地産地消の考えに基づいた生産場所の選定によりリスクの分散を図るとともに、非常時における工場間の相互供給体制の構築、輸送面での代替ルートの確保などを実施しています。また、製品供給に関するBCP社内マニュアルを整備し、災害発生を想定した模擬訓練を実施しています。

2016年4月に発生した熊本地震では、地震発生直後に製品供給対策本部を設置し、全サプライヤーの状況把握と製品供給への影響範囲の特定を迅速に行い、代替品の選定など迅速な対応の結果、生産計画への影響を回避することができました。

<sup>※</sup> 出典：内閣府「日本の災害対策」

▶ [災害対策についてはこちらをご覧ください。](#)

## 需要拡大への対応

---

### グローバルな需要拡大に備え、工場の新設や設備拡充を推進

シスメックスでは、検査機器に関して、製品ごと・拠点ごとに適正在庫を設定し、これを市場の近くに置くとともに、現地法人などと連携して需要の状況を的確に把握することで、グローバルな需要変動に迅速に対応し、常に安定した供給ができるようにしています。

また、さらなる試薬製品の需要拡大に備え、工場の新設や設備拡充を進めています。2017年7月には、アメリカの試薬工場シスメックス リージェンツ・アメリカが拡張工事を終了し、本稼働を開始しました。従来の約1.8倍の生産能力に拡大したことにより、米州地域の需要増加および中長期視点での安定供給に対応できるようになりました。今後も各地域の需要にあわせた生産能力強化に取り組むとともに、各地に域内物流ハブ機能を備えるなど、一層の安定供給を図っています。

グローバルな需要拡大に対し、生産改革や物流の改善を重ね、安定した製品供給を実現していきます。

## 魅力ある職場の実現

### 課題認識

企業が持続的に成長するためには、ダイバーシティの推進と、働きやすく、働きがいのある魅力ある職場づくりに積極的に取り組むことが重要とされています。また、「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、ジェンダーの平等や働きがい、不平等の是正などの目標が掲げられています。

シスメックスは、「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つと捉え、魅力ある職場づくりを進めることが優秀な人材を惹き付け、企業競争力の強化につながると考えています。

### シスメックスのアプローチ

シスメックスは、人材開発体系を用いた継続的・計画的な能力開発や、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、各種制度の導入などを通じて、多様な人材が安心して能力を発揮できる職場環境の整備を進めています。

今後も、持続的な成長の実現に向けて、多様な人材が能力を最大限に発揮できる職場づくりを進めるとともに、個々の成長の機会を提供していきます。

# 働きやすい職場環境の確保

## 公正な評価・処遇

### 能力・成果に基づく公平な人事評価

シスメックスは自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会を提供するとともに、公正な処遇に努めています。職掌・資格等級に応じた適切な処遇を実施しており、性別による基本給与の差はありません。

公正な処遇のベースとなる評価については、「企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いる」という考え方にに基づき、成果のみの評価ではなく、成果発揮にいたるプロセスの評価（コンピテンシー評価）も行っています。また、公平かつ納得性のある人事評価を目指し、評価結果、上司コメントを各個人に開示しています。

### 人材マネジメントシステムの考え方

#### 1. 長期的な雇用を実現するために

- 多様な人材が安心して能力を発揮できる複線型の資格等級フレームを整備し、自己実現と成長の機会を提供

#### 2. 多様な人材の能力開発・育成を推進するために

- コンピテンシーを基軸とする資格等級基準を設定し、昇格基準の明確化による人材育成と昇格運用の適正化を促進
- 成果のみではなく、成果発揮に至るプロセス（発揮能力）を評価し、人材育成と企業風土の変革を促進

#### 3. 企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いるために

- 評価と報酬の関係をシンプルにし、誰にでも分かりやすい制度
- 仕事の貢献度・役割・発揮能力（コンピテンシー）および成果に連動したメリハリのある報酬体系

### 社員のキャリア設計をサポート

シスメックス株式会社では、全社員を対象とした「自己申告制度」を運用しています。この制度では、毎年個々の社員へのヒアリングを行い、中長期のキャリアや海外勤務、職種についての希望などを聞き取っています。これによって、一人ひとりに自己のキャリアの方向性とライフプランについて考える機会を持ってもらうとともに、申告内容を能力開発や人材配置に活用しています。

2017年度のヒアリングでは、90.8%の社員から申告がありました。

## 契約社員・派遣社員などの登用・待遇改善

シスメックス株式会社は、契約社員や派遣社員の正社員登用にも積極的に取り組んでいます。契約期間が限られている有期雇  
用者に対し、公平に登用機会を提供することを社内規程において明文化するとともに、イントラネットなどで周知徹底を図っ  
ています。

また、働きやすい環境づくりを目的として、正社員に対し導入していたフレックスタイム制や福利厚生プログラムシステム  
「カフェテリアプラン<sup>※</sup>」の適用対象者を契約社員にも拡大しました。これにより、通院や子育てなど、個々の事情に応じて従  
業員が自主的に就業時間を設定し効率的に業務を遂行しています。今後も適宜、制度などの見直しを実施し、従業員の待遇をよ  
り良いものにしていきます。

<sup>※</sup> 会社が毎年、従業員に「カフェテリアポイント」を提供し、自らの意志によって特定の福祉（ワークライフバランス向上）のために費やすことができる制度。

▶ 過去3年間の実績は「2017年度実績データ」をご覧ください。

## モチベーションアップにつながる社内表彰制度を導入

シスメックスでは、グループで最も貢献した個人および組織・グループをたたえる表彰制度「グループCEOアワード」を導  
入し、1年に1度、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践した個人1名、グループ1組を選出してその功績をたたえ、全社で  
共有しています。

また、研究開発者のモチベーション向上と知的財産に対する意識を高めることを目的とした「特許大賞・優秀特許賞」「パテ  
ントマイスター」「出願記念賞」の3つの「特許表彰制度」、さらに品質改善に関する成果を表彰する「品質アワード」を設け  
ています。

## 従業員満足度向上に向けた取り組み

---

シスメックスでは、2年に1回、グループ全従業員を対象とした「企業風土調査」を実施しています。その中で従業員満足度  
についても調査を行っています。調査結果は各部門にフィードバックし、満足度向上に取り組んでいます。調査のスコアが伸び  
悩んだ部門に対しては、人事部門のメンバーが訪問して改善のためのアドバイスなどを実施しています。部門に対してだけでな  
く、個人に対しても人事部門のメンバーがインタビューを行い、風土改革に向けた課題の特定と改善策の検討を図っています。

## ワークライフバランスへの理解と支援

---

### ワークライフバランス支援制度の利用促進

シスメックス株式会社では、イントラネット上の専用サイトでワークライフバランス支援制度についてわかりやすく解説して  
いる他、説明会なども開催し、周知を図っています。また、キャリア、仕事と家庭の両立、異文化理解などの幅広いテーマにつ  
いて、自由な意見交換を実施するダイバーシティ・ラウンドテーブルを通じて従業員同士の情報共有を行う中で、制度の利用促  
進も図っています。

▶ ダイバーシティ・ラウンドテーブルについてはこちらをご覧ください。

## 仕事と育児の両立支援制度

### さまざまな休暇制度や社内託児所で育児を支援

シスメックス株式会社は、出産前から育児までに対応した多様な制度を制定しています。不妊治療や出産前のつわりに対する休暇制度をはじめ、出産後は子どもが2歳になるまでの育児休業（法定以上）や中学就業前までの勤務時間短縮制度および在宅勤務制度、職種別のフレックスタイム制度が利用できます。さらに、子どもの看護のために会社を休む際、法定休業以外に積立有給休暇を半日単位で利用できる制度を導入しています。復職前セミナーや育児休業中社員向けのニュースレター配布を実施し、育児休業からのスムーズな復帰を支援しています。

また、男性社員の育児参加ニーズにあわせ、配偶者出産時の特別休暇を出産の前後1カ月以内に2日取得できるようにし、出産準備にも参加できるよう配慮しています。また「育み休暇」として子どもが1歳になるまでの間は育児を理由に連続3日間の特別休暇を設けています。

研究開発拠点テクノパーク内には、従業員から乳幼児を預かる社内託児所「シスメックスキッズパーク」を設置し、常時保育だけでなく、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事などにより家族での保育が困難なときなどの一時的な利用にも対応しています。

これらの制度を計画的に整備してきたことが認められ、厚生労働省から次世代認定マーク（愛称「くるみん」※）を取得しています。



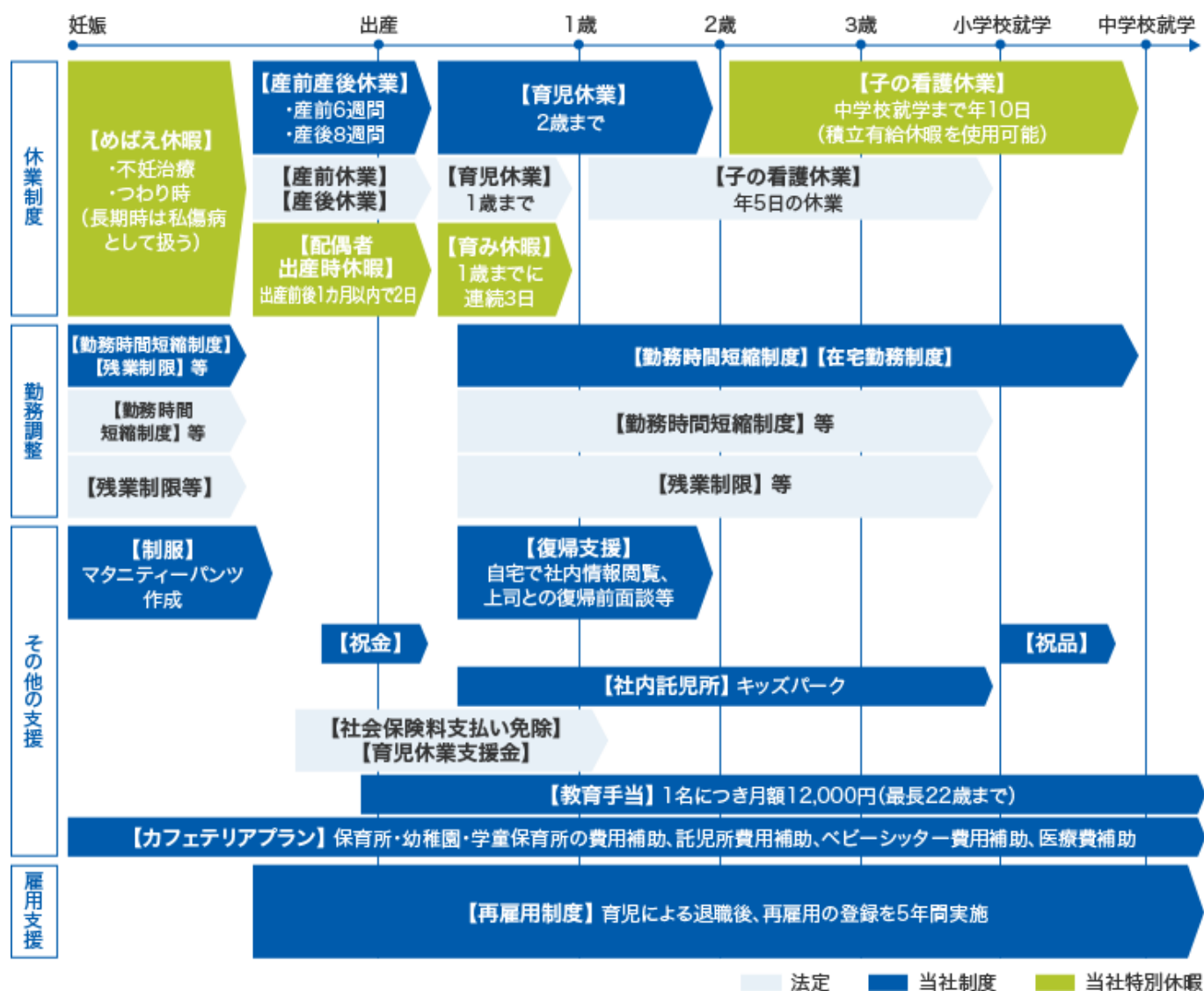
社内託児所「シスメックスキッズパーク」



次世代認定マーク「くるみん」

※ 次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業が「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定（くるみん）を受けることができます。

## 育児関連制度



## その他のワークライフバランス支援制度

### 介護や社会貢献活動などを支援

シスメックス株式会社はワークライフバランスを実現するための制度の一つとして、介護に関する各種制度を整備しています。

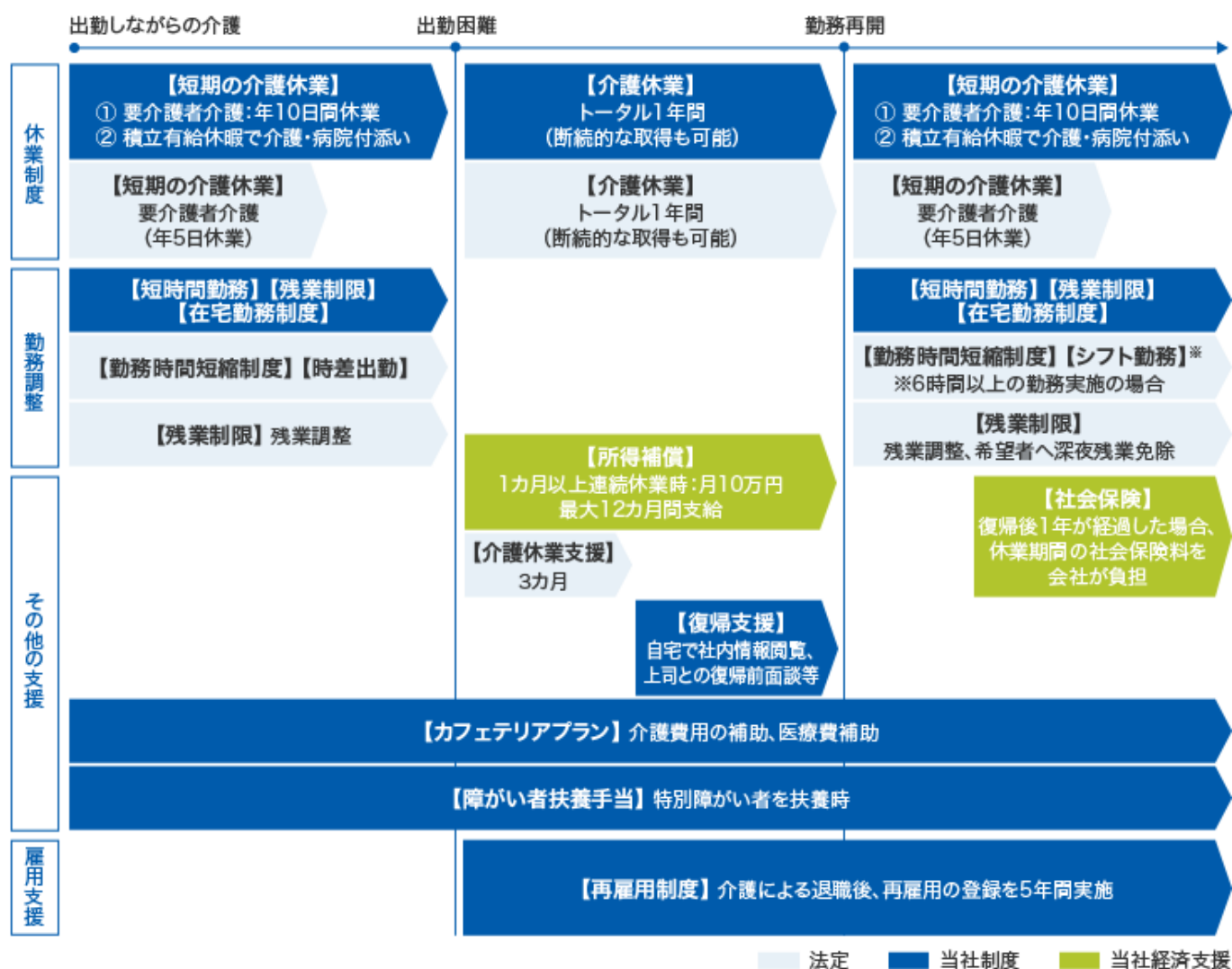
家族の入院などで付き添いが必要になったときには、短期の介護休業と積立有給休暇を半日単位で最大40日取得でき、要介護者・要支援者のご家族のための在宅勤務制度も導入しています。

また、1か月以上の介護休業による収入減や費用発生に備え、会社独自で介護休業補償金を支給する所得補償制度の他、介護でキャリアをいったん中断した従業員を再雇用する制度もあります。

これらの制度の存在意義や、突然の介護に備えて何をすべきなのかなど、介護への不安を解消するため、説明会も行っています。

また、「ボランティア休暇」（年10日、2日までは有給休暇）、「（臓器提供などの）ドナー休暇」（1件につき5日）など、目的に応じて従業員が休暇を取りやすいようにさまざまなワークライフバランス支援制度を設けています。

## 介護関連制度



### 休業後の職場復帰を支援

シスメックス株式会社では育児や介護で休業した従業員のスムーズな職場復帰のため、3カ月前から社内メールやイントラネットに接続できるタブレット端末、ノートパソコンを貸与し、ITを活用した支援制度を導入しています。

これはリアルタイムで社内情報入手し、職場とのコミュニケーションを可能とすることで、復帰時における戸惑いや職場ギャップの解消を目指したもので、利用開始時には所属部門の上司と面談する機会も設定しています。

### その他グループ会社での取り組み

会社名	取り組み内容
シスメックス アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>フレックスタイム制度、在宅勤務制度の導入</li> <li>法定以上の育児休暇制度の導入（父親、母親）</li> <li>ファミリーサポート制度の導入（子育て支援、家族休暇、家族が病気になった場合の外部機関でのサポート利用時の補助金支給）</li> </ul> <p>&lt;社外からの評価・表彰&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Companies that Care Honor Roll」に10年連続で選出</li> </ul> <p>▶ Companies that Care Honor Rollの受賞についてはこちらをご覧ください。</p>



会社名	取り組み内容
シスメックス ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• フレックスタイム制度、在宅勤務制度の導入</li> <li>• 親子ルームの設置</li> <li>• 育児休暇制度の導入（父親、母親）</li> <li>• 子育て支援制度（外部機関でのサポート利用時の補助金支給）</li> </ul> <p><b>&lt;社外からの評価・表彰&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「Great Place to Work」に3期連続で選定</li> <li>• ドイツ連邦家庭・高齢者・女性・青少年省より、「Family Friendliness」賞を受賞（2017年6月）</li> </ul>
シスメックス 上海	<ul style="list-style-type: none"> <li>• フレックスタイム制度の導入</li> <li>• 子育て支援制度（医療保険補助）</li> </ul>
シスメックス アジア・パシフィック シスメックス マレーシア シスメックス インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• フレックスタイム制度、在宅勤務制度の導入</li> <li>• 子育て支援制度（医療保険補助、奨学金支給）</li> </ul> <p><b>&lt;社外からの評価・表彰&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「HR Asia Best Companies to Work for In Asia 2017」（HR Asia主催）を受賞（シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス マレーシア）</li> </ul>



親子ルーム（シスメックス ヨーロッパ）

## 従業員関連データ

▶ [従業員関連データについてはこちらをご覧ください。](#)

# 人材の育成

## 人材マネジメントの基本的な考え方

---

日本発のグローバル企業として、長期的な雇用を前提に多様な人材の能力開発・育成を推進し、企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報います。

## 行動基準

---

### 従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

## 人材育成

---

### グローバル人材育成の推進

グローバルに事業を展開するシスメックスのグループ従業員は8,445名（2018年3月末時点）になり、海外従業員比率は58%を超えています。このような状況において、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践し、世界中の人々に安心をお届けしていくためには、個々の人材の能力向上はもちろんのこと、多様な人材同士がコミュニケーションを通じて、互いに価値観を共有し、気づきを得ることで、新たな価値や文化を探求・創造していくことが重要であると考えています。

その一環として2014年度にグループ共通の「グローバル人材開発体系」を制定し、事業活動および職場での一体感の醸成や次世代の人材育成、グループ内のネットワーク強化、異文化の相互理解のためのさまざまな施策に取り組んでいます。

### 4つのコンセプトに基づく人材育成

シスメックス株式会社では「研修と評価と仕事（成果発揮）を接続」「シスメックスグループのグローバル化の促進」「継続的な人材開発投資」「人を育て、人が育つ会社」の4つをコンセプトに選抜型研修、階層型研修、自律選択型研修を研修体系の軸とした計画的・段階的な人材育成に取り組み、2017年度の1人当たり平均研修時間は15.4時間、平均研修費用は103,000円でした。※

また、社内外の多様な文化や価値観を持つ人々が集うための施設であるグローバルコミュニケーションセンター（GCC）を兵庫県芦屋市に開設し、人材開発体系に基づく各種研修、グローバルベースの部門横断型の勉強会、合宿などへ活用しています。



新入社員研修

※ 人事部門が提供する研修を対象とし、自己啓発および実地研修など業務の一部に該当するものは除く。

▶ 過去3年間の実績は「2017年度実績データ」をご覧ください。

## 研修体系の3つの軸

研修区分	目的
選抜型研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルリーダーの育成</li> <li>将来的な経営人材の育成</li> </ul>
階層型研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層ごとに最低限必要とするマネジメントや課題解決などの知識・スキルの習得</li> <li>部門間コミュニケーションの促進</li> </ul>
自律選択型研修 (Sysmex College)	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務遂行における実践的な知識・ノウハウ・スキル</li> <li>ビジネス・マネジメント各種知識</li> </ul>



グローバル コミュニケーション センター (シアタールーム)

## 主な人材育成プログラム

プログラム名・施策名	目的・概要
グローバル人材交流プログラム	日本と海外グループの従業員同士の交流を促し、互いに理解を深めることで関係強化を図る
グローバル アプレンティス プログラム	若手社員を海外グループ会社へ派遣し、実務経験を積ませる
ものづくりトレーニングセンターでの研修	シスメックスの機器製品の製造に関わる知識・技能を習得する
R&D革新活動	研究開発者のチーム力や提案力の強化を図る
シスメックス・アカデミー (シスメックス ヨーロッパ)	製品に関わる知識・技能を習得する
HRアカデミー (シスメックス ヨーロッパ)	チームビルディングやリーダーシップ、語学力などのソフトスキル向上を図る
シスメックス・ユニバーシティ (シスメックス アジア・パシフィック)	全従業員が利用できるオンライン・トレーニング



異文化体験研修



業務体験を通じた他地域従業員との交流

# ダイバーシティの推進

## ダイバーシティ&インクルージョン

---

### 取り組みの意義

シスメックスでは、「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つとして捉え、多様な人材が在籍する「ダイバーシティ」から、多様な人材が働きやすい環境を整備し、受容する「ダイバーシティ&インクルージョン」を目指した取り組みを進めています。

多様な価値観、考え、経験、能力のシナジー効果により、イノベーションの創出と価値の創造につなげていきます。

### ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けて

ダイバーシティ&インクルージョンを推進するため、シスメックス株式会社では2017年4月、人事本部内にダイバーシティ推進課を新設し、シスメックスの多様性やLGBT※への理解などをさらに進める組織文化の醸成に努めています。2017年度は、イントラネットに「ダイバーシティポータルサイト」を立ち上げ、情報発信や理解浸透のための取り組みを進めました。また、ダイバーシティに関する意識調査を実施することで、従業員の率直な声を取り入れ、取り組みを発展させています。

シスメックス アメリカでは「アファーマティブ・アクションプログラム（差別撤廃プログラム）」に基づいた施策を実行してマイノリティ（少数派）に対する偏見や差別の解消を目指しています。

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取った性的マイノリティの総称。

## 多様な人材の確保

---

### 就職機会の均等化を目指して

シスメックス株式会社では、国籍・人種・性別・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位で採用を実施しています。具体的には、就職が不利な状況に置かれている既卒学生や海外留学生などに対する就職機会の均等を図るために、いつでも応募できる通年採用を実施しています。

また、世界中のどこからでも応募できるよう、海外での現地説明会や面接に加え、インターネットを通じたウェブ説明会やウェブ面接も実施しています。2017年度も前年度に引き続きインターンシップ受け入れを実施し、海外の人材に当社を知ってもらうための施策を強化してきました。このような活動の結果、2017年度の新卒採用者外国人比率は7.8%となりました。

## 障がい者雇用を推進

シスメックスでは、障がい者雇用を進めています。それぞれの適性や能力を活かして、長期的に活躍できる雇用形態で就業しており、シスメックスの日本国内関係会社における2017年度の障がい者雇用率は2.04%です。

2017年4月には、特例子会社※である「シスメックスハーモニー株式会社」を兵庫県神戸市に設立しました。シスメックスハーモニーでは、身体、知的、精神に障がいを持つ方々が個々の特性やハンディキャップにあわせて活躍できる業務や職場環境を準備し、「障がいの有無に関わらず、誰もが安心して働く喜びを感じながら、いきいきと活躍し、ともに成長できる、笑顔あふれる職場」を目指しています。

シスメックス ヨーロッパにおいても、15年前より障がい者の自立支援に取り組んでいる団体と連携し、ドイツ試薬生産工場の製造ラインでの梱包作業などを障がいを持つ方々に委託しています。作業の方々と業務の目的を共有するとともに、定期的なトレーニングと従業員によるサポートを実施することで、高いモチベーションを維持して作業に取り組んでいただいています。

※ 障がい者の雇用のために特別の配慮をしていると公共職業安定所長から認定を受けた子会社。親会社の就業規則とは別に障がい者の労働能力や就業条件を配慮した就業規則や設備環境を整備することで、障がい者の職域拡大を図ることが容易になる。



シスメックスハーモニーでの作業の様子

## 高齢者雇用一定年退職者再雇用制度

シスメックス株式会社では定年を60歳とし、高齢者雇用を推進するための制度として65歳までの定年退職者再雇用制度を運用しています。2017年度は、定年退職者のうち、社内ルールに基づいて38名を再雇用しました。

## 女性活躍推進

シスメックス株式会社は、多様性を受け入れ、従業員一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境整備の一環として、社内託児所設置や法定以上の育児休業などの整備に取り組んできました。また、女性活躍推進法の施行に基づき、2016年4月に「女性活躍推進 行動計画」を制定し、女性リーダーの育成や多様な働き方を促進しています。

そのような取り組みの結果、シスメックス株式会社の女性社員比率※1は2005年度19.9%から2017年度29.4%まで向上しました。女性管理職比率※2も2005年度2.4%から2017年度8.6%まで向上し、2017年度のグループ全体の女性管理職比率は15.2%となりました。

※1 就業者数でカウント。

※2 課長級以上の者。

## 女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」の最高位を取得

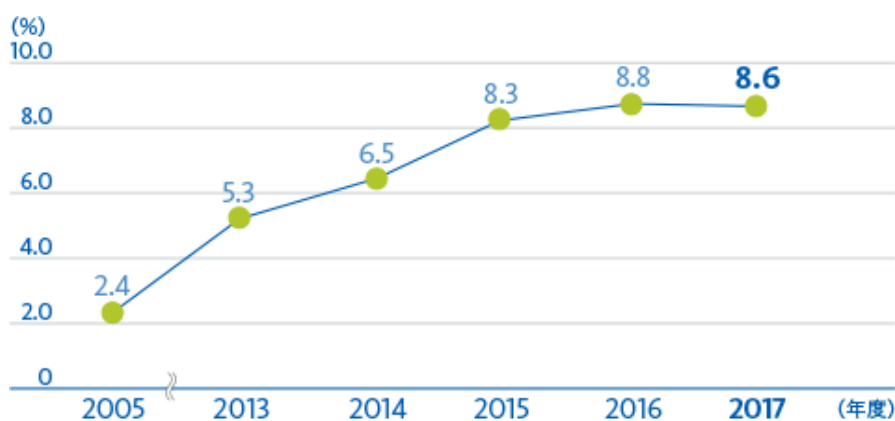
シスメックス株式会社では、これまでも従業員一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境の整備を行ってきました。2016年9月には厚生労働省が女性活躍に関して定めた5つの基準を全て満たしたことにより、優れた取り組みを行う企業に与えられる「えるぼし」の最高位である「3段階目」を取得しました。

▶ 女性活躍推進法（厚生労働省）についてはこちらをご覧ください。 □

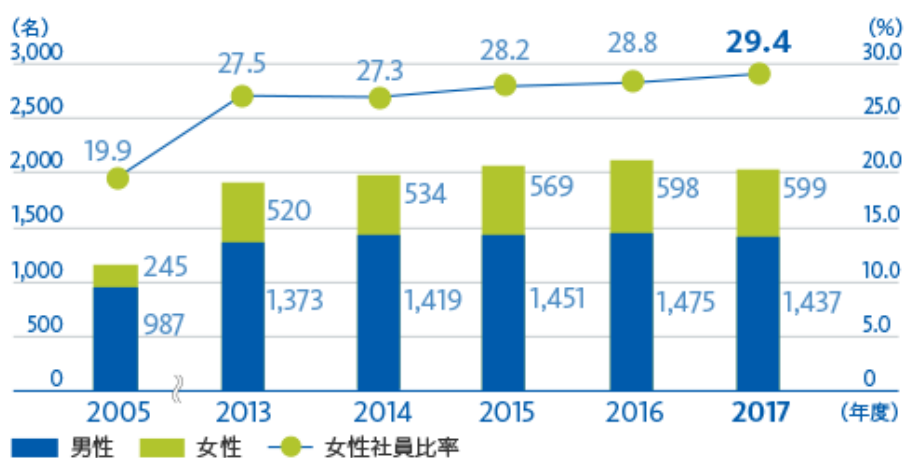


女性活躍推進法に基づく  
優良企業認定マーク  
「えるぼし」

女性管理職比率（シスメックス株式会社）



女性社員比率※（シスメックス株式会社）



※ 就業者数でカウント。

## 理解の浸透と実行

### ダイバーシティ教育

シスメックス株式会社では、キャリア、仕事と家庭の両立、異文化理解などの幅広いテーマについて、自由な意見交換や部門を超えたコミュニティづくりの場としてダイバーシティ・ラウンドテーブルを開催しています。2017年度は英語での開催も含め、6回実施しました。

シスメックス アメリカやシスメックス ヨーロッパにおいてもダイバーシティ教育の実施やダイバーシティを推進するための従業員グループをつくり、理解と浸透に努めています。

## 労働安全衛生

### 職場の安全・衛生の確保

#### グローバルコンプライアンスコードに「職場の安全・衛生」の確保を明示

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードにおいて「8-4 職場の安全・衛生の確保」に取り組むことを明示し、さまざまな活動に展開しています。

▶ グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。 

#### 役員・従業員が協力して安全衛生の確保を推進

シスメックス株式会社では従業員の安全衛生を確保する指針として「安全衛生規程」を定め、安心して働ける職場づくりに努めており、2016年度には国内のグループ会社を対象とした中央安全衛生委員会を設置しました（年に2回開催）。同委員会では国内のグループ会社の安全衛生・健康管理体制の強化・充実を図るための方針・目標を策定する他、各事業所の安全管理状況の把握、改善すべき施策の検討を行い、結果はリスクマネジメント委員会を通じて経営層へ報告しています。

2017年度は全社安全衛生目標に「労働災害ゼロ」「従業員への健康投資による活力向上、生産性向上を目指した健康経営の推進」を掲げ、各社・各事業所の安全衛生委員会が中心となって取り組みました。

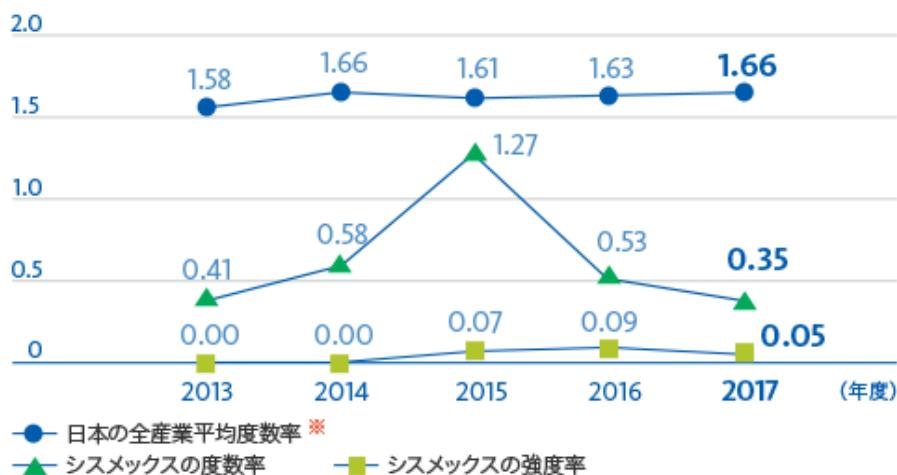
一方、各事業所で定期的開催される安全衛生委員会ではヒヤリハット事例だけでなく、職場巡回で把握したリスクの排除など、リスクアセスメントの考えに基づき、短期から長期の視点で未然に災害を防止する対策に取り組んでいます。

事故や急病人の発生時の適切な応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などに関する安全教育や、大規模災害を想定した総合消防訓練、AED使用方法の研修、市民救急救命士講習等も定期的実施しています。特に災害時における迅速な従業員の安全確保と安否確認、事業所等の被災や製品の供給状況、お客様の被災に関する情報の共有など、初動対応に関する訓練を適宜実施しています。

シスメックス ブラジルは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な規格であるOHSAS 18001※の認証を取得しています。

※ 1996年にイギリス規格協会（BSI）が発行した規格BS 8800を基に、約30の各国審査登録機関、標準団体などが集まって1999年に発行された規格。

労働災害度数率/強度率（シスメックス株式会社）



注)労働災害度数率:のべ労働100万時間当たりの死傷者数の割合。  
労働災害強度率:のべ労働1,000時間当たりの労働損失日数の割合。

※ 出典:厚生労働省「労働災害動向調査」

## 過重労働の防止

過重労働は心身の健康を妨げる要因となることから長時間労働の防止にも取り組んでいます。関連法令の遵守だけでなく時間外・休日労働時間については厚生労働省の指針よりも厳しい社内基準を設け、この基準を上回った場合、その上長へ連絡して業務改善を図ります。また、従業員には自己チェック票の提出を求め、必要に応じて産業医との面談を実施しています。

2018年4月から個人のパソコンの起動とシャットダウン時間を自動的に取り込んで労働時間を把握し、過重労働を予防する教育研修の実施および具体策の運用を開始しました。

## 健康経営の推進

### 心身の健康の保持・増進

シスメックス株式会社では、従業員の心身の健康の維持・向上が安全で快適な職場づくりに不可欠なものであると考え、定期健康診断に加え、人間ドックや女性特有のがん検診などを実施し、疾病の早期発見に努めています。医療機器を取り扱う当社の業態上、業務によっては感染性のある物質などに接する機会もあることから、このような業務の従事者に対しては、法定の特殊健康診断に加え、B型・C型肝炎検査を含む独自の健康診断を年2回の頻度で実施しています。また、2015年12月には、「がん対策推進企業アクション※1」および「知って、肝炎※2」パートナー企業に登録および肝炎医療コーディネーターの教育を受けた従業員を育成する他、2016年11月には「兵庫県がん検診等受診率向上推進協定」を締結しました。

また、従業員のメンタルチェックやハラスメントに関する状況把握を行う「ココロの健康診断」を年1回実施し、経年的に結果を把握し、職場改善を図っています。

健康相談に関しては、全社的な窓口を設け、産業医や保健師と面談できる体制を整えており、メンタルヘルスについては外部相談機関（EAP）も設置しています。

健康維持のための福利厚生施設として、ソリューションセンターの敷地内にグラウンドやテニスコート、フィットネス設備を備えた体育館などを設け、スポーツ施設利用補助制度なども継続しています。また、従業員自身に健康への関心を持ってもらうためのイベント・セミナーや、健康の増進のためのプログラムが含まれる「カフェテリアプラン※3」、社員食堂でのヘルシーメニュー提供も実施しています。2018年1月から50周年を記念し、従業員から「私の健康チャレンジ宣言」をグローバルに募集し、健康増進施策へ展開を進めています。

このようなさまざまな取り組みが評価され、2018年2月に、経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人 ～ホワイト500～」の2回目の認定を受けました。

※1 厚生労働省の委託によるプロジェクト。職場での取り組みを通して、日本のがん検診受診率を50%に引き上げることを目指す。

※2 肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性をわかりやすく伝えることで、早期発見・早期治療の実現を目指す厚生労働省のキャンペーン。

※3 福利厚生プログラムシステムの一つ。会社が毎年、従業員に「カフェテリアポイント」を提供し、自らの意志によって特定の福祉（ワークライフバランス向上）のために費やすことができる。



上記以外にも海外のグループ会社では従業員の健康確保に向けたさまざまな施策に取り組んでいます。

会社名	取り組み内容
シスメックス アメリカ	<ul style="list-style-type: none"><li>社内フィットネスルームの設置</li><li>フィットネス手当・健康手当の支給</li><li>健康診断やインフルエンザ予防接種費用の補助</li></ul>
シスメックス ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"><li>社内フィットネスルームの設置</li><li>スポーツや栄養管理のプロから指導を受けることができる健康管理プログラムの提供</li><li>カフェテリアでの無料ランチの提供</li></ul>



会社名	取り組み内容
シスメックス UK	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電話での健康に関するカウンセリングを24時間体制で実施</li> <li>• 第三者によるストレスリスクアセスメントの実施</li> <li>• カフェテリアでのフルーツや水の無料提供</li> </ul>
シスメックス スペイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツクラブへの加入費用の補助</li> <li>• リラクゼーションや栄養に関する健康管理プログラムの提供</li> <li>• カフェテリアでのフルーツ無料提供</li> </ul>
シスメックス パルテック	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ランチタイムや就業後に参加できるスポーツコースの提供</li> </ul>
シスメックス 上海	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社内フィットネスルームの設置</li> </ul>
シスメックス 台湾	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 従業員本人と、配偶者あるいは両親のうちのいずれか1名へ、毎年の半日ドックを提供</li> </ul>
シスメックス アジア・パシフィック	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツクラブへの加入費用の補助</li> <li>• 保健省が実施する健康イベントへの参加推奨と表彰制度の実施</li> <li>• カフェテリアでのフルーツの無料提供</li> </ul>
シスメックス マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 折り畳み自転車を従業員に貸与するなど、マラソンやサイクリングイベントへの支援</li> </ul>
シスメックス インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• フルーツや水の無料提供</li> </ul>
シスメックス ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全従業員対象のスポーツアクティビティの開催</li> </ul>
シスメックス コリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社内フィットネスルームとリフレッシュルームの設置</li> </ul>

# 労働者の権利の尊重

## 組合結成の自由と団体交渉の権利の尊重

---

### 国連グローバル・コンパクトへの参加とILO 中核的労働基準の支持

シスメックスでは、国連グローバル・コンパクトへの参加とILO 中核的労働基準の支持に基づき、組合結成や団体交渉といった従業員の権利を尊重しています。

シスメックスの労働組合であるシスメックスユニオンには役職者や一部の管理職を除いた全従業員が加入し、その割合は62%です（2017年度）。中国の済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス タイ、シスメックス ベトナム、ハイフェンバイオメッドなど海外のグループ会社でも組合を結成しています。

## 労使の対話

---

### グループ各社で労働組合との対話を実施

シスメックス株式会社では毎年シスメックスユニオンとの団体交渉を実施しています。

2017年度には定例の労使協議会に加え、適宜労使間協議を行い、健康増進活動や労働時間管理、福利厚生制度などの各施策について議論しました。このような組合との対話は海外のグループ会社でも実施しています。

### 従業員の声を経営に反映

シスメックスでは従業員の声を経営現場に反映するために、2年に1度、全従業員を対象に「企業風土調査」を実施しています。調査結果の分析を行い、課題や問題点がある場合は改善のための取り組みを推進しています。

# 人権の尊重


## 人権の尊重に関する方針と取り組み

---

### 世界人権宣言とILO 中核的労働基準、国連グローバル・コンパクトを支持

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコードに「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」を掲げ、全ての従業員の人権を尊重した企業経営、職場環境づくりに取り組んでいます。これは「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である」ことを規定した世界人権宣言、仕事で守られるべき最低限の労働基準を定めたILO 中核的労働基準の趣旨に則ったものです。このような考えに実効性を持たせる狙いから、差別、ハラスメント（嫌がらせ）、強制労働・児童労働を禁止するために遵守すべきルール、行動のガイドラインを明文化するとともに、さまざまな研修を通して従業員の啓発を行っています。2011年2月には国連グローバル・コンパクトに参加し、「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則への企業姿勢を明らかにしました。

また、ヒトゲノム・遺伝子解析研究および臨床研究にあたっては、被験者の人権への配慮を徹底するために社内に委員会を設置し、研究倫理に関する具体的な規程を設けています。

- ▶ [グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。](#) 
- ▶ [研究倫理についてはこちらをご覧ください。](#)

## 人権リスクの特定（人権デュー・デリジェンス）

---

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコードの「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」に基づき、自社内にとどまらず、サプライチェーン全体の事業活動における人権への影響を特定し、負の影響を防止・緩和していく「人権デュー・デリジェンス」の取り組みが必要であると考えています。具体的には、取引先に対するCSR調査の項目の中に「強制労働・児童労働の禁止」「男女・障がい者・人種等に対する差別の排除」などを盛り込み、シスメックスの活動が人権侵害に関与・加担することのないよう、人権への影響を事前に把握し、予防的に対処するしくみを整えています。またシスメックスでは「英国現代奴隷法」が発効したことを受け、シスメックス UKがホームページに声明文を公開するなど、同法に適正な対応をしています。

- ▶ 「英国現代奴隷法」の対応については[こちらをご覧ください。](#)（シスメックス UKのホームページ）
- ▶ サプライチェーンにおける人権に配慮した調達方針については[こちらをご覧ください。](#)

## 人権に関する相談・通報制度

---

シスメックスでは、国内外で内部通報制度を設置し、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントをはじめとする人権相談を受け付けています。

- ▶ [内部通報制度についてはこちらをご覧ください。](#)

## 人権の尊重を理解するための教育・啓発

---

### 人権侵害防止に向けた教育を実施

シスメックスは、ハラスメント（嫌がらせ）の防止や、労働に関する正しい知識の浸透などを目的とする教育を実施し、人権侵害の防止に努めています。

2017年度は新任役職者向け研修で、LGBT※を含むハラスメント、労務管理、労働者派遣法に関する研修を約130名に行った他、新入社員、中途採用者に対しても研修を実施しました。

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取った性的マイノリティの総称。

## 社会貢献活動

### 社会貢献方針

シスメックスは、豊かな健康社会、生き生きとした地域社会作りにつながる社会貢献活動を積極的に行うとともに、従業員の主体的な社会貢献活動を支援します。

- **豊かな健康社会への貢献**

ヘルスケア企業としての特徴を活かした社会貢献活動を積極的に展開し、より豊かな健康社会づくりに貢献します。

- **生き生きとした地域社会への協力**

「企業市民」として社会と価値観を共有し、社会貢献活動への賛助ならびに自らもその活動に参画することにより、生き生きとした地域社会の実現に協力します。

- **従業員の社会貢献活動への支援**

従業員がグループの一員であることに誇りを持ち、市民として社会貢献活動を主体的に実践できるように支援します。

2012年5月制定

## 社会貢献活動

# 社会貢献活動

シスメックスは、Sysmex Wayの行動基準の「社会に対して」および「社会貢献活動方針」に基づいた活動を行うことにより、豊かな健康社会づくりと生き活きとした地域社会づくりに貢献していきます。

## 豊かな健康社会づくり

---

### 神戸医療産業都市への参画

「神戸医療産業都市」は、産官学が協力して神戸市への医療・産業の集積を図るプロジェクトです。

シスメックスは、プロジェクトの中心的な拠点である「臨床研究情報センター（TRI）」や「バイオメディカル創造センター（BMA）」などにラボを開設し、臨床研究の推進や、さまざまな医療機関・企業などと共同研究を促進しています。

### 寄附講座の開設を通じた医療への貢献

2004年度から、神戸大学大学院医学研究科に寄附講座「立証検査医学（シスメックス）」を開設し、新規の臨床検査技術の共同研究を進めてきました。現在、同講座では、当社の中央研究所と共同で、HDL（高比重リポタンパク）機能の評価により心疾患のリスクを高精度かつ簡便に診断する技術の開発を行っています。

また、2017年度には、新たに外科学講座 国際がん医療・研究推進学分野に2つの寄附講座を開設し、人工知能・ロボット技術などの最先端テクノロジーの外科領域への導入と、低侵襲かつ根治を実現するがんの外科治療法の確立を目指します。当社は寄附講座と連携し、自社が保有するリキッドバイオプシー技術や、メディカロイドのロボット技術を活用することで、次世代医療や新規医療機器の研究開発を促進します。

### 財団を通じた医療への貢献

東亜医用電子株式会社（現シスメックス株式会社）の創業者故中谷太郎が1984年に設立した「財団法人中谷電子計測技術振興財団」は、2012年に「公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団」と改称し、医工計測技術分野における先導的技術開発の助成を中核事業として、研究者への表彰、技術交流への助成などを行っています。

設立以来、2017年度までの技術開発研究の延べ助成件数は445件、累計助成金額は約16億8千万円※となっています。

※ 累計助成金額は、複数年にわたり助成する長期大型研究助成と特別研究助成を含む。

活動一覧

テーマ	内容	実施会社
人材育成	大学（Shanghai Medical Instrumentation College）と共同でエンジニアを育成	シスメックス 上海
医療に関する物理的支援	災害対策医薬品供給車両の運用体制を共同で構築（兵庫県薬剤師協会、新開トランスポートシステムズとの協働） ▶ 詳細についてはこちらをご覧ください。	シスメックス株式会社
啓発活動	がん受診率50%を目指す国家プロジェクト「がん対策推進企業アクション」への参画	シスメックス株式会社
	教育・啓発のための絵本を作成	シスメックス株式会社
	乳がん撲滅のためのチャリティーウォーク「Making Strides」に参加	シスメックス アメリカ
	がん撲滅のためのチャリティーイベント「Rowing against cancer charity」に参加	シスメックス ヨーロッパ
	乳がん撲滅のための運動「Wacoal Pink ride」に参加	シスメックス マレーシア
国際協力事業への貢献	JICA研修生の受け入れ（計37カ国44名）	シスメックス株式会社
寄付・協賛	公益社団法人 グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）への寄付	シスメックス株式会社
	ケニアでHIV/AIDSの医療体制構築に取り組むNPO法人イルファーへの寄付	シスメックス株式会社
	マラリアのない世界づくりに向けた広報活動「ZEROマラリア2030キャンペーン」（認定NPO法人Malaria No More Japan）への寄付	シスメックス株式会社
	腎臓疾患を抱える子どもたちを支援する団体「Kidney Kids NZ」への寄付	シスメックス ニュージーランド
	病気の子どもとその家族が利用できる滞在施設「Ronald McDonald House」への寄付	シスメックス ニュージーランド



教育・啓発のための絵本シリーズ  
（シスメックス株式会社）



乳がん撲滅のためのチャリティーウォーク  
「Making Strides 2017」に参加  
（シスメックス アメリカ）



がん撲滅のためのチャリティーイベント  
「Rowing Against Cancer Charity」  
（シスメックス ヨーロッパ）

## 活き活きとした地域社会づくり

### 第7回神戸マラソンに協賛

シスメックス株式会社は、阪神・淡路大震災からの復興に手を差し伸べていただいた皆様への感謝の気持ちを込めて毎年神戸で開催されている「神戸マラソン」に、第1回大会から継続して特別協賛しています。

2017年11月に開催された第7回大会にも特別協賛し、ランナーゼッケンなどを提供するほか、同時開催の「神戸マラソンEXPO」にも出展しました。また、ボランティアによる大会運営支援を実施しました。



従業員による給水ボランティア

### 地域の方々との交流イベントを開催

シスメックスは、地域住民の方々を当社施設にお招きし、交流を深めるイベントを毎年開催しています。2017年5月にはテクノパークの庭園を開放し、近隣住民の方々に散策を楽しんでいただくイベントを開催し、約750名にご来場いただきました。当日は「糖尿病／食後血糖について」というテーマの講演会や、採血せずに血液中のヘモグロビン推定値が測定できる当社製品「ASTRIM FIT」による健康チェックなども実施し、医療や検査に興味を持っていただけるようにしました。



テクノパークフェスタ  
(シスメックス株式会社)

### 低所得者向け住宅の修復支援活動とCompanies That Care Honor Rollの受賞

シスメックス アメリカは、世界70カ国以上で低所得者に住まいを提供するための活動を行っている国際NGO「Habitat for Humanity」の活動を支援しており、それらの家の修復費用の寄付および従業員ボランティアによる支援を行っています。また、「Companies That Care Honor Roll 2018」（米国NPO法人Companies That Care主催）を10年連続で受賞しました。同賞は、リーダーの育成や従業員の報酬・福利厚生 の充実、ワークライフバランス・働きやすい職場環境の推進、および地域でのボランティア活動などで優れた取り組みを実施している企業が選定されるものです。



低所得者向けの住宅の修復支援活動  
「Habitat for Humanity」  
(シスメックス アメリカ)



「Companies That Care Honor Roll」を  
10年連続で受賞  
(シスメックス アメリカ)



活動一覧

テーマ	内容	実施会社
次世代育成	出張授業『血液って大切だね』を実施	シスメックス株式会社
	職業体験プログラム「トライやるウィーク」受け入れ	
	企業、大学、研究機関と交流するイベント「サイエンスフェア in 兵庫」に参加	
	海外からのインターンシップ生受け入れ	
	官民協働海外留学支援制度「グローバル人材育成コミュニティ」に参画	
地域振興・文化の発展支援	「みなと異人館」の一般公開	シスメックス株式会社
スポーツ振興への支援	フィギュアスケート三原舞依・坂本花織選手と所属契約を締結	シスメックス株式会社
	サッカーJリーグ「ヴィッセル神戸」に協賛	
自然保護・クリーン活動	「シスメックスの森」を通じた森林保全活動を実施	シスメックス株式会社
	従業員による事業所周辺の清掃活動	
地域社会	貧困層の子供たちの支援を行う「Ride High」に参加し、社内チャリティーを実施	シスメックス UK
	貧困学生への支援を行う「My Future Project」に参加し就業体験の機会提供や教育を実施	シスメックス 香港
	障がいを持つ子どもたちの学校への寄付と従業員との交流イベントを開催	シスメックス アジア・パシフィック
	ホームレスの方々への支援を行う「PERTIWI Soup Kitchen」に参加し、約1,000名に食料と服の配給	シスメックス マレーシア
	孤児を招待し従業員との交流イベントを開催	シスメックス マレーシア



出張授業の様子 (シスメックス株式会社)



貧困学生への就業支援「My Future Project」  
(シスメックス 香港)



ホームレスの方々への支援「PERTIWI Soup Kitchen」  
(シスメックス マレーシア)



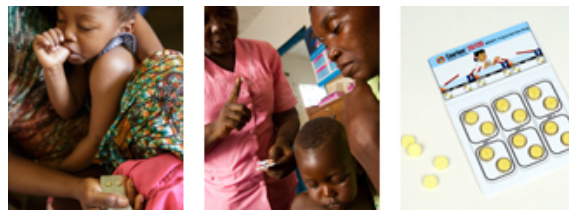
孤児を招いた交流イベント  
(シスメックス マレーシア)

## 従業員の社会貢献活動

シスメックスは従業員の主体的なボランティア活動を奨励しています。

活動を促進するため、従業員が地域のボランティア活動に参加したり、会社主催の社会貢献活動に参加するとポイントが付与される「社会貢献ポイント制度」を設け、ポイントに応じて会社が寄付を実施しています。この制度には国内グループ従業員の37%である1,319名が参加し、その結果、約160万円分を寄付することができました。また、社会貢献ポイント制度の寄付先の一つであるNPO法人ジャパンハート主催の「小児がん患者とその家族をキッザニア甲子園に招待するイベント」に、当社従業員15名がボランティアとして参加し、参加者の付き添いや写真撮影などのサポートを行いました。

各事業所では従業員が企画した社会貢献活動を行っており、古本や古着などをNPOや児童養護施設などへ寄付する活動などを実施しました。



(左) © UNICEF/UNI150956/Asselin  
(中央) © UNICEF/UNI108970/Asselin  
(右) © UNICEF/UNI179689/Markisz  
提供：(公財)日本ユニセフ協会

国内グループ従業員の約37%、1,319名が参画し、  
約160万円を寄付

抗マラリア薬:81,000錠(ユニセフ)、小児がんを抱える子どもと家族の旅行・  
外出への医療者付き添い支援等(ジャパンハート)



キッザニア甲子園でのボランティア活動



児童施設に古本や古着を寄付

献血時に用いる検査機器を提供しているシスメックスでは、従業員も積極的に献血活動に参加しています。

シスメックス株式会社は、2014年度から「献血サポーター企業」に登録し、2017年度は国内グループ従業員の約400名が献血に参加しました。

また、シスメックス アメリカ、シスメックス タイ、シスメックス インドネシア、シスメックス ニュージーランドなどでも定期的に献血活動を行っています。



### マテリアリティ

## 環境への配慮

### 課題認識

気候変動の緩和をはじめ、水資源・鉱物資源などの資源利用、生物多様性の保全など、地球環境の持続可能性は喫緊の課題となっています。また、パリ協定の発効や「持続可能な開発目標（SDGs）」などにも見られるように、環境問題は全世界で取り組むべき重要課題であり、とりわけ企業が果たす役割への期待が高まっています。

シスメックスはグローバルに事業を展開する企業として、深刻化する地球環境問題への対応を優先的に取り組むべき課題の一つと考えています。また、気候変動による大規模な自然災害などは原料調達や製造機能の停止など経営上の重要なリスクと捉えています。

### シスメックスのアプローチ

シスメックスは、長期的な環境マネジメントの指針として、シスメックスグループ長期経営目標の策定にあわせて、2025年を最終年度とする「シスメックス・エコビジョン2025」を策定し、製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体における環境保全を推進しています。

今後も、持続的な成長と、重要な社会課題である環境負荷低減の両立に努めていきます。

## 環境マネジメント

### 環境に関する方針

---

#### 環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

#### 行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品・サービスのライフサイクル、および事業活動のバリューチェーンにおいて、環境マネジメントを推進し、気候変動の緩和への貢献、持続可能な資源の利用（廃棄物削減、リサイクル、水の保全）、生物多様性の保全、化学物質の適正管理に努めます。
3. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを順守します。
4. 環境パフォーマンスを向上させるために、環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品・サービスが環境に与える影響を最小限にするように努めます。
5. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
6. 環境方針から環境目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2018年4月改定

▶ [グローバルコンプライアンスコード「11.地球環境の保護」](#) もあわせてご覧ください。 

## シスメックス・エコビジョン2025

---

### 「シスメックス・エコビジョン2025」の制定

シスメックスでは「シスメックスグループ長期経営目標」の策定にあわせて、新たに「シスメックス・エコビジョン2025」を制定しました。これは、シスメックスが2025年に向けて目指す長期環境ビジョンであり、これまで以上に、開発・生産・販売・サービス&サポートなどの製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体の環境保全を推進するものです。

▶ 「シスメックス・エコビジョン2025」の詳細については活動ハイライト「[長期的視点で環境保全に取り組みます](#)」をご覧ください。

# 環境マネジメントシステム

## グループ環境マネジメント体制

シスメックスは、グループ各社の責任と役割を明確化した「グローバル環境マネジメント規程」を制定し、常務執行役員が務める環境マネジメントオフィサーの統括・管理の下、グループで環境マネジメントに取り組んでいます。

## ISO 14001 認証の取得を推進

シスメックスでは、グループの主要な関係会社において環境マネジメントシステムの国際規格「ISO 14001」の取得を進めています。2018年4月末現在、グループ16社で取得し、認証取得拠点の従業員数がグループ全体の従業員数に占める比率は60%となっています。

国内のグループ会社では、活動の進捗状況や問題点をグループとして把握しマネジメント活動を強化していくために環境活動を一元化し、シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスRA、シスメックスメディカの4社9拠点で、統合認証を取得しています。この結果、環境経営に関する情報を体系的に共有することが可能となりました。また、2016年度に改訂版ISO (ISO 14001:2015) への移行を完了しました。

## ISO 14001 認証取得状況

会社名	適用範囲	事業所	取得時期
シスメックス ヨーロッパ (ISO 50001取得)	臨床検査用試薬の製造	試薬生産工場	1999年11月
	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、 検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの 販売およびアフターサービス	本社	2011年10月
-			
シスメックス ドイツ			
シスメックス株式会社	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、 検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの 開発、設計、製造、販売、アフターサービ ス、ならびに特注タンパク質の販売	加古川工場	2000年4月
		テクノパーク	2002年2月
		本社	2002年2月
		ソリューションセンター	2005年11月
		アイ スクエア	2015年2月
シスメックス国際試薬		小野工場	2001年3月
		西神工場	2007年6月
シスメックスメディカ		-	2001年3月
シスメックスRA		-	2008年6月
シスメックス ブラジル	臨床検査用試薬の製造および販売	-	2009年2月
シスメックス アメリカ	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、 検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの 販売およびアフターサービスならびに検査用 試薬の製造	-	2009年12月
シスメックス リージェンツ・アメリカ		-	
シスメックス ニュージーランド	ヘルスケア情報システムおよびサービスの設 計、開発、実装、サポートおよび臨床検査機 器、各種分析装置、検査用試薬、検査情報シ ステム、ヘルスケア関連ソフトの販売および アフターサービス	-	2011年5月
シスメックス フランス	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、 検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの 販売およびアフターサービス	-	2012年2月

会社名	適用範囲	事業所	取得時期
シスメックス インディア	臨床検査用試薬の製造	-	2012年3月
シスメックス アジア・パシフィック	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、 検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの 販売およびアフターサービスならびに臨床検 査用試薬の製造および販売	本社 試薬生産工場	2012年4月
シスメックス スペイン	臨床検査機器、各種分析装置、検査用試薬、 検査情報システム、ヘルスケア関連ソフトの 販売およびアフターサービス	-	2012年4月
シスメックス 無錫	臨床検査用試薬の開発および製造	-	2013年6月
済南シスメックス	臨床検査用試薬の製造および販売	-	2016年1月

## 環境監査の実施

ISO 14001 認証を取得している各拠点では、環境マネジメントシステムの要求事項に従って、「内部環境監査」および「外部環境審査」を定期的に実施しています。

2017年度は、認証統合している国内グループ4社9拠点の内部環境監査では不適合が4件、外部環境審査では軽微な不適合が1件見つかりましたが、是正対応を完了しています。

## 長期環境目標および中期環境目標の実績

### シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）の長期環境目標およびシスメックスグループ中期環境目標の実績

	シスメックス・ エコビジョン2020の 長期環境目標 (改訂版)	シスメックスグループ 中期環境目標 (2015～2017年度)	2017年度の活動・実績
製品・ サービス等の 環境配慮	環境に配慮した製品・ サービスの提供	環境に配慮した製品・ サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品開発において、省電力、小型化の取り組みを継続。</li> <li>脱動物由来原料の試薬の開発を継続。</li> <li>廃棄物の削減につながるリユース梱包材の対象機種を追加。</li> <li>お客様からのお問い合わせやサービス依頼に対する電話およびネットワークサービス（リモート接続対応）での解決率の向上。（自動車訪問件数の低減によるCO<sub>2</sub>排出量削減）</li> </ul> <p>▶ <a href="#">詳細はこちら</a></p>

	シスメックス・ エコビジョン2020の 長期環境目標 (改訂版)	シスメックスグループ 中期環境目標 (2015~2017年度)	2017年度の活動・実績
	国内・域間物流のCO <sub>2</sub> 排出量50% 削減 (単体売上高原単位) ※ <sup>1</sup> 基準年度 2010年度	国内・域間物流のCO <sub>2</sub> 排出量45% 削減 (単体売上高原単位) ※ <sup>1</sup> 基準年度 2010年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外への輸出について、航空便から海上輸送への切り替えを推進。</li> <li>製品の梱包サイズ適正化や積載シミュレーションによるコンテナ積載率向上。</li> <li>ディスプレイ製品の現地調達の推進。</li> </ul> <p>実績 (単体売上高原単位) :</p> <p>2017年度: 4.924 (t-CO<sub>2</sub>/億円)</p> <p>基準年度: 7.252 (t-CO<sub>2</sub>/億円)</p> <p>対基準年度: 32%削減</p> <p>▶ 詳細はこちら</p>
事業所の環境 配慮	事業所における温室効果ガス排出量 50%削減 (連結売上高原単位) ※ <sup>2</sup> 基準年度 2008年度	事業所における温室効果ガス排出量 40%削減 (連結売上高原単位) ※ <sup>2</sup> 基準年度 2008年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産効率の改善による電力消費削減。 (シスメックス国際試薬)</li> <li>太陽光発電の利用によるCO<sub>2</sub>排出量削減。 (シスメックス ヨーロッパ (ドイツ試薬生産工場)、アイスクエア)</li> <li>高効率型の空調設備への切り替え。 (ソリューションセンター)</li> <li>電力を再生可能エネルギーに転換。 (シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス ヨーロッパ (ドイツ試薬生産工場))</li> </ul> <p>実績 (連結売上高原単位) :</p> <p>2017年度: 7.16 (t-CO<sub>2</sub>/億円)</p> <p>基準年度: 10.07 (t-CO<sub>2</sub>/億円)</p> <p>対基準年度: 29%削減</p> <p>▶ 詳細はこちら</p>
	事業所のリサイクル率 93%以上の達成 ※ <sup>3</sup>	事業所のリサイクル率 92%以上の達成 ※ <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋め立て処理していた「ガラスくず」を道路舗装材料などへ再生処理。 (テクノパーク、ソリューションセンター)</li> <li>購買品の包装材料の再利用。 (シスメックス 無錫)</li> </ul> <p>実績 :</p> <p>2017年度 : 91.3%</p> <p>▶ 詳細はこちら</p>

	シスメックス・ エコビジョン2020の 長期環境目標 (改訂版)	シスメックスグループ 中期環境目標 (2015~2017年度)	2017年度の活動・実績
	試薬工場の水使用量10%削減 (生産量原単位) ※4 <b>基準年度 2008年度</b>	試薬工場の水使用量7%削減 (生産量原単位) ※4 <b>基準年度 2008年度</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>超純水プラントの改良によるRO水(純水)排水の再利用。(シスメックス アジア・パシフィック)</li> <li>浄化処理後の工場排水の再利用。(シスメックス インディア)</li> </ul> 実績(生産量原単位) : <b>2017年度: 23.2 (m<sup>3</sup>/千箱)</b> <b>基準年度: 21.5 (m<sup>3</sup>/千箱)</b> <b>対基準年度: 8%増加</b>  <a href="#">▶ 詳細はこちら</a>

※1 集計範囲: シスメックス株式会社

※2 集計範囲: 工場および主要事業所(13工場、7事業所)

[工場] シスメックス株式会社(加古川工場、アイスクエア)、シスメックス国際試薬(小野工場、西神工場)、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックス ヨーロッパ(ドイツ試薬生産工場)、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所] シスメックス株式会社(本社、テクノパーク、ソリューションセンター)、シスメックス ヨーロッパ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック

※3 集計範囲: 工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所(13工場、3事業所)

[工場] シスメックス株式会社(加古川工場、アイスクエア)、シスメックス国際試薬(小野工場、西神工場)、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックス ヨーロッパ(ドイツ試薬生産工場)、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所] シスメックス株式会社(本社、テクノパーク、ソリューションセンター)

※4 集計範囲: 試薬工場(9工場)

シスメックス国際試薬(小野工場、西神工場)、シスメックス ヨーロッパ(ドイツ試薬生産工場)、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

## 環境リスクアセスメント

### 環境リスクアセスメントの実施

シスメックスはリスクマネジメントの一環として、地球規模で深刻化する環境問題に対する事業活動の影響を「法令遵守」と「環境への影響」の2つの観点から評価し、リスクの低減および事業機会の創出に取り組んでいます。リスクマネジメント体制の中で、2年に1回のリスクアセスメントを実施しています。

## 環境教育

### 環境教育・訓練の実施

シスメックス株式会社では、グループの環境活動やそれぞれの業務がどのように環境に影響を及ぼすかを周知するための全従業員向け一般教育と、各部門に設定した環境マネジメントシステム推進責任者および推進担当者に対する実務知識習得のための専門教育を実施しています。さらに、各部門が必要に応じて専門教育や緊急事態訓練なども行っています。

### 環境教育事例(2017年度)

- 環境一般(eラーニング)教育: ISO統合認証の適合事業所に所属する全従業員向け
- 法規制セミナー: 事業所担当者および開発担当者向け



## 環境（環境への配慮）

# 製品ライフサイクルにおける環境配慮

## 環境に配慮した製品・サービス

### 製品設計における環境配慮

シスメックスでは、お客様が製品を使用される際のエネルギーや廃棄物の低減に貢献するため、製品ライフサイクルマネジメントに関する規程を制定して、検体検査機器の省電力化、試薬使用量の低減などに向けた技術開発に取り組んでいます。

### 取り組み事例

方法	取り組みの効果
試薬濃縮化	<ul style="list-style-type: none"><li>容器・包装材料の省資源化</li><li>検査室で発生する廃棄物の大幅削減</li><li>重量や容積を抑えることによる輸送効率の向上とCO<sub>2</sub>の排出量削減</li></ul>
環境に配慮した原料の使用	環境や安全性に配慮した試薬に切り替えたことにより、廃液の中和剤処理が不要に

XNシリーズの試薬は従来試薬の25倍濃縮試薬



### 原料物質の生産における環境配慮

シスメックスでは、天然資源の使用抑制を目指して、診断薬における動物由来原料のタンパク質に関して、遺伝子組み換えをしたカイコによる生産手法を確立しました。従来、これらの原料の生産には多くのエネルギーを消費していましたが、遺伝子組み換えをしたカイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいため、安定供給が図れるとともに、省エネルギーや廃棄物削減も期待できます。

2017年度に発売を開始した試薬「レボヘムPT」の原料にも、カイコから生産したタンパク質を用いています。これは、国産では初めて薬事認証されています。

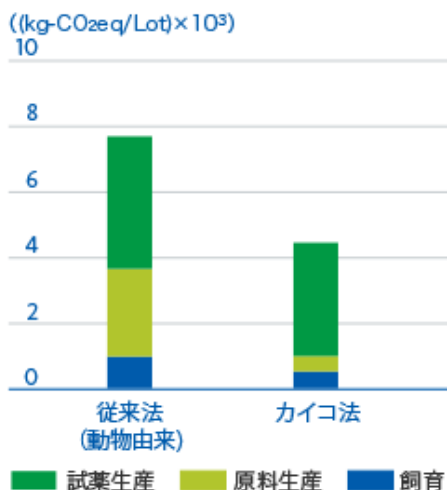
また、この技術を用いて、2012年度から受託生産ビジネスも本格的に開始しており、すでに多くの製薬企業から注文をいただいています。



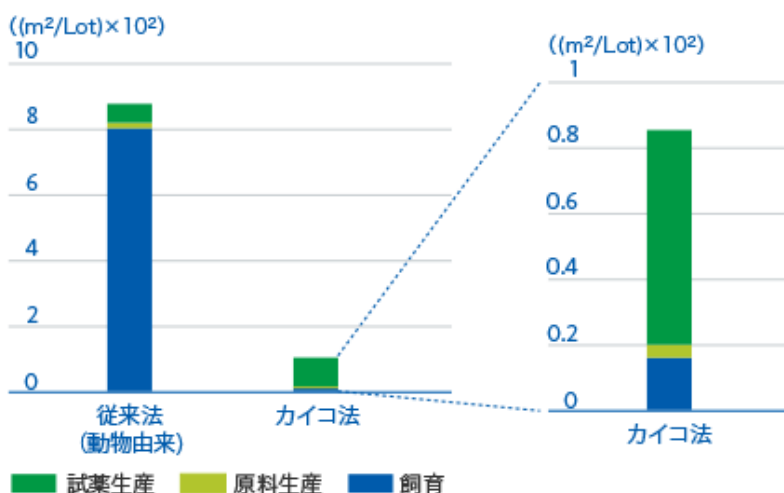
タンパク質生産に用いられるカイコ

カイコ法使用時における従来法との比較（レボヘムPT）

【CO<sub>2</sub>排出量】



【水資源】



※ 自社製品による比較（東京都市大学との共同研究による）

有害物質関連法規制への対応

2011年7月の改正RoHS指令<sup>※</sup>の発効により、EU域内では、2016年7月から検体検査機器、動物用検体検査機器に同指令が適用されることとなりました。

シスメックスは、EU向けに出荷している製品の部品調査および代替品への変更を完了し、2015年度から同指令への適合を宣言しています。


※ EU（欧州連合）で販売される電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令。重金属（鉛、カドミウム、水銀、六価クロム）と、ダイオキシン類の発生原因となる特定臭素系難燃剤（PBB、PBDE）の使用全廃を要求したもの。

## 環境に配慮した調達（グリーン調達）

### 取引先と協力して環境に配慮した調達を推進

シスメックスは、調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定しています。

また、毎年各取引先に対して実施しているCSR調査では、環境管理に対する方針の有無、CO<sub>2</sub>削減や省エネルギーに関する目標、計画の有無などを確認しています。

- ▶ [調達方針についてはこちらをご覧ください。](#)
- ▶ [グリーン調達に関する開示情報の改定・更新履歴](#) 

### グリーン調達基準

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

#### 1. 目的

シスメックスグループは、地球環境保全を進めることにより企業の社会的責任を果たすという環境基本方針を基に、環境に配慮した製品づくりを推進するため、地球環境への負荷が少ない原材料・部品の調達を推進し、環境保全活動に意欲的なサプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の発展を目指します。

#### 2. グリーン調達の方針

シスメックスグループは、調達活動における、当社製品の環境負荷を低減することはもとより、サプライヤー様も含めた生産活動を通じた環境負荷を低減するため『グリーン調達』を実施します。グリーン調達の具体的な取り組みとして、以下の2項目を推進します。

- 1) 環境負荷が少ない原材料、部品の調達を推進します。
- 2) 環境保全に意欲的なサプライヤー様との取引を拡大します。

#### 3. 適用範囲

シスメックスグループにおける原材料・部品および製品の調達活動に適用する。

#### 4. 製品使用化学物質の管理

シスメックスグループは、開発・製造する製品に使用する原材料・部品の選定にあたっては、必要な品質・機能・経済的合理性に加え、環境負荷を低減するため、以下に示す化学物質を使用していない原材料・部品を採用するものとします。

- 1) 製品に使用する化学物質の制限で定めている禁止物質を含有していないこと
- 2) 製品に使用する化学物質の制限で定めている化学物質の含有量が把握されていること
- 3) 使用にあたり、化学物質、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染発生等の環境負荷が低いこと
- 4) 資材に関する環境情報を公開していること
- 5) 梱包材についても、上記内容と同様、化学物質の含有量削減等がなされていること

以上  
2014年11月改定

## 1. 環境マネジメントシステムの構築と運用のお願い

シスメックスグループは、お取引を開始するにあたり、環境保全活動に意欲的な取り組みを実践されていることを明らかにしていただくため、第三者による環境マネジメントシステム認証の有無を確認させていただきます。

- 1) ISO14001の認証
- 2) 簡易版の環境マネジメントシステムの認証

## 2. 原材料、部品の環境情報提供のお願い

シスメックスグループは、シスメックスの環境保全活動にご協力いただくため、サプライヤー様に次に示す環境情報の提供をお願いしております。

- 1) 原材料、部品に含まれる有害化学物質データ
- 2) 欧州RoHS規制物質の不使用証明書
- 3) 欧州RoHS規制に適合した原材料、部品の情報

## 3. サプライヤー様の外注先様に対する環境対応のお願い

シスメックスグループは、サプライヤー様が取引されている外注先様につきましても、環境マネジメントシステムの構築と環境情報の提供にご協力いただくことをお願いしております。この外注先様につきましては、サプライヤー様が責任を持って管理いただくことをお願いしております。

以上  
2014年11月改定

## 禁止物質、削減物質、対象国を明示

グリーン調達基準に基づき、生産および販売する製品を構成する部品、デバイス、材料などに含有される化学物質（環境負荷物質）への対応について、以下に開示しています。

### 1. 禁止物質（使用を禁止する物質）2018年5月31日改訂

▶ [禁止物質](#) 

### 2. 削減物質（削減を必要とする物質）2018年5月31日改訂

▶ [削減物質](#) 

### 3. 対象国一覧（禁止物質・削減物質の根拠となる環境関連法令対応を意図する国および地域）2017年5月31日改訂

▶ [対象国一覧](#) 

# 環境に配慮した物流

## 製品の国内・域間物流のCO<sub>2</sub>排出量削減活動

グローバルに事業拡大を続けているシスメックスは、物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しおよび梱包改革による、CO<sub>2</sub>排出量の削減を進めています。

この結果、2017年度の実績はシスメックス・エコビジョン2020の基準年度である2010年度からは32%減少となっています。2018年度に策定したシスメックス・エコビジョン2025においても、出荷物流におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減を目標に掲げ、継続的に取り組みを進めていきます。



リーファーコンテナ

## 物流プロセス・体制および梱包の見直しによる効果

方法	見直しによる効果
モーダルシフト	ドイツ向け試薬のうち、輸送上危険物に該当するものについてはリーファーコンテナ※などを活用した船便へ切り替え、航空便での輸送量を年間約380t削減。
輸送効率化	中国地域に続きアジア・パシフィックに域内物流ハブ倉庫を設置し、同地域向けの輸送を集約することでCO <sub>2</sub> 排出量を削減。
積載シミュレーション	輸送回数を削減するための積載シミュレーションの強化により、コンテナ積載率を52%（2013年度）から70%以上に改善（2015年度以降）。シスメックス アジア・パシフィックのサプライチェーンでは、最適な積載率を自動で計算する「コンテナ・オプティマイザー」を導入し、効果的な輸送を実現。

※ 内部を一定の温度に保つ設備を持つコンテナ。

物流におけるCO<sub>2</sub>排出量



集計範囲：国内物流倉庫から国内のお客様および海外各地域の港、空港までのCO<sub>2</sub>

## 梱包資材の見直しによる省資源化

シスメックスでは省資源のために国内向けの機器製品輸送にリユース梱包材を活用し、2017年度は約14tの段ボールを削減しています。

また、海外輸送用に導入しているスチール製梱包材は輸送強度を高めるだけでなく、届け先でリサイクルが可能となり、環境負荷の低減にも貢献しています。

さらに、シスメックス スイスでは、梱包材の廃棄物を少なくするため、再利用可能な冷却貨物用のリユース梱包箱を導入しました。

### 返却時に折り畳みができるリユース梱包材の導入



## 環境（環境への配慮）

# 事業所活動における環境負荷低減： 気候変動対策

## 温室効果ガスの排出量削減

### 事業所の温室効果ガス排出量の削減活動

各事業所では、直接的または間接的に発生する温室効果ガスの排出量を削減するために、さまざまな活動を進めています。

2017年度の温室効果ガス排出量原単位は、前年度比で約2.7%削減し、シスメックス・エコビジョン2020の目標に対しては、基準年度（2008年度）排出量（連結売上高原単位）から29%削減となっています。



LED照明（小野工場）

### 温室効果ガス排出量削減の取り組み

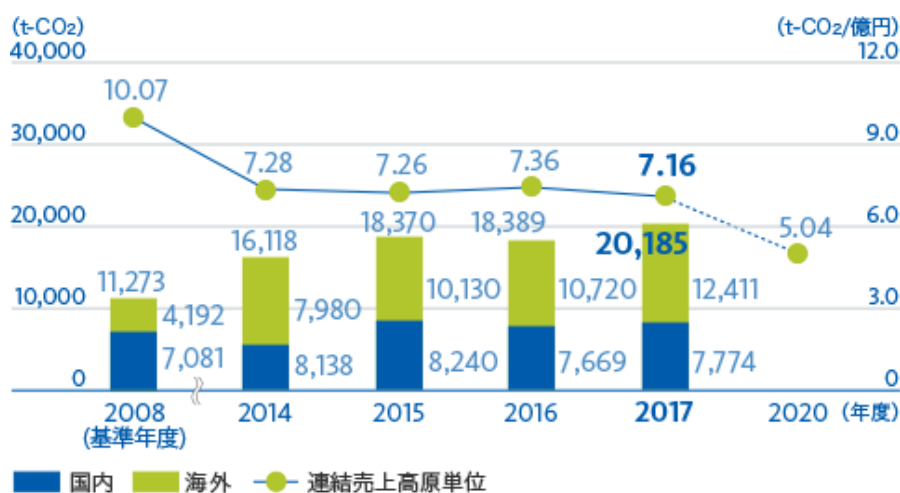
取り組み	会社名	内容
省エネルギー対策	シスメックス株式会社	電力監視システム（デマンド監視機能）※1の設置による電力使用量の総量把握および管理と、その分析により事業所の特性にあった省エネ対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>夏期・冬期の室温管理の徹底</li> <li>階段照明などへの人感センサーの設置</li> <li>省エネ空調設備への更新</li> <li>LED照明の導入 など</li> </ul>
	シスメックス ヨーロッパ	新しい空調システムの導入
設備等の高効率化	シスメックス株式会社	ソリューションセンターで、ガスを使用しない高効率型の空調設備への切り替え
	シスメックス ヨーロッパ	主要な試薬充填室の照明をLEDに交換
	シスメックス 無錫	保冷库の冷媒を温暖化係数の小さい冷媒に転換
再生可能エネルギーの導入	シスメックス株式会社	アイ スクエアで、太陽光パネルの設置および作業場所に自然光を採り入れることで使用電力をセーブ
	シスメックス ヨーロッパ	100%再生可能エネルギーの電力を使用
	シスメックス UK	電力の一部に再生可能エネルギーを使用

取り組み	会社名	内容
従業員への啓発	シスメックス マレーシア	通勤時にハイブリッド車を使用している従業員に「グリーンナーシスメックスポイント」を付与し、エネルギー使用量・CO <sub>2</sub> 排出量を削減
	シスメックス オーストラリア	通勤時の公共交通機関利用を推奨
	シスメックス インディア	通勤時に利用している従業員の自家用車は全て、PUC証明※2を受けたものであることを確認

※1 24時間連続して最大需要電力（デマンド値）を計測し、設定した目標値を超過しそうになると警報を発信したり、電気の使用状況を日報、月報で報告する機能。

※2 PUCとは、Pollution Under Controlの略で、車からの排出ガスが公害規制基準値以下であることを証明するもの。インドでは法律により、半年に1度のPUCテストを受け、PUC証明を受けることが義務付けられている（新車のPUC証明の有効期限は1年間）。

### 事業所での温室効果ガス排出量



集計範囲: 工場および主要事業所

[工場]

シスメックス株式会社（加古川工場、アイスクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックスヨーロッパ（ドイツ試薬生産工場）、シスメックスブラジル、シスメックスリージェンツ・アメリカ、シスメックスインド、シスメックスアジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス無錫

[主要事業所]

シスメックス株式会社（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）、シスメックスヨーロッパ、シスメックスアメリカ、シスメックス上海、シスメックスアジア・パシフィック

### 国内社用車のCO<sub>2</sub>排出量削減

約400台ある国内の社用車の燃料消費量を抑え、CO<sub>2</sub>排出量を削減するために、イントラネットを利用して各車両の走行量、使用ガソリン量を「見える化」し、ドライバーの意識向上を図っています。また、低燃費車やハイブリッドカーの導入も進めており、国内社用車からのCO<sub>2</sub>排出量は前年度比で約6%減少しました。

### 関連法規制の遵守

省エネ法に基づき、シスメックス株式会社の年間エネルギー使用量を集計した定期報告書とエネルギー削減計画をまとめた中長期計画書を経済産業省へ提出しています。今後も努力目標達成の維持を目指して、国内グループ全社の省エネルギー活動を推進していきます。



## 環境（環境への配慮）

# 事業所活動における環境負荷低減： 資源循環

## 廃棄物の管理とリサイクル

### 廃棄物量の削減と安定したリサイクル率の維持

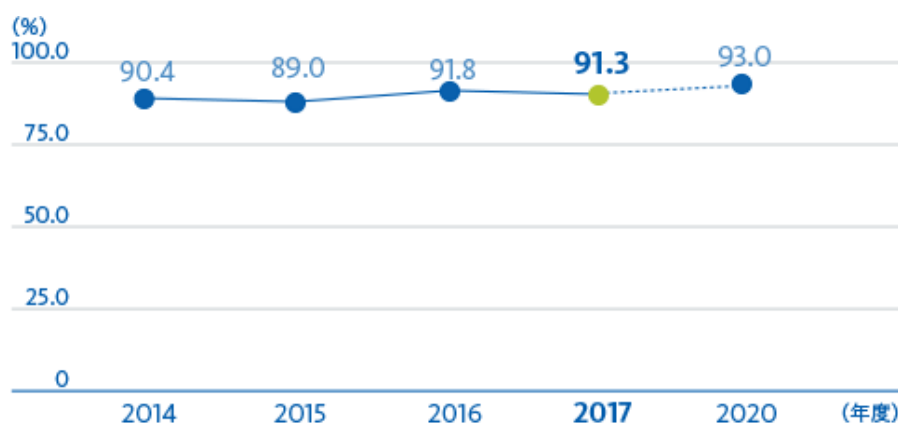
シスメックスは、廃棄物の削減やリサイクル率向上に継続的に取り組んでいます。

事業が拡大し新たな拠点設立や拡張、従業員数の増加などにより廃棄物総量は増加していますが、各事業所の取り組みにより、グループのリサイクル率は、91.3%と高い水準を維持しています。

### 廃棄物量削減の取り組み

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	埋め立て処理していたガラスくずを道路舗装材料へ再生処理するリサイクル、ガラスくずのマテリアルリサイクル
シスメックスRA	エタノール再生装置を導入し、排出後、焼却処理されていた廃エタノールの排出量を約7分の1に削減
シスメックス 無錫	購買品の包装用PE袋を生活用ごみ袋として再利用

事業所のリサイクル率



集計範囲: 工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所

[工場]

シスメックス株式会社（加古川工場、アイ スクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックス ヨーロッパ（ドイツ試薬生産工場）、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所]

シスメックス株式会社（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）

# 水資源の有効利用

## 水使用量削減と適切な排水処理

シスメックスは中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用するなど、事業活動の中で上水や地下水を使用しています。そのため、水使用量の削減を重要な社会的責任の一つと位置付けて、シスメックス・エコビジョン2025で水使用量の削減の目標を設定し、各拠点で水の使用効率を高めるなどの取り組みを進めています。

2017年度の水使用量（生産量原単位）は、前年度から約9%改善しました。シスメックス・エコビジョン2020の基準年度に対しては、8%増です。

## 各事業所の主な取り組み

会社名	取り組み
国内試薬工場	生産効率の改善を進め、工数削減を図るとともに、水使用量を低減
シスメックス アジア・パシフィック	超純水プラントを改良し、工場が稼働していない時間帯を利用してRO水（純水）排水をリサイクル
シスメックス インディア	浄化処理後の工場排水をリサイクルし、工場内の緑地へ引いて水やりに使用

試薬工場での水使用量



集計範囲: 試薬工場 (9拠点)

シスメックス国際試薬 (小野工場、西神工場)、シスメックス ヨーロッパ (ドイツ試薬生産工場)、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

## 紙使用量の削減

---

### 資料の電子データ化を推進

シスメックス株式会社ではパソコンやタブレット端末、スマートフォンなどを活用した電子データの送受信でペーパーレス化に取り組んでおり、それによって業務効率の向上と紙使用量および廃棄量の削減を実現しています。

電子データを会議参加者に事前配布することで議案についての確認・検討が可能となり、その結果、会議の効率が向上しただけでなく時間の短縮にもつながっています。保存を前提とした紙の資料を使わないことは社内情報が漏えいするリスク低減にもつながります。シスメックス コリアでは、稟議承認のためのシステムを導入し、2万枚の紙を削減しました。さらに、サプライヤー様向けの製品部品図面を、紙ではなく電子データで提示することでも紙使用量を削減しています。

## 環境（環境への配慮）

# 事業所活動における環境負荷低減： 汚染防止

## 化学物質管理

---

### 有害物質の貯蔵・使用状況の把握と管理

シスメックスでは製品の研究開発や生産工程で化学物質を扱っています。そのため紛失・漏えいの防止はもちろん、現場で作業に従事する従業員に健康被害が及ばないように化学物質の適正管理に努めています。

### 有害物質の管理方法

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	<ul style="list-style-type: none"><li>薬品管理委員会を設置し、薬品事故の低減、関連部門への教育など、管理体制を強化（テクノパーク）</li><li>学術実験室において「学術本部実験室管理基準」に基づき薬品管理を徹底（ソリューションセンター）</li></ul>
シスメックス国際試薬	IDカードや指紋認証により、登録者以外の劇物危険物保管庫への入室を禁止

## 有害廃棄物の排出・排水・大気への排出に関する管理・処理

---

### 有害廃棄物の管理・処理

生物由来の物質による万が一の感染の危険性に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。

また、その他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。

### 排水管理・処理

シスメックスでは水質の保全を重視し、化学物質を扱う開発拠点や工場からの排水で河川や地下水に影響が及ばないように独自の排出基準を設定し、管理しています。

### 排水管理・処理方法

会社名	方法
シスメックス国際試薬	小野工場ではBOD（生物化学的酸素要求量）の基準値を超えた場合にアラーム（警報）を発出するシステムを導入し、有機物を含む廃液の流出を未然防止
シスメックスRA	廃液処理装置を導入し、感染性廃液を加熱滅菌で無害化して直接下水へ排出
シスメックス アメリカ	新しい排水処理システムを試薬工場に導入し、試薬製造の際の廃棄物からホウ素含有物を除去

## 大気への排出に関する管理・処理

国内のグループ会社では、2015年4月1日に改正施行された、フロン排出抑制法に対応するために、各社で対応手順マニュアルを設定し、所有・管理するフロン含有機器の明確化、適切使用、点検の実施、算定漏えい量の把握を実施しています。シスメックスメディカでは、洗浄室に局所排気装置を設置し、有機溶剤処理中のガスを活性炭で処理することにより、敷地外への影響を軽減しています。

# 生物多様性保全

## 生物多様性との関わり

シスメックスでは、中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用しており、また他にも事業活動を行うにあたり地球上の生物から多くの恩恵を受けています。そのため、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置付けるとともに、生物多様性保全への貢献を目指しています。

▶ 診断薬における動物由来タンパク質原料（遺伝子組み換えカイコ）の切り替えについてはこちらをご覧ください。

## 森林保全活動

### 「シスメックスの森」を通じて、生物多様性保全に貢献

2013年度から、兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、森林整備活動をスタートさせました。試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」（17ヘクタール）のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名付け、従業員ボランティアによる間伐作業などを実施し、「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。2017年度は、10回の活動を実施して、延べ205名が参加しました。

### 「シスメックスの森」での取り組み

取り組み	内容
生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none"><li>絶滅危惧種の保全（カスミサンショウウオ※1の生育環境の保全、アサギマダラ※2を呼びのための植物の植え付けなど）</li><li>希少な野生植物の保存（ササユリの栽培による種の回復）</li></ul>
教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"><li>子どもたちが自然との触れ合いを楽しめるプログラムを実施（自分たちの手でペイントした小鳥用巣箱の設置や、挿し木、野菜やシイタケ栽培など）</li><li>環境省・農林水産省・国土交通省が主唱する「グリーンウェイブ」に登録（国連による「国際生物多様性の日」（5月22日）への参加呼びかけ）</li></ul>

※1 環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている小型のサンショウウオ。

※2 その多くが春に日本に飛来し、秋には台湾など南方に約2,000kmもの長距離を移動する珍しい渡り蝶。千葉県のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されている。

▶ 従業員ボランティアを促進するための制度についてはこちらをご覧ください。

▶ 「シスメックスの森」についてはこちらをご覧ください。



シスメックスの森 (森林整備活動の参加者)



シスメックスの森 (希少な生物の保存)

## その他地域での活動

会社名	活動内容
シスメックス スペイン	再生可能エネルギーの推進と環境保全のため、バイオマスエネルギーのプロジェクトに参画
シスメックス ニュージーランド	ヨーロッパ人の開拓により絶滅の危機に瀕したキーウィをはじめとする固有動植物をかつての状態に回復する取り組みを支援
シスメックス インディア	従業員による50本の植樹を実施



ニュージーランドでのキーウィ保護活動支援



インド試薬生産工場による植樹活動

### マテリアリティ

## ガバナンス

### 課題認識

近年、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメントに関する企業不祥事の多発と、それに伴う社会的影響がますます大きくなってきています。

このような状況を踏まえ、2015年6月には、企業に対して財務的側面だけでなく非財務的側面にも配慮した事業活動を行うことを求める「コーポレートガバナンス・コード」が施行されました。企業には、ガバナンスおよび内部統制の強化や、経営の基盤強化に向けたコンプライアンスおよびリスクマネジメント体制の強化などが求められており、シスメックスにおいてもガバナンスの強化はステークホルダーからの信頼の確保、ひいては中長期的な企業価値向上のための重要な経営課題の一つと考えています。

### シスメックスのアプローチ

シスメックスは、監査等委員会の設置や社外取締役による監督機能強化、取締役会の実効性向上などのガバナンスの強化を進めています。あわせて、コンプライアンス委員会や内部通報制度の設置、グループ全体でのリスクマネジメント機能強化に向けた体制の整備など、持続的な成長に向けた基盤強化に取り組んでいます。

今後も、経営の健全性、透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を目指していきます。

▶ [コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。](#)



# コンプライアンスマネジメント

## グループ方針

### 「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、グループ企業理念である「Systemex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義し、グループの全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定しています。

### グローバルコンプライアンスコード

#### 1. お客様への安全と安心の提供

私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。

#### 2. 公正な取引と自由な競争の推進

私たちは、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守し、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。

#### 3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底

私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、各国・地域の関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。

#### 4. 適正な研究開発活動の実施

私たちは、研究開発を行うにあたっては、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令等を遵守するとともに高い倫理観をもって活動を行います。

#### 5. 知的財産権の尊重

私たちは、グループの知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりいたしません。

#### 6. 国際的な平和と安全の維持

私たちは、各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。

#### 7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

## 8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO 中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

## 9. 公私のけじめと利益相反行為の禁止

私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品ならびに情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。

## 10. 社会との健全な関係の保持

私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。

## 11. 地球環境の保護

私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、各国・地域の環境に関する国際基準等にもとづき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

2017年5月改定

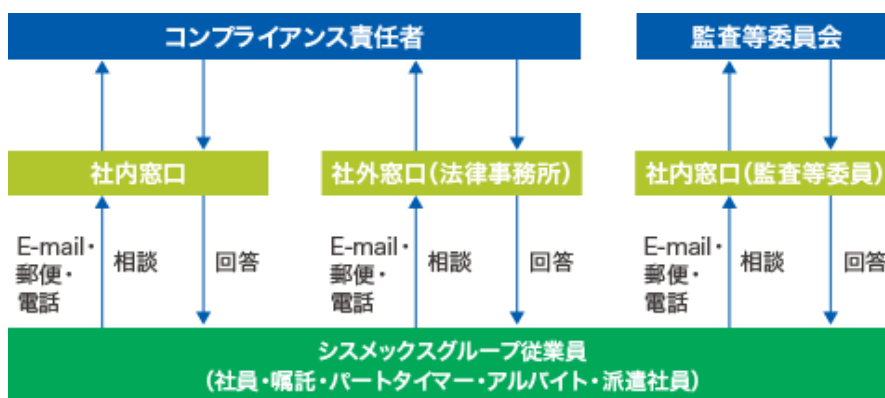
▶ グローバルコンプライアンスコード全文についてはこちらをご覧ください。 

## 内部通報制度を国内外で運用

シスメックスでは、全グループ会社で内部通報制度を設置し、運用しています。

国内においては、内部通報制度「カンパニユラライン」を設置し、贈収賄や人権侵害などを含むコンプライアンス上の問題に関する相談を受け付け、早期に解決を図るようにしています。「カンパニユラライン」では、社内・社外の2つの窓口で、電子メール、郵便、電話による相談や通報を受け付けています。さらに経営陣に関する相談・通報のために監査等委員による窓口も設けています。寄せられた情報は匿名で取り扱い、公益通報者保護法に基づき、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。

内部通報制度「カンパニユラライン」



海外においては、相談・通報窓口は各国の言語に対応しています。

2017年度は国内・海外合わせて32件の相談が寄せられ、それぞれの相談案件に対し、事実調査を行った上で適切に対処しました。

# コンプライアンス教育

---

## コンプライアンス教育を継続して実施

シスメックスではコンプライアンスを徹底するために、グループ各社にコンプライアンス責任者を設置し、コンプライアンス教育を実施しています。入社した従業員に、グループにおけるコンプライアンスの考え方やグローバルコンプライアンスコードについて教育する他、管理職向けの研修や重点テーマ別のeラーニングを実施するなどしてコンプライアンス意識の浸透・徹底を図っています。

## 2017年度の主なコンプライアンス教育実績

### (国内)

- 新たに入社した従業員へコンプライアンス研修を実施
- 新任係長を対象にコンプライアンス研修を実施
- 国内グループ従業員を対象に競争法・反贈収賄研修を実施
- 国内グループ従業員を対象に改正個人情報保護法の研修を実施
- 新入社員、中途採用者、新任役職者を対象にLGBT※を含むハラスメント、労務管理、労働者派遣法に関する人権研修を実施
- 公正な取引を推進するためのシスメックス プロモーション コード研修を実施

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった性的マイノリティの総称。

### (海外)

- 新たに入社した従業員へコンプライアンス研修を実施
- グローバルコンプライアンスコード改定に伴う研修を実施
- 管理職に対するコンプライアンス研修を実施

## コンプライアンス

# 安全保障貿易

## 安全保障貿易に関する方針

---

シスメックスではグローバルコンプライアンスコード「6.国際的な平和と安全の維持」で各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引に関与しないことを定めています。

▶ [グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。](#)

## 体制

---

不正輸出を防止するため社長直轄の安全保障貿易管理委員会を設置しています。また、海外の統括現地法人にも安全保障貿易の管理担当者を置き、グローバルでの運営体制を構築しています。

## 活動

---

### 管理の徹底と効率化を推進

近年、シスメックスでは、海外の拠点間で製品の輸出を行う機会の増加に伴い、貿易管理の徹底と効率化に向けて、プロセスの変革やシステム化など、複雑化する物流への対応を進めています。

2017年度には各国の安全保障貿易の責任者および担当者が集い、第2回グローバル安全保障会議を開催しました。今後もグローバルでの連携をより活発にすることで、グループ全体の取り組みを推進していきます。

### 継続的な教育の実施

シスメックス株式会社では年に1回、全社員を対象とする安全保障貿易管理に関する基礎的なeラーニングを実施しています。さらに、最新の世界情勢や法規制に関する講習会、新たに導入したシステムの説明会などさまざまな教育も継続的に実施し、安全保障貿易管理に対する意識向上を図っています。



研修の様子


## コンプライアンス

# 知的財産管理

## 知的財産権の尊重に関する方針

---

シスメックスは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりしないことを、グループの全役員・従業員が遵守すべきルールとして、グローバルコンプライアンスコード「5.知的財産権の尊重」に定め、このルールの周知徹底を図っています。

▶ グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。 

## 体制

---

自社の知的財産権を確保するための出願活動や第三者の知的財産権に対する対応について、新製品開発プロジェクトごとに、知的財産部門、研究開発部門、事業推進部門などのメンバーがグローバルにパテントレビューを実施し、審議しています。

## 活動

---

知的財産権取得の重要性と適切な管理、尊重すべき意義などについて研究開発部門、事業推進部門などを対象に階層別（初級、中級、上級、シニアマネジメント）の研修を行い、知的財産に関する認識の向上と共有を図っています。


# 研究倫理

## 研究倫理

---

### 適正な研究開発活動の実施

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「4.適正な研究開発活動の実施」において、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令などを遵守するとともに高い倫理観をもって研究開発を行うことを定めています。また「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社ウェブサイトで公開し、透明性を確保しています。


- ▶ 「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」についてはこちらをご覧ください。 
- ▶ 研究倫理審査委員会の活動についてはこちらをご覧ください。

### 動物実験に対する配慮

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「4-4 動物実験」に定めたとおり、動物愛護に関する各国・地域の法令などを遵守し、代替法の使用を優先的に検討した上で必要最小限にとどめるとともに、苦痛を軽減するよう十分配慮し、動物実験を行っています。動物実験は公的な指針に準拠した社内規程に従って実施され、「実験管理委員会」により実験計画が規程に準拠しているかを厳格に審議しています。

#### 準拠している指針

- 動物の愛護及び管理に関する法律（環境省）
- 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（環境省）
- 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（文部科学省）
- 動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（日本学術会議）

- ▶ グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。 

# 腐敗防止

## 贈収賄防止に関する基準整備、教育実施

---

シスメックスは、企業の自発的取り組みとして国連が提唱するグローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、その10原則の一つである「企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の徹底を図っています。

世界的な腐敗行為撲滅への機運が高まり、各国の法整備・執行強化が進む中、シスメックスでは、全役員・従業員に適用するグローバルコンプライアンスコードにて贈収賄行為を明確に禁じることに加え、贈収賄防止のための規程で、禁止行為、デューデリジェンス、教育の実施、管理体制などについて定め、グループ内へ周知徹底しています。

また、日本、米国、英国、中国などの主要国の法規制に関するガイドブックを作成するとともに、eラーニングなどによる教育研修を実施しています。

### 贈収賄防止規程の概要

- シスメックスは、事業の獲得または事業上の便宜の獲得<sup>※</sup>を目的とするなど、不正の利益を得るために提供する金銭その他の有形・無形の一切の利益を、公務員に対してのみならず、公務員以外に対しても提供することを禁止する。  
<sup>※</sup> 行政手続きを回避・簡略化する、取引機会を取得・維持する、入札の際の便宜を得る、機密情報を取得すること等をさす。
- シスメックスは、新規取引を行う際、および合併・買収を行う際は、事前に相手先の身元、素性、事業内容等の通常の調査を実施するのみならず、公務員等との関係、過去における贈収賄事案への関与の有無等の調査を実施する。
- シスメックスは、取引先等に対する支払いが、賄賂、またはその疑いがある場合には、その支払いを禁止する。
- シスメックスは、グループの役職員を対象とする、贈収賄防止に関する教育・研修を定期的に行う体制を整備し、実行する。
- この規程への違反または違反が疑われる事象については、速やかにコンプライアンス責任者に報告しなければならない。

▶ [シスメックスプロモーションコードについてはこちらをご覧ください。](#) 



## 医療機関等との関係の透明性確保

---

### 国内の対応

当社では、研究開発から生産、販売、サービス&サポートにいたるまでの全ての段階で医療機関・医療関係者の皆様と連携する機会が増えており、高い倫理観に基づいて取引を行う必要があります。

一般社団法人日本臨床検査薬協会が制定された「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」（2011年）の理念を踏まえ、会員企業であるシスメックス株式会社、シスメックス国際試薬もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開しています。

- ▶ [一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」](#)は[こちらをご覧ください。](#) 
- ▶ [医療機関等への資金提供に関する情報についてはこちらをご覧ください。](#) 

### 海外の対応

米国・フランス・ベルギーでは、企業に対し医療機関との関係の透明性確保を求める法律（サンシャイン法）が制定されており、シスメックスでは、対象となる医療機関等への資金提供等に関する情報を各国当局に報告・公開しています<sup>※</sup>。

<sup>※</sup>当社ウェブサイトにも当局サイトで公開されている情報を公開します。

- ▶ [医療機関等への資金提供に関する情報についてはこちらをご覧ください。](#)

## コンプライアンス

### 税務戦略

#### 税務の方針

---

シスメックスは、税の透明性の向上を図るため、グローバルコンプライアンスコードにおいて「7.適正な会計処理と納税の実施」を定めています。また、海外のグループ会社間取引価格については、国際的なコンセンサスであるOECDガイドラインなどに従って算定しています。

- ▶ [グローバルコンプライアンスコードはこちらをご覧ください。](#) 

#### 納税実績

---

有価証券報告書などにおいて、グループとしての法人税の納税額を開示するとともに、法定実効税率との差異要因についても開示しています。

- ▶ [有価証券報告書はこちらをご覧ください。](#)
- ▶ [Sysmex Report \(Financial and Other Information\)はこちらをご覧ください。](#)

#### 英国における税務戦略（英語のみ）

---

- ▶ [英国における税務戦略についてはこちらをご覧ください。（英語のみ）](#) 



# リスクマネジメント

## リスクマネジメント体制

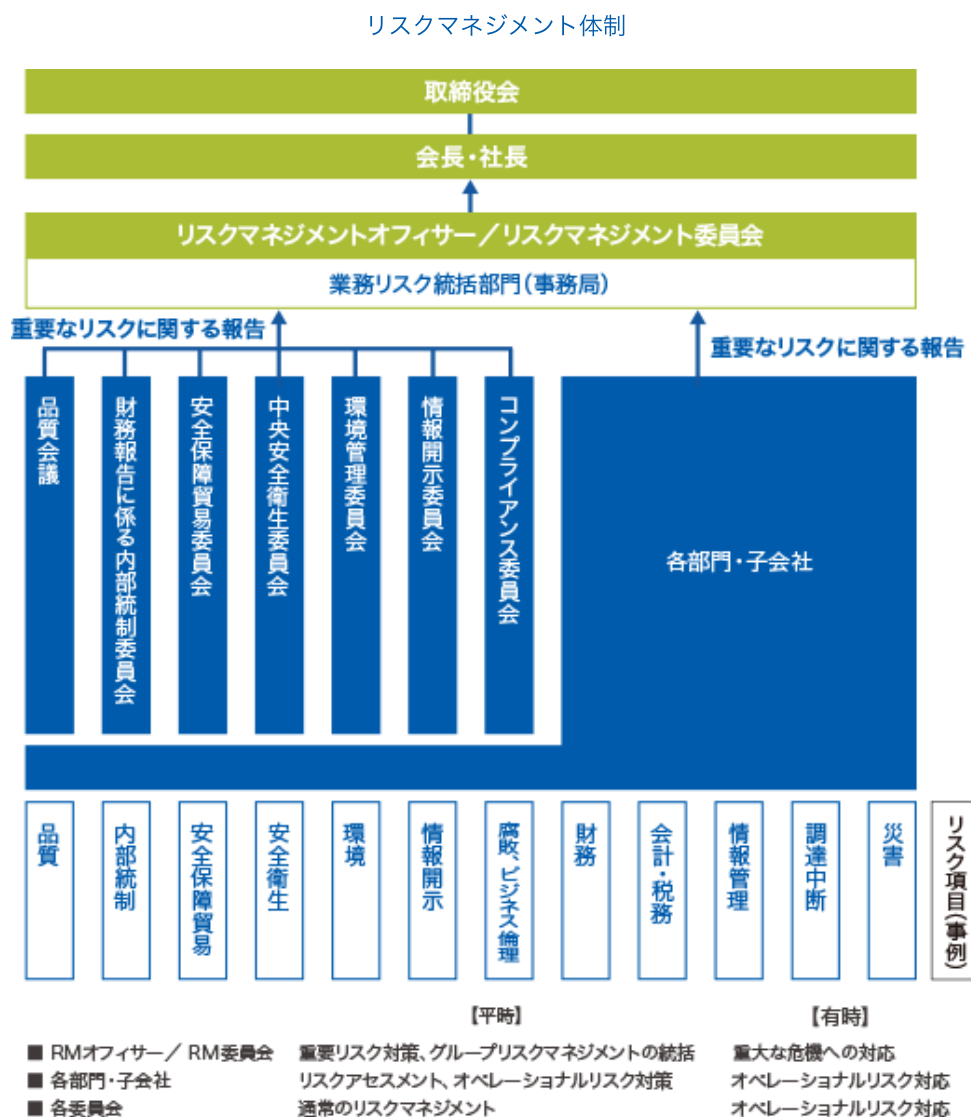
### リスクマネジメント体制

#### 委員会を設置してリスクマネジメントを推進

シスメックスでは、グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として「リスクマネジメント委員会（RM委員会）」を設置しています。専務執行役員が最高責任者（リスクマネジメントオフィサー）である委員長を務め、メンバーはリスクに関連する取締役、執行役員で構成されています。

RM委員会では、腐敗やビジネス倫理などのコンプライアンス、人材、労働安全衛生、環境、納税を含む会計・財務などさまざまなリスクについて定期的に評価を行い、グループとして事業に与える影響が大ききリスクを特定して対策を講じています。

また、RM委員会では、コンプライアンス委員会などの関連委員会および各部門・関係会社を実施するリスクマネジメントの状況をモニタリングするとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクが発生した場合は、その対応について審議します。



▶ コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。

## リスクマネジメント

# 災害対策

## 緊急時に迅速に対応できる体制を構築

---

シスメックスでは、災害などの危機発生時において、医療機関への安定的な製品供給やサービスの提供を通じて社会的責任を遂行するために、生産、調達などの機能ごとに事業継続計画（BCP）を策定しています。BCPでは、危機発生時でも医療機関において当社製品が安定して稼働し続けられるように、供給を優先すべき重要製品を選定しています。また、災害対策基本規程等の災害対応に関する規程やマニュアルを整備し、緊急時に迅速に対応できる体制を整えています。

緊急連絡手段として「安否確認ツール」を国内グループ会社に導入し、グループ間での安否確認を迅速に行える体制を整えています。また、国内グループ間の各事業所にはデジタル無線機を設置し、通信途絶の際にも連絡が取れる手段を確保し、備蓄品および帰宅支援品も人数分備えています。eラーニングによる防災／災害時対応およびBCP周知教育や模擬訓練などを通じ、BCPの実効性向上を図っています。

シスメックスが運用するグループのIT基幹システムについては、災害などに強い社外データセンターに配置するとともに、万一災害などの発生時に通常稼働しているシステムがダウンした場合でも、速やかにバックアップシステムへ移行できるシステム基盤を構築しています。

▶ 災害時に備えた対応（BCP）についてはこちらをご覧ください。

# 情報セキュリティー

## 情報セキュリティーの強化

---

シスメックスでは、お客様や研究開発などの実験に協力いただいた方々からお預かりしている情報や自社の技術情報など、重要な企業秘密を保持していることから、企業秘密の漏えいをグループにとって重要なリスクの一つと捉え、その顕在化防止に取り組んでいます。

全グループ会社共通の情報セキュリティーや企業秘密に関するグローバル規程を策定し、情報の外部漏えい防止、サイバー攻撃などへの対策を強化しています。また国内グループ会社では、定期的に情報セキュリティーと企業秘密に関するeラーニングを実施しています。

またシスメックスCNAでは、情報セキュリティーマネジメントシステム（ISMS）に関する国際規格ISO 27001の認証※を取得し、サービス・サポート時に取り扱う情報の機密性・完全性・可用性を確保しています。

※ サービス・サポート部門において2016年より取得

## CSR（企業の社会的責任）

# 社外からのCSR評価

## CSR関連インデックスなどへの組み入れ

### 世界的なサステナビリティインデックスに選定

財務的な視点に加え、環境・社会・ガバナンス（ESG）の非財務の視点から企業の持続可能性（サステナビリティ）を評価し、長期的視点で投資を行う責任投資が拡大しています。その責任投資の指標として、世界ではさまざまなサステナビリティインデックスが利用されています。シスメックスは持続可能性が高い企業として、多くのサステナビリティに関連するインデックスに選定されています。

- Dow Jones Sustainability World Index<sup>※1</sup>（2016年度より）
- Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index<sup>※1</sup>（2012年度より）
- FTSE4Good Index<sup>※2</sup>（2008年度より）
- FTSE Blossom Japan Index<sup>※3</sup>（2017年度より）
- MSCI ESG Leaders Indexes<sup>※4</sup>（2011年度より）
- MSCI SRI Indexes<sup>※4</sup>（2013年度より）
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数<sup>※5</sup>（2017年度より）
- MSCI日本株女性活躍指数<sup>※6</sup>（WIN）（2017年度）
- Ethibel Excellence<sup>※7</sup>（2011年度より）
- Ethibel Pioneer<sup>※7</sup>（2014年度より）
- Ethibel Sustainability Index（ESI）<sup>※8</sup>（2015年度より）
- Global 100（世界で最も持続可能な100社）<sup>※9</sup>（2017年、2016年、2012年）

※1 米国のS&P Dow Jones Indices社とスイスのRobeco SAM社が共同開発したESG投資インデックス。企業のサステナビリティを「経済・環境・社会」の側面から評価し、総合的かつ先進的な取り組みを行って、長期にわたり持続的な成長が期待される企業を選定している。World Indexは、世界の上場企業が対象。Asia Pacific Indexは、アジア太平洋地域の上場企業が対象。

※2 英国ロンドン証券取引所グループのFTSE Russell社が発表しているESG投資インデックス。世界主要企業の一般に公表されている情報のみを用いたESG（環境・社会・ガバナンス）評価に基づいて、優れた企業を選定している。

※3 英国のFTSE Russell社が、ESG（環境、社会、ガバナンス）について優れた対応を行っている日本企業を選定している。国連の持続可能な開発目標（SDGs）を含む国際基準から導出されたFTSE4Goodの組み入れ基準を活用している。

※4 米国モルガンスタンレーグループのMSCI社（モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社）が開発したESG投資インデックス。評価対象企業の産業の特徴を踏まえ、各インデックスの重要度の高いESG課題に絞り込んだ評価に基づいて企業を選定している。

※5 米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中でESG格付けが相対的に高い企業を選定している。

※6 米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多様性に優れた企業を選定している。

※7 ベルギーの非営利団体Forum Ethibelが開発した投資インデックス。企業の社会的責任の観点から高いパフォーマンスを示している企業を選定している。PioneerとExcellenceの2種類があり、Excellenceに選ばれた企業の中から、さらに優れた企業がPioneerに組み入れられる。

※8 Ethibel Excellenceに選ばれた企業の中から、浮動株時価総額などの制約条件に基づいて、構成されているインデックス。

※9 カナダのコーポレート・ナイツ社が選出する、持続可能性の高い企業上位100社。世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）にあわせて毎年発表される。

MEMBER OF  
**Dow Jones**  
**Sustainability Indices**  
In Collaboration with RobecoSAM



FTSE4Good



FTSE Blossom  
Japan



## 外部からの評価、表彰

---

### 2015～2017年度 実績

#### 2018年

- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll<sup>※</sup> 2018」に10年連続で選出（シスメックス アメリカ）  
<sup>※</sup> 従業員とその家族、地域社会の幸福に寄与している企業を選出する企業ランキング。NPO「Center for Companies That Care」の調査による。
- 3月 • 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の2回目の選定
- 2月 • 平成29年度 第21回環境コミュニケーション大賞 優良賞（第21回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門）受賞（「シスメックス あんしんレポート 2017」）

#### 2017年

- 11月 • 超解像蛍光顕微鏡が「2017年度 グッドデザイン金賞」を受賞
- 11月 • Harvard Business Reviewが発表する「The Best-Performing CEOs in the World 2017」にて18位に選定
- 10月 • シスメックス アジア・パシフィックが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2017」に選定
- 9月 • 「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」に選定
- 8月 • 「Forbes The World's Most Innovative Companies 100社（27位）」に選定
- 6月 • 「Work & Family in 2017」を受賞（シスメックス ヨーロッパ）
- 4月 • 平成29年度文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2017」に選出（シスメックス アメリカ）
- 2月 • 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の初年度の認定
- 2月 • 平成28年度 第20回環境コミュニケーション大賞 優良賞（第20回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）受賞（「シスメックス あんしんレポート 2016」）
- 1月 • 2017年版「Global 100」（世界で最も持続可能な100社）に3回目の選出

## 2016年

- 11月 • 平成28年度近畿地方発明表彰において、「文部科学大臣賞」1件と「発明奨励賞」3件を受賞
- 11月 • シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス マレーシアが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2016」に選出
- 10月 • 日経「人を活かすランキング」にて27位/462社
- 9月 • 女性活躍推進法「えるぼし（最高位の3段階目）」マークの認定
- 9月 • 「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」に初選定
- 9月 • 当社の自動血液凝固測定装置が「第5回分析機器・科学機器遺産」に認定
- 9月 • Forbes Japanの「日本を動かす経営者」で5位、「世界で最もイノベティブな企業」28位にランキング
- 8月 • 「世界初・糖鎖を使った肝線維化診断システムの実用化」において、第14回産学官連携功労者表彰「経済産業大臣賞」を受賞
- 6月 • シスメックス国際試薬 小野工場が小野市防火協会優良事業所賞表彰
- 5月 • Confirmit社「ACE-Award」（Voice of Customer部門、Contact Center部門）を受賞（シスメックス アメリカ）
- 3月 • 働きがいのある会社「Great Place to Work」に選定（シスメックス ヨーロッパ）
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2016」に選出（シスメックス アメリカ）

## 2015年

- 12月 • 台湾FDAが法制化を進めるIVD（体外診断用医薬品）業界における「Good Distribution Practice（GDP）※」の体制整備の取り組みが模範であるとして表彰（シスメックス 台湾）  
※ 製造業者で生産され、流通・保管を通してお客様に届けられる医薬品が、生産されたときの品質（有効性・安全性）を維持し続けることを保証し、また盗難、事故を避け、偽薬や改ざんされた製品が供給ルート中で混入することを防止するための規範。
- 11月 • 日本IR協議会 第20回「IR優良企業大賞」を受賞
- 10月 • 日本証券アナリスト協会「ディスクロージャー優良企業」および「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 10月 • 近畿地方発明表彰において特許庁長官奨励賞（1件）と発明奨励賞（3件）を受賞
- 10月 • アイスクエアが、加古川市「景観まちづくり賞」デザイン部門で表彰
- 10月 • 日経「人を活かす会社」ランキング 総合24位/454社
- 8月 • 米国「2014ビジョン・アワード」のヘルスケア（機器）部門において「アニュアルレポート2014」がゴールド賞を受賞
- 7月 • アジアの働きやすい会社「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2015」に選定（シスメックス アジア・パシフィック）
- 6月 • 「血液凝固分析装置」と「作業手順表示方法および作業手順表示システム」が平成27年度兵庫県発明賞を受賞
- 5月 • Confirmit社「ACE-Award」を受賞（シスメックス アメリカ）
- 4月 • 働きがいのある会社「Great Place to Work Brazil」に選定（シスメックス ブラジル）
- 3月 • 第18回環境コミュニケーション大賞において「シスメックスあんしんレポート2014」が優良賞を受賞
- 3月 • 東洋経済『新入社員に優しい「ホワイト企業」トップ300』1位に選出
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2015」に選出（シスメックス アメリカ）

## 2017年度実績データ

### 社会性データ

#### お客様関連

項目	2015年度	2016年度	2017年度	関連記事
シスメックスカスタマーサポートセンターへのお問い合わせ（件）	95,929	88,909	89,583	<a href="#">詳細</a>
米国のお客様満足度※ （点/10点満点） ※ シスメックス アメリカによる調査。	9.1	9.2	9.3	<a href="#">詳細</a>
米国のお客様満足度※ （点/10点満点） ※ IMV Service Trackによる調査。	9.09	9.32	9.4	<a href="#">詳細</a>

#### 従業員関連（シスメックス株式会社の実績数値）

項目	2015年度	2016年度	2017年度	関連記事	
新卒採用	合計（名）	59	68	64	<a href="#">詳細</a>
	男性（名）	40	38	32	
	女性（名）	19	30	32	
	うち外国人（名）	12	15	5	
中途採用	合計（名）	70	73	30	<a href="#">詳細</a>
	男性（名）	50	56	23	
	女性（名）	20	17	7	
	うち外国人（名）	1	4	2	
離職※ ※ 正社員のみ、定年退職を除く。	離職者（名）	40	74	101	-
	離職率（％）	1.97	3.22	4.34	
障がい者雇用※ ※ シスメックスハーモニーの設立に伴い、2017年度以降はシスメックス単体ではなく日本地域の国内関係会社全体での雇用率を公表数値に起用。	雇用者数（名）	50	54	単体 51 日本地域ALL 69	<a href="#">詳細</a>
	雇用率（％）	1.82	1.94	単体 1.84 日本地域ALL 2.04	
定年退職者再雇用	希望者（名）	25	22	38	<a href="#">詳細</a>
	再雇用者（名）	25	22	38	
	再雇用率（％）	100	100	100	

育児・介護理由の 退職者再雇用	新規登録者（名）	6	5	3	詳細
	再雇用者（名）	1	0	0	
	再雇用率（％）	17	0	0	
正社員への登用実績	契約社員（名）	17	7	16	詳細
	派遣社員（名）	2	4	10	
	合計（名）	19	11	26	
労働災害	労災による死亡（名）	0	0	0	詳細
	労災によるけが（名）	7	3	2	
	労働災害度数率	1.27	0.53	0.35	
	労働災害強度率	0.07	0.09	0.05	
	延べ労働 損失日数（日）	386	494	308	
	延べ実労働 時間数（時間）	5,499,593.25	5,641,249.00	5,635,447.00	
有給休暇	付与日数（日）	49,534	51,667	49,177	詳細
	取得日数（日）	27,605.50	31,305.00	32,063.00	
	取得率（％）	55.7	60.6	65.2	
産前産後休職利用者（名）		39	48	39	詳細
育児休業利用者	女性（名）	32	56	32	
	男性（名）	2	3	1	
育児のための勤務時間短縮制 度利用者	女性（名）	50	47	58	
	男性（名）	0	0	1	
介護休業利用者	女性（名）	1	2	5	
	男性（名）	1	0	0	
育児休業からの復帰率	女性（％）	100	98	97	
	男性（％）	100	100	100	
積立有給休暇利用者（名）		77	78	104	
フレックスタイム利用者（名）		1,742	1,949	2,086	
社内託児所利用児童	年間延べ（名）	33	32	34	
	年度末時点（名）	28	26	30	
研修実績※ ※ 派遣社員・ アルバイト・ 役員などを除く。	従業員1人当たり 費用（円）	179,000	108,000	103,000	詳細
	従業員1人当たり 時間（時間）	22.6	19.4	15.4	
	研修プログラム数（個）	23	23	14	
インターンシップ生 受け入れ人数	合計（名）	157	135	128	詳細
	うち外国人（名）	5	1	9	

注）定義の変更に伴い、過去の開示データから一部修正しています。

	2015年度	2016年度	2017年度
従業員数（名）※1	2,031（484）	2,083（497）	2,046（504）
平均年齢（歳）	40.5	40.5	40.7
平均勤続年数（年）	11.5	11.6	12.0
平均年間給与（千円）※2	7,843	7,853	7,826

※1 従業員数はシスメックス株式会社から社外への出向者を除き、社外からシスメックス株式会社への出向者を含む就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を（ ）外数で記載。

※2 平均年間給与は、基準外賃金および賞与を含む。

#### 従業員関連（シスメックスの実績値）

項目		2015年度	2016年度	2017年度	関連記事
女性管理職比率 （課長級以上）	シスメックス株式会社（%）	8.3	8.8	8.6	詳細
	グループ全体（%）	14.3	16.2	15.2	

項目			2017年度	
グループ男女比率	日本	男性（%）	59.1	正社員、受入出向者、有期雇用 （役員、派遣社員除く）
		女性（%）	40.9	
	米州	男性（%）	63.7	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性（%）	36.3	
	EMEA※	男性（%）	55.7	
		女性（%）	44.3	
	中国	男性（%）	65.7	
		女性（%）	34.3	
	アジア・パシフィック	男性（%）	61.4	
		女性（%）	38.6	



項目			2017年度			
グループ 従業員数	日本	男性（名）	2,077	正社員、受入出向者、有期雇用 （役員、派遣社員除く）		
		女性（名）	1,440			
	米州	男性（名）	740	正社員、受入出向者、有期雇用、役員		
		女性（名）	422			
	EMEA※	男性（名）	1,318			
		女性（名）	1,049			
	中国	男性（名）	412			
		女性（名）	215			
	アジア・ パシフィック	男性（名）	474			
		女性（名）	298			
		合計（名）			8,445	

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

#### 社会貢献活動関連

項目	2017年度
社会貢献支出額（シスメックス株式会社）	約5億1,000万円

## 環境データ

### マテリアルバランス

▶ パフォーマンスデータの詳細はこちらをご覧ください。 



- 1▶ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場  
 [国内主要事業所]シスメックス株式会社（本社・テクノパーク・ソリューションセンター）  
 [国内機器工場]シスメックス株式会社（加古川工場・アイスクエア）、シスメックスメディカ、シスメックスRA  
 [国内試薬工場]シスメックス国際試薬（小野工場・西神工場）  
 [国内営業拠点]シスメックス株式会社  
 1支社（東京）、6支店（仙台・北関東・名古屋・大阪・広島・福岡）、13営業所（札幌・盛岡・長野・新潟・千葉・横浜（2015年度から対象）・静岡・金沢・京都・神戸・高松・岡山・鹿児島）、1サービスセンター（首都圏サービスセンター）、シスメックスCNA  
 [国内その他事業所]シスメックス株式会社（研究開発センター・タンパク質開発センター・BMAラボラトリー・グローバルコミュニケーションセンター（2015年度から対象）・走心寮（2015年度から対象）・スカイフロントリサーチキャンパス（2017年度から対象））  
 [海外主要拠点]シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック  
 [海外試薬工場]シスメックス ヨーロッパ（ドイツ試薬生産工場）、シスメックス ブラジル、シスメックス リージョンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫
- 2▶ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場  
 （1を参照）
- 3▶ 国内主要事業所（本社除く）、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場  
 （1を参照）
- 4▶ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所  
 （1を参照）
- 5▶ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場  
 （1を参照）
- 6▶ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外試薬工場  
 （1を参照）

## シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）実績 （集計範囲については各関連記事に記載）

項目	2015年度	2016年度	2017年度	関連記事
物流におけるCO <sub>2</sub> 排出量 単体売上高原単位（t-CO <sub>2</sub> /億円）	3.794	4.937	4.924	<a href="#">詳細</a>
事業所での温室効果ガス排出量 連結売上高原単位（t-CO <sub>2</sub> /億円）	7.26	7.36	7.16	<a href="#">詳細</a>
事業所のリサイクル率（%）	89.0	91.8	91.3	<a href="#">詳細</a>
試薬工場での水使用量 生産量原単位（m <sup>3</sup> /千箱）	25.9	25.4	23.2	<a href="#">詳細</a>

# 主な環境負荷に関わる指標と実績

## シスメックスグループ環境行動計画 シスメックス・エコビジョン2020 に関するデータ

側面	内容			単位	適用対象 <sup>(※2)</sup>	基準年度		
						年度	データ	
製品・サービス等の環境配慮	温室効果ガス排出量 GHGスコープ3 <sup>(※1)</sup>	物流におけるCO <sub>2</sub> 排出量	製品の国内への物流	t-CO <sub>2</sub>	シスメックス株式会社	2010	5,399.84	
			製品の海外への物流			2010		
		物流におけるCO <sub>2</sub> 原単位排出量	製品の国内および海外への物流	t-CO <sub>2</sub> /億円		2010	7.252	
		原単位分母	シスメックス株式会社 単体売上高	億円		2010	744.60	
事業所の環境配慮	温室効果ガス排出量 GHGスコープ1+ スコープ2 <sup>(※1)</sup>	総排出量	都市ガス、LPG、LNG、 重油、灯油、軽油、電力	t-CO <sub>2</sub>	国内主要事業所、 国内機器工場、 国内試薬工場	2008	7,080.93	
					海外主要拠点、 海外試薬工場	2008	4,191.63	
		原単位総排出量	都市ガス、LPG、LNG、 重油、灯油、軽油、電力	t-CO <sub>2</sub> / 億円	国内主要事業所、国内機器工場、 国内試薬工場、海外主要拠点、 海外試薬工場	2008	10.08	
		原単位分母	連結売上高	億円	—	2008	1,118.42	
	廃棄物の排出量	総排出量		t	国内主要事業所、 国内機器工場、 国内試薬工場、 海外試薬工場	2008	872.28	
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物				2008	670.78	
		リサイクル率(エネルギー回収を含む)廃棄物		%		2008	76.9	
	水使用量	地下水			千m <sup>3</sup>	国内試薬工場	2008	—
						海外試薬工場	2008	—
		水道				国内試薬工場	2008	—
海外試薬工場						2008	—	
総使用量				2008		228.35		
原単位総使用量		m <sup>3</sup> /千箱	国内試薬工場、 海外試薬工場	2008		21.49		
原単位分母	生産箱数	千箱			2008	10,625.87		

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度		カバー率 母集団 <sup>(※4)</sup>	算定方法など	GRI スタンダード 指標番号	
	データ	データ	データ	データ	データ	カバー率 <sup>(※3)</sup>				
	1,237.00	1,112.00	1,213.00	1,181.51	1,234.61	-	-	日本の各工場から物流倉庫まで、物流倉庫から国内お客様など(支店・営業所を含む)までの物流CO <sub>2</sub> 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO <sub>2</sub> 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	305-03 305-04 305-05	
	4,251.00	3,971.00	4,222.00	5,682.54	5,850.44	-	-	物流倉庫から日本の港(空港)までの物流CO <sub>2</sub> 排出量(海外顧客向け)、日本の港(空港)から海外各地域の港(空港)までの物流CO <sub>2</sub> 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO <sub>2</sub> 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。		
	5.348	4.170	3.794	4.937	4.924	-	-			
	1,026.17	1,218.94	1,432.43	1,390.40	1,438.80	-	-			
	7,532.00	8,138.00	8,240.00	7,669.30	7,774.30	33.18%	8,872	エネルギーの種類ごとの使用量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):(化石燃料)地球温暖化対策法に基づく2008年度のCO <sub>2</sub> 排出係数。都市ガスについては大阪ガスから供給されるガス(13A)を前提(海外事業所についても同じ係数を適用) (電力)地球温暖化対策法に基づく、各工場・事業所の供給元の電力会社が公表する2008年度のCO <sub>2</sub> 排出係数(クレジット調整前のもの)	305-01 305-02 305-04 305-05	
	7,199.00	7,980.00	10,130.00	10,719.50	12,410.79	24.83%	8,872	エネルギーの種類ごとの使用量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):(化石燃料)地球温暖化対策法に基づく2008年度のCO <sub>2</sub> 排出係数。都市ガスについては大阪ガスから供給されるガス(13A)を前提(海外事業所についても同じ係数を適用) (電力)GHGプロトコル(WBCSD/WRI)に記載の国別排出係数(2005年)		
	7.98	7.28	7.26	7.36	7.16	58.01%	8,872			
	1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99	2,819.35	-	-			
	1,056.90	1,341.20	1,502.80	1,347.08	1,385.51	43.80%	8,872	廃棄物のうち、再使用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマルリサイクル)したものの量。	306-02	
	941.60	1,212.60	1,338.00	1,237.12	1,265.35					
	89.1	90.4	89.0	91.8	91.3					
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	24.09%	1,241	自家用地下水使用量。	303-01	
	8.46	9.25	9.70	12.70	12.42	75.90%	1,241			
	66.72	66.00	63.00	66.11	68.74	24.09%	1,241	上水使用量、工業用水使用量。		
	174.02	188.56	216.90	223.41	215.54	75.90%	1,241			
	249.20	263.81	289.60	302.23	296.70	100%	1,241			
	22.04	21.40	25.91	25.39	23.17					
	11,305.00	12,327.00	11,177.00	11,905.80	12,804.77	-	-	試薬工場で製造された当社専用試薬の年間生産箱数。		

環境パフォーマンスに関するデータ

側面	内容		単位	適用対象(※2)	
INPUT	エネルギー消費量	非再生可能エネルギー消費量	電力(非再生可能)	千kwh	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
			都市ガス	千m <sup>3</sup>	
			LPG	t	
			LNG	t	
			重油	kL	
			灯油	kL	
			軽油	kL	
		再生可能エネルギー消費量	電力(再生可能)	千kwh	
		総消費量		GJ	
		その他非再生可能エネルギー消費量	ガソリン(社用車)	kL	
	軽油(社用車)				
	非再生可能エネルギー原単位消費量	電力(非再生可能)	千kwh/億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場	
		都市ガス	千m <sup>3</sup> /億円		
		LPG	t/億円		
		LNG	t/億円		
		重油	kL/億円		
		灯油	kL/億円		
		軽油	kL/億円		
	再生可能エネルギー原単位消費量	電力(再生可能)	千kwh/億円		
	原単位総消費量		GJ/億円		
原単位分母	連結売上高	億円	—		
エネルギー消費の削減量	非再生可能エネルギー消費削減量	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力	GJ	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場	
	再生可能エネルギー消費削減量	電力			
	総消費削減量				
	非再生可能エネルギー原単位消費削減量	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力	GJ/億円		
	再生可能エネルギー原単位消費削減量	電力			
	原単位総消費削減量				
水使用量	地下水	千m <sup>3</sup>	国内主要事業所(本社除く)、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場		
	水道				
	総使用量				
	原単位総使用量	m <sup>3</sup> /億円			
	原単位分母	連結売上高		億円	—

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度		カバー率 母集団 <sup>(※4)</sup>	算定方法など	GRI スタンダード 指標番号
	データ	データ	データ	データ	データ	カバー率 <sup>(※3)</sup>			
	31,525.65	35,779.00	37,233.00	37,193.25	38,868.50	67.40%	8,872		302-01 302-03
	1,185.34	851.98	1,543.97	1,473.61	734.00				
	12.38	15.11	19.39	21.09	20.88				
	0.00	0.00	0.00	0.00	799.00				
	0.00	0.00	0.00	0.00	35.00				
	67.60	70.17	35.02	30.65	314.17				
	18.72	18.91	18.84	21.17	317.25				
	100.46	209.42	243.00	210.01	1,301.84				
	368,227.36	395,042.86	439,653.70	440,124.47	490,098.77	42.57%	8,872	エネルギーの種類ごとの消費量に換算係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
	794.69	777.51	749.86	733.66	689.39				
	11.72	19.68	23.53	25.10	23.27	67.40%	8,872	日本国内における社用車のガソリン消費量。 日本国内における社用車の軽油消費量。	
	17.084	16.162	14.707	14.883	13.786				
	0.642	0.385	0.610	0.590	0.260				
	0.007	0.007	0.008	0.008	0.007				
	0.000	0.000	0.000	0.000	0.283				
	0.000	0.000	0.000	0.000	0.012				
	0.037	0.032	0.014	0.012	0.111				
	0.010	0.009	0.007	0.008	0.113				
	0.054	0.095	0.096	0.084	0.462	-	-		
	199.540	178.449	173.668	176.121	173.834				
	1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99	2,819.35	67.40%	8,872	(当年度の消費エネルギー)-(前年度の消費エネルギー) ▲は前年度からの増加を示す。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	302-03 302-04
	▲45,821.51	▲26,815.11	▲44,610.71	▲470.89	▲49,970.37				
	▲0.07	▲0.39	▲0.12	0.12	▲3.93				
	▲45,821.58	▲26,815.50	▲44,610.84	▲470.77	▲49,974.30	67.40%	8,872	(当年度の消費エネルギー)-(前年度の消費エネルギー) ▲は前年度からの増加を示す。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
	21.927	21.091	4.780	▲2.453	2.288				
	0.000	0.000	0.000	0.000	▲0.001	41.72%	8,872	自家用地下水使用量。 上水使用量、工業用水使用量。	303-01
	21.927	21.091	4.780	▲2.453	2.287				
	44.47	51.24	50.29	58.30	53.13				
	299.94	316.97	340.80	347.79	342.28	-	-		
	344.40	368.21	391.09	406.09	395.41				
	186.630	166.329	154.486	162.502	140.248				
	1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99	2,819.35				

側面	内容		単位	適用対象(※2)	
INPUT	OA用紙使用量		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場	
	PRTRインプット		取扱量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所
OUTPUT	温室効果ガス排出量 GHGスコープ1(※1)	国内	都市ガス、LPG、LNG、 重油、灯油、軽油	t-CO <sub>2</sub>	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所
		海外			海外主要拠点、海外試薬工場
		総排出量		t-CO <sub>2</sub> /億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
		原単位総排出量			—
		原単位分母			連結売上高
	温室効果ガス排出量 GHGスコープ2(※1)	国内	電力	t-CO <sub>2</sub>	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所
		海外			海外主要拠点、海外試薬工場
		総排出量		t-CO <sub>2</sub> /億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
		原単位総排出量			—
		原単位分母			連結売上高
	温室効果ガス排出量 GHGスコープ3(※1)	物流におけるCO <sub>2</sub> 排出量	製品の国内への物流	t-CO <sub>2</sub>	シスメックス株式会社
			製品の海外への物流	t-CO <sub>2</sub>	
		物流におけるCO <sub>2</sub> 原単位排出量	製品の国内および海外への物流	t-CO <sub>2</sub> /億円	
		原単位分母	シスメックス株式会社 単体売上高	億円	
社用車CO <sub>2</sub> 総排出量		t-CO <sub>2</sub>	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所		
社用車CO <sub>2</sub> 原単位総排出量		t-CO <sub>2</sub> /億円			
原単位分母		シスメックス株式会社 単体売上高	億円	シスメックス株式会社	



2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度		カバー率 母集団 <sup>(※4)</sup>	算定方法など	GRI スタンダード 指標番号
				データ	カバー率 <sup>(※3)</sup>			
50.46	48.79	44.48	41.69	45.25	33.18%	8,872		
7.88	0.15	0.13	0.06	0.08	42.57%	8,872	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR取扱量。	
1,096.70	806.50	865.00	501.00	493.36	42.57%	8,872	エネルギーの種類ごとの消費量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	305-01 305-04 305-05
2,147.70	1,430.20	2,892.10	3,057.60	4,541.90	24.83%	8,872	エネルギーの種類ごとの消費量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
3,244.40	2,236.70	3,757.10	3,558.60	5,035.26	67.40%	8,872		
1.758	1.010	1.484	1.424	1.786				
1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99	2,819.35	-	-		
11,869.90	12,635.30	13,040.60	11,915.90	12,079.36	42.57%	8,872	各事業所の電力使用量に電力会社ごとの排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	305-02 305-04 305-05
5,099.30	6,559.20	7,237.50	7,285.40	7,868.88	24.83%	8,872	各事業所の電力使用量に国ごとの排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):GHGプロトコル(WBCSD/WRI)に記載の国別排出係数(2005年)。	
16,969.20	19,194.50	20,278.10	19,201.30	19,948.25	67.40%	8,872		
9.196	8.671	8.010	7.684	7.075				
1,845.38	2,213.76	2,531.57	2,498.99	2,819.35	-	-		
1,237.00	1,112.00	1,213.00	1,181.51	1,234.61	-	-	日本の各工場から物流倉庫まで、物流倉庫から国内お客様など(支店・営業所を含む)までの物流CO <sub>2</sub> 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO <sub>2</sub> 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	305-03 305-04 305-05
4,251.00	3,971.00	4,222.00	5,682.54	5,850.44	-	-	物流倉庫から日本の港(空港)までの物流CO <sub>2</sub> 排出量(海外お客様向け)、日本の港(空港)から海外各地域の港(空港)までの物流CO <sub>2</sub> 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO <sub>2</sub> 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	
5.348	4.170	3.794	4.937	4.924	-	-		
1,026.17	1,218.94	1,432.43	1,390.40	1,438.80	-	-		
1,830.26	1,856.25	1,802.01	1,768.43	1,660.93	42.57%	8,872	日本国内における社用車のガソリン、軽油の消費量にそれぞれ排出係数を乗じ、総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
1.784	1.523	1.258	1.272	1.154				
1,026.17	1,218.94	1,432.43	1,390.40	1,438.80	-	-		

側面	内容		単位	適用対象(※2)
OUTPUT	廃棄物の排出量	総排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外試薬工場
		総排出量(国内営業拠点含まない)	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場
		マテリアルリサイクル廃棄物		
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物		
		マテリアルリサイクル率	%	
	リサイクル率(エネルギー回収を含む)			
	水排出量	総排出量	千m <sup>3</sup>	国内主要事業所(本社除く)、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場
PRTRアウトプット	排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
	移動量			
コンプライアンス	環境法規制の違反	高額罰金の総額	億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
		罰金以外の制裁措置総件数	件	
	重大な化学物質の漏出・紛失	総件数	件	
		総漏出量	t	

(※1) GHG スコープ1: 企業の施設や工場から直接排出される温室効果ガスを算定・報告する基準。(社用車の使用は含まない。)

GHG スコープ2: エネルギーの使用に伴う、企業から間接排出される温室効果ガスを算定・報告する基準。

GHG スコープ3: 商品・サービスに関わる企業群(サプライチェーン)全体から排出される温室効果ガスを算定・報告する基準。(社用車の使用を含む。)

(※2) 国内主要事業所: シスメックス株式会社(本社・テクノパーク・ソリューションセンター)

国内機器工場: シスメックス株式会社(加古川工場・アイスクエア)、シスメックスメディカ、シスメックスRA

国内試薬工場: シスメックス国際試薬(小野工場・西神工場)

国内営業拠点: シスメックス株式会社(1支社(東京)、6支店(仙台・北関東・名古屋・大阪・広島・福岡)、13営業所(札幌・盛岡・長野・新潟・千葉・横浜(2015年度から対象)・

静岡・金沢・京都・神戸・高松・岡山・鹿児島)、1サービスセンター(首都圏サービスセンター))、シスメックスCNA

国内その他事業所: シスメックス株式会社(研究開発センター・タンパク質開発センター・BMAラボラトリー・グローバルコミュニケーションセンター(2015年度から対象)・

走心寮(2015年度から対象)・スカイフロントリサーチキャンパス(2017年度から対象))

海外主要拠点: シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック

海外試薬工場: シスメックス ヨーロッパ(ドイツ試薬生産工場)、シスメックス ブラジル、シスメックス リーゼンツ・アメリカ、シスメックス インディア、

シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

(※3) カバー率は、従業員数を基に算出。

(※4) カバー率母集団は、グループ従業員数。ただし、シスメックス環境行動計画シスメックス・エコビジョン2020>事業所の環境配慮>水使用量のみ、グループ試薬工場従業員数。

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度		カバー率 母集団 <sup>(※4)</sup>	算定方法など	GRI スタンダード 指標番号
				データ	カバー率 <sup>(※3)</sup>			
1,274.16	1,556.76	1,701.35	2,105.50	1,778.26	53.19%	8,872		306-02
1,109.82	1,419.19	1,534.63	1,436.45	1,404.64	44.43%	8,872	廃棄物のうち、第三者による処理の結果、有価物になったものの量。 燃料化(RPFなど)したものも含む。  廃棄物のうち、再使用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマル リサイクル)したものの量。	
600.51	788.13	986.44	814.25	1,169.09				
988.45	1,282.60	1,410.97	1,308.91	1,294.89				
54.11	55.53	64.28	56.68	83.23				
89.06	90.38	91.94	91.12	92.19				
144.36	163.83	191.66	188.75	221.00	41.72%	8,872		
0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	42.57%	8,872	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR排出量。	
4.84	0.00	0.00	0.00	0.00			化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR移動量。	
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	67.40%	8,872		307-01
0	0	0	0	0				
1	0	0	0	0				
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				306-03

## 2017年度実績データ

### ガバナンスデータ

#### 医療機関等への資金提供等に関する情報※

日本

種類	詳細	2016年度 (単位：千円)
研究費開発費等	大学や研究機関等との共同研究または委託研究、公的規制のもとで実施される臨床試験、治験、製造販売後臨床試験、製造販売後調査、および企業が独自に行う調査等の費用が含まれます。	132,346
学術研究助成費	医療技術の学術振興や研究助成を目的として行われる奨学寄付金、一般寄付金、および学会等の会合開催を支援するための学会寄付金、学会共催費が含まれます。	1,950,673
原稿執筆料等	医学・薬学に関する情報、自社製品の適正使用等に関する情報等を提供するための講演や原稿執筆、コンサルティング業務の依頼に対する対価（報酬）等が含まれます。	39,246
情報提供関連費	医療関係者に対する自社製品の適正使用、安全使用のために必要な講演会、模擬実技指導、説明会等の費用が含まれます。	157,657
その他の費用	社会的儀礼としての接遇等の費用が含まれます。	21,373
合計金額		2,301,298

米国 サンシャイン法

種類		2015年	2016年	2017年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	443	242	477
	金額	US \$190,638	US \$137,658	US \$99,210
研究	件数	7	21	26
	金額	US \$76,061	US \$209,370	US \$342,614

フランス サンシャイン法

種類		2015年	2016年	2017年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	228	226	344
	金額	€ 21,899	€ 29,509	€ 23,763
役務に対する報酬	件数	1	1	8
	金額	€ 4,000	€ 4,000	€ 51,276
契約	件数	4	12	14

## ベルギー サンシャイン法

種類		2015年	2016年	2017年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	-	-	6
	金額	-	-	€ 11,563

※ 当情報は、行政当局または医療機関等による確認等を通じ修正されることがあります。

### 公開対象

#### 米国

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品、研究）

- 米国の医師
- 米国の教育研究病院

#### フランス

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品、役務に対する報酬、契約）

- フランスの医師、医療専門家、医学生
- フランスの医療関連法人（教育機関、企業等）

フランスのサンシャイン法では、契約金額は公開対象ではありません。

#### ベルギー

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品）

- ベルギーの医療従事者
- ベルギーの医療関係の団体
- ベルギーの患者団体

▶ [その他のガバナンスデータについてはこちらをご覧ください。](#)

会社概要

(2018年3月31日現在)

社名	シスメックス株式会社	本社	〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
設立	1968年2月20日	事業内容	臨床検査機器、検査用試薬ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
資本金	122.76億円	従業員数	連結：8,445名（嘱託・パートタイマーなどを含む）
代表者	代表取締役会長兼社長 CEO 家次 恒		

情報開示体系

### 非財務情報

**CSR (企業の社会的責任) サイト**  
<http://www.sysmex.co.jp/csr/>

シスメックスCSR 検索



サステナビリティへの取り組みについて詳細を開示しています。

■サステナビリティレポート「シスメックスあんしんレポート」(年度報告書)  
PDF



**コーポレート・ガバナンスに関する報告書**

### 財務情報

**IR情報サイト**  
<http://www.sysmex.co.jp/ir/>

シスメックスIR 検索

財務情報や株式・株主情報を詳細に開示しています。

■有価証券報告書  
■決算短信 など



### 統合報告書

**「シスメックスレポート」(年度報告書)**

中長期的な価値創造の観点から財務・非財務情報を簡潔にまとめた統合報告書を作成しています。



編集方針

シスメックスは、企業としての社会的責任 (CSR) に関する考え方とその活動をステークホルダーの皆様にお伝えし、当社への理解・信頼を深めていただくことを目的として、サステナビリティレポート「シスメックスあんしんレポート」を毎年発行しています。

参考にしたガイドライン

- ・ GRI (Global Reporting Initiative)  
「GRIサステナビリティ・レポートング・スタンダード」
- ・ 環境省「環境報告ガイドライン (2012年版)」

対象組織

原則としてシスメックス (シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社) を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス株式会社」は、シスメックス株式会社単体を指します。

対象期間

2017年度 (2017年4月1日から2018年3月31日) を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。最新情報については、CSRサイトのCSRニュースでお伝えします。

発行時期

2018年7月 (前回の発行は2017年7月)

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社 CSR・環境推進部  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号  
Tel 078-265-0500 (代表) Fax 078-265-0524

将来に関する予測・計画について

本報告書には、シスメックスに関する過去の事実だけでなく、将来の予測・計画なども記載しています。これらの予測・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。従って、将来の事業活動の結果や将来に起こる事象が本報告書に記載した予測・計画とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご承知いただきますようお願いいたします。



---

シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

[www.sysmex.co.jp](http://www.sysmex.co.jp)